

平成 13・14 年度科学研究費補助金（基礎研究 C）研究成果報告書

客観的な評価をめざすループリックの研究開発

（課題番号 30214589）

平成 15 年 3 月

研究代表者 河合 久

（国立教育政策研究所 研究企画開発部 企画調整官）

はしがき

平成14年度から小学校・中学校で新しい学習指導要領が実施されている。

この新しい学習指導要領の導入に伴い、学校ではこれまでに教師が経験したことのない「総合的な学習」に本格的に取り組むことになった。先生たちに不安・戸惑いが見られる。

このような状況は予想された。そこで、先生たちがどのように「総合的な学習」に取り組む、どのようにその学習活動を評価すべきか、ということに関して何らかの情報を提供することができないかと考え、欧米でよく使われているルーブリックによる学習と評価方法を紹介することにした。

ルーブリックという語は日本ではほとんど知られていない。英和辞典にも英英辞典にもいまだに教育現場で使われている意味での定義が掲載されていない。教育用語としてはいろいろな定義がなされているが、その中からわかりやすいものを引用すると、次のような説明がある。

「印刷されたガイドライン（指針）であり、それにより作品ややったことの質の違いがわかるようにしているものである」（グラント・ウィギンズ）

ルーブリックは、記述的な表現で、乗り越えるべきハードルを明確に示している。したがって、児童生徒にとっては、目指す目標が明確になり、それに向けた努力がしやすくなるというメリットがある。例えば、作文を書く場合、ルーブリックが生徒にあらかじめ示されていれば、生徒はどのような点に注意して書かねばならないのかがわかる。また、その作文が先生に評価され生徒の元に返ってきたときに、どの面が弱くどのようにすれば良い作文になるかが見えてくるのである。これは、生徒やその保護者に対してアカウントビリティ（説明責任）に応えることにもなるのである。

この研究をまとめるにあたり、インターネットを活用して海外の文献や資料を集め、ルーブリックの長所と短所、効果的な利用方法等についてまとめたが、資料の翻訳には多くの人の協力を得た。また、学校の協力を得てルーブリックを利用した授業を行っていただき、子供たちの感想を聞くことができた。さらに、国際バカロレアの教師研修に参加する機会が与えられ、実際にルーブリックの利用について学ぶことができた。ご協力いただいた各位に心から感謝申し上げたい。

平成15年3月

研究代表者 河合 久

研究組織

研究代表者 河合 久 (国立教育政策研究所研究企画開発部)

研究分担者 齋藤 道子 (国立教育政策研究所教育研究情報センター)
鳩貝 太郎 (国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部)
岩崎久美子 (国立教育政策研究所生涯学習政策研究部)

科学研究費補助金額

平成 13 年度 1, 7 0 0 千円
平成 14 年度 1, 7 0 0 千円

目次

はしがき

目次

研究成果の概要..... v

第1章 ルーブリックとは..... 1

- 1 ルーブリックの定義及び類似語との違いについて
- 2 ルーブリックの種類と使い分け

第2章 ルーブリックの特徴と作成方法..... 7

- 1 ルーブリックの特徴
- 2 良いルーブリックの特徴
- 3 ルーブリックの作成方法
- 4 ルーブリックのテクニカル要件

第3章 ルーブリックの効果..... 11

- 1 指導者側からの使用後の感想・意見
- 2 児童生徒の感想・意見
- 3 日本の小学校での実践例から
- 4 作文の指導でどのくらい効果が期待できるか

第4章 国際バカロレアプログラムの評価基準..... 23

- 1 中等課程プログラムのパーソナルプロジェクトの評価基準
- 2 ディプロマ・プログラムのCASの評価基準

第5章 リソース..... 41

資料

- 資料1. ルーブリックの欠点と長所 45
- 資料2. ルール通りに文章を書くのはやさしいことではない 52
- 資料3. 「交渉協定」によるルーブリック創りと評価 55
- 資料4. 中等学校でのルーブリックの使用について 63
- 資料5. ルーブリックについての生徒の意見 90
- 資料6. 6+1トレイツTMによる分析的作文評価の指針 93
- 資料7. 口頭発表のルーブリック 102
- 資料8. Web ページのルーブリック 103

研究成果の概要

本報告書は平成 13～14 年度の文部科学省研究補助金による「客観的な評価をめざすルーブリックの研究開発」の研究成果をまとめたものである。研究の目的。研究活動および成果の概要は、以下のとおりである。

1. 研究目的

平成 14 年度から小学校・中学校では新学習指導要領が導入され、それに伴い生徒の学習の評価方法が大きく変った。また、学校ではこれまでに教師が経験したことのない「総合的な学習」に取り組まねばならなくなった。未知との遭遇により学校現場では不安や戸惑いを隠しきれない。このような状況下で、これらの不安・戸惑いを少しでも軽減するような情報を提供することができないかと考えた。

そこで、欧米でよく使われているルーブリックを紹介することを思いついた。米国では最近とくにプロジェクト学習の評価や州のカリキュラムの達成度の評価の手段としてルーブリックが使われていて、その有効性が認められている。より客観的な評価を可能にするこのルーブリックは、日本の「総合的な学習」の指導と評価にも非常に有効であると考え、より詳しい情報を求め、分かりやすく説明した報告書を作成し、日本の多くの先生たちに読んでいただこうと考えた。

ルーブリックは、乗り越えるべきハードルを明確に示すものなので、児童生徒は目指す目標が明確になり、それに向けた努力がしやすくなるというメリットがある。例えば、作文の評価のようなものでもルーブリックが生徒にあらかじめ示されていれば、生徒はどのような点に注意して書かねばならないのか。またその作文が先生に評価され生徒の元に返ってきたときに、どの面が弱くどのようにすれば良い作文になるかが見えてくるのである。これは、生徒や親に対してアカウントビリティ（説明責任）に応えることにもなるのである。

2. 研究活動の概要

ルーブリックについては、国内での研究はほとんどないに等しいので、海外の文献・資料や海外の実践例から学ぶことから始めなければならなかった。

海外の文献調査についてはインターネットを大いに活用し、大量の文献・資料を入手することができた。海外の実践例については、CRESST(the National Center for Research on Evaluation, Standards, and Student Testing)や NWREL(The Northwest Regional Educational Laboratory)を訪問し専門家から有益な情報を得ることができた。また、国際バカロレア機構の教師を対象としたワークショップに参加し、評価の実践を体験することができた。

1 年目の研究活動は、主としてルーブリックの長所と短所、効果的な使用方法等について海外の文献・資料の調査を行った。その成果はこの報告書の資料の部として翻訳し、掲載した。

2 年目は、日本でのルーブリックの使用とその効果を考察した。少数の先生たちにはあるが、このルーブリックについての授業での有効性を説明し、興味をいただいた先生に一

つのルーブリックを提供し、実際に理科のある単元をルーブリックを使い授業を進めていただいた。授業後の生徒の感想をいくつかこの報告書に紹介した。

3. 研究成果の概要

この研究では、主に米国で開発されているルーブリックについて調査研究をした。調査研究は下記のことを中心に行った。

- ・ルーブリックに関する海外の文献調査
- ・インターネットを利用して様々な学習場面で使われているルーブリックを収集
- ・既存のルーブリックを日本の学校の授業で実際に使用し、その効果を調査
- ・ルーブリックの信頼性を高めるための方策の研究

成果として、ルーブリックを使用することで下記のような利点があることが明らかになった。

- ・評価がより客観的で首尾一貫したものになる
- ・評価基準を事前に示すことで、児童生徒はどのように評価され、どのようなことが期待されているかが分かり、不安が減り、学習が促進される
- ・学習の進歩を測定するための判断基準となり、児童生徒や保護者に対する学習進捗状況の説明責任を果たすことが容易になる

ルーブリックの使用で教育成果を上げることができるとはいえ、問題がないわけではない。ルーブリックがあれば直ちに誰でも客観的で首尾一貫した評価ができるというわけではなく、やはり評価者を対象にしたトレーニングが必要であるということが多くの利用者から指摘されている。そこで、海外のウェブサイトから教師の研修で使われているサンプルを紹介した。具体的な生徒の作文に対するルーブリックによる採点のトレーニングができるような仕組みがなされているものである。

平成 14 年度から日本の小中学校で「総合的な学習」が始まり、学校ではその評価をどのようにするかということが当面の課題になっている。海外ではプロジェクト学習等の課題追究型の学習でルーブリックが盛んに利用されている。国際バカロレアのプログラムにも同様な学習があるので、その中から中等教育課程のパーソナルプロジェクトとディプロマ・プログラムの CAS の評価基準と評価方法を紹介した。

ルーブリックという語はこれまで日本の教育現場で耳にすることはなかったが、最近、ポートフォリオ評価という語とともに教育論文や図書で見かけることが増えてきた。しかし、それらの論文や図書においてもルーブリックに焦点を当てて紹介しているものはないので、実践的な側面を持っているこのルーブリックの研究と開発は意味のあることと考える。その研究と開発の手がかりになることを願い、インターネットを利用することによりルーブリックが入手できる主な海外のウェブサイトをもとめ報告書に紹介した。

第1章 ルーブリックとは

ルーブリックとは何か。この語をはじめて耳にする人も多いと思う。インターネットで「ルーブリック」という語をキーワードにしてどのくらいヒットするか調べてみたところ (<http://www.google.co.jp/>)、平成15年3月4日現在で、1,450件である。しかもよく見ると、これからこの報告書で説明しようと考えているものとは違うものがたくさん含まれている。¹

ところが、英語の rubric を同じサーチエンジン(検索ソフト)で調べると状況は一変する。もともと英語であるということ差し引いてもそのヒット数(約497,000件)に圧倒される。日本のサイトで拾ってしまったような違う意味での情報をできるだけ排除するために、assessment という語とともに rubric が使われている情報を取り出しても、約132,000件ヒットする。さらに条件を加えて、K-12(幼稚園から12学年生)とともに使われている rubric を調べても約19,600件のヒットがある。

もう一度日本語の「ルーブリック」に戻り、これにはどのような訳が与えられているか調べてみたが、「評価指標」(<http://www6.ocn.ne.jp/~kawachu1/portforio.pdf>)、「評価表」(<http://a-zoukei.hp.infoseek.co.jp/news2002-4-4-2.html>)、「評価規準」(<http://www.juen.ac.jp/syllabus/syll14/jmain/j5111.html>)、「評価基準表」(p.144 ポートフォリオで総合的な学習を創る—学習ファイルからポートフォリオへ 安藤輝次著 図書文化 2001)と様々である。「規準」と「基準」を含み、かつ「表」になっていることが多い。これらを一語で表現するのは難しい。従って、「ルーブリック」としているものが一番多い。筆者も「ルーブリック」という表現を採用し、以下、その意味するところや使用上の効果等を説明することにする。

1 ルーブリックの定義及び類似語との違いについて

ここでは、まず、ルーブリックとは辞書等ではどのようなものであると定義しているかをいくつか紹介し、次に、その類似語にチェックリストとベンチマークがあるが、それらとルーブリックとの違いは何であるか考察することにする。

ルーブリックの定義

rubric を小学館の「ランダムハウス英語辞典」(CD-ROM版)で引くと、次のように書いてある。他の出版社の辞典・辞書もほぼ同様な意味しか掲載していない。

n.

【1】(昔の写本などで赤字または装飾字字体で書かれた[印刷された]原稿・書物・法令などの)標題,項目,見出し,頭文字.

【2】〔教会〕ルブリカ,典礼執行規程,(ギリシア正教で)奉事規定,(プロテスタントで)礼拝規則,礼典法規:典礼,礼拝,奉神礼などの祈禱(きとう)式および秘跡,機密,礼

¹ 「イギリスの翻訳会社、ルーブリック社のトム・シャピロ氏は…」のような文脈で。

典の執行に当たってその言動の仕方を赤文字で典礼書に記している指示。

- 【3】 確立した慣習[手続き,形式,規程].
- 【4】 注釈,注解;(特に)編集者の朱筆[書き込み].
- 【5】 種類,部類,範疇(はんちゅう).
- 【6】 (古)代赭(たいしゃ)石(red ocher).

英和辞典でもこの程度であるので、和英辞典や国語辞典で「ルーブリック」を調べてみようという気にもならない。いくつか英英辞典で調べても英和辞典に書かれている以上の情報は得られなかった。

そこで、インターネットで探してみた。教育用語なので教育に関係するサイトの用語解説をしているページを探せばよい。サーチエンジンの google (<http://www.google.co.jp/>) で、rubric と glossary (用語解説) の両方を含むサイトを探すと、かなりの数がヒットする。そのヒットしたものを調べれば、意味がわかるということになる。rubric のいくつかの定義を紹介しておこう。

あるプロジェクトに期待されるものをはっきりさせ、具体的なフィードバックが得られるようにするために創られた、ものさし、指針、あるいは連続体。

A scale, guide, or continuum that is created to clarify expectations for a given project and to give specific feedback.

(<http://www.writedesignonline.com/resources/glossary.html#R>)

パフォーマンスに基づいた評価を採点するための一連の規準および各規準に対して評点の説明をしているもの。ルーブリックは生徒の作品を評価するときに使われる規準を具体的に示し、採点尺度のそれぞれの評点について特徴を説明する。

A set of criteria for scoring performance-based assessments as well as a definition of each value point for each criterion. A rubric specifies the criteria to be used in judging student work and describes each value point on scoring scales.

(<http://www.turnerusd202.org/Glossary/R.htm#Rubric>)

ルーブリックの定義の中には矛盾しているものがある。一般的に、ルーブリックは主観が入る評価をするときに使われる採点指針である。評価の際に評価システムの規準を明示したルールに従わねばならないということをルーブリックは含意している。ルーブリックは評価尺度の得点に相当するパフォーマンスの特徴を明白に記述したものであることもある。採点用ルーブリックは評価尺度上で期待されているパフォーマンスの質、あるいは尺度上の一つの得点の定義を明らかにしている。

Some of the definitions of rubric are contradictory. In general, a rubric is a scoring guide used in subjective assessments. A rubric implies that a rule defining the criteria of an assessment system is followed in evaluation. A rubric

can be an explicit description of performance characteristics corresponding to a point on a rating scale. A scoring rubric makes explicit expected qualities of performance on a rating scale or the definition of a single point on a scale.

(<http://curriculumfutures.org/assessment/c01-glossary.html>)

生徒のパフォーマンスの基準に基づき生徒の作品が評価されるようにしている具体的な規準を明らかにしている採点の指針

A scoring guide that gives specific criteria on which a piece of student work will be evaluated based on standards for student performance

(<http://www.nwrel.org/nwedu/2001fall/glossary.html>)

ルーブリックは scoring guide と呼ばれていることが上記の定義でもわかる。この他にもルーブリックは assessment criterion と呼ばれることも多い。英国では rubric よりも assessment criterion ということのほうが多いように思う。

さて、ルーブリックがだいたいどのようなものであるか分かったところで、さらにもう少し理解を深めるために、「チェックリスト」と「ベンチマーク」との違いを見ておくことにする。

チェックリストとの違い

ルーブリックとチェックリストを同じものであると考えている人がいる。確かに似ている部分はあると言えなくもないが、違いは大きいと筆者は考える。両者の違いを知るには、次のようなことを押さえておくことがポイントではないかと考える。

1. ルーブリックは仕事全体を視野に入れている。チェックリストはある場面での作業のチェックが主な仕事である。
2. ルーブリックは作品をトータルで考え、ある仕事（作業）が全体の仕事に対してどのくらいの価値があるかを判断するものである。
3. ルーブリックを見れば、仕事の達成目標がはっきり分かる。
4. チェックリストはある作業が達成できたかあるいはできなかったかの判断だが、ルーブリックは達成度をより詳しく示すことができる。

ベンチマークとの違い

次に、ベンチマークであるが、ベンチマークとは次のような意味であると説明をしているものがある。

ある学年のある教科で期待されている成績のレベル。たいていは生徒が具体的な目標に向かって成長しているかどうかを評価するのに使われる固定の測定点

Level of performance that is expected in a given subject, in a given grade. A benchmark is usually a set measurement point used to assess whether students are progressing toward a specific goal

(<http://www.nwrel.org/nwedu/2001fall/glossary.html>)

学校において特定の時点で、生徒が到達したレベルあるいは身につけた技術。例えば、2年生は2学年の終了時には3級レベルを読めるようになっていなければならない。

The level reached or skill mastered by a student at a particular point in school. For example, a second grade student should be reading at third grade level at the end of second grade.

(<http://www.wayne.k12.ny.us/Freewill/Information/glossary.htm>)

成績のレベルをチェックするという側面だけをとらえると、ベンチマークもチェックリストやスコアリング・ガイド／ルーブリックと違いがないように思える。²しかし、チェックリストとルーブリックの違いのところで述べたように、「ルーブリックを見れば、仕事の達成目標がはっきり分かる」というところにここでも注目したい。ルーブリックはチェックリストやベンチマークのような単なる事後の点検のための道具ではない。学習に取り組む前に生徒に提示したり、生徒とともに創ったりすることにより学習の指導にも生かされているのである。これらのことについては、2章以下で詳しく述べる。

2 ルーブリックの種類と使い分け

生徒に与える特定の課題に対して、個々の規準について生徒がどの程度良く答えているかを評価したいのか、それとも課題全体に対する生徒の成果の全体的な像を得たいのか。前者ならば分析的ルーブリック (Analytic Rubric)、後者ならば総合的ルーブリック (Holistic Rubric) がある。

ここでは、これら2つのタイプのルーブリックについて、Giselle Martin-Kniep³が *Becoming a Better Teacher: Eight Innovations That Work* (ASCD, 2000) で、具体例を挙げてわかりやすく説明しているので、紹介する。

総合的ルーブリックの例

総合的ルーブリックは、一つの作品に対して一つの得点を与えるもの。例えば、9学年の社会科のエッセイでは、総合的ルーブリックは、生徒の作業に対して上から下までの5つか6つのレベルを挙げているだけで、その一つのレベルが生徒のエッセイの評価として与えられることになる。

教育委員会を説得して学校に新しいサッカー場をつくらせるためのエッセイの最高のレベル (5のレベル) は次のようなものになる：

- ・ エッセイのはじめに何を問題にするかを明瞭かつしっかり述べている
- ・ いくつかの明快な文章構成原理を使用している

² ある規準に対して達成度の違いは最低2つあればルーブリックであるとして、チェックリストをルーブリックと同類のものであると見なす人もいる。

- ・ 技術的な間違いは非常に少ない
- ・ 主張が正しいことを裏付ける例として少なくとも効果的な事例を4つ挙げている
- ・ 教育委員会が指摘する可能性のある問題点をあらかじめ予想している

最低のレベル（1のレベル）のエッセイは次のようなものになる：

- ・ 書き出しが何を問題にするのかがあいまいになっている
- ・ 明快な文章構成原理が使われていない
- ・ 技術的な間違いが多い
- ・ 一つか二つの事例しかなく、しかも不明瞭で不適切である
- ・ 教育委員会が考える必要性や問題点をまったく予期していない

分析的ルーブリックの例

分析的ルーブリックは、規準ごとに等級付けがされていて、生徒の成果を規準ごとに評価できるようになっている。これを利用することで、ある生徒の長所と弱点が詳細に把握できる。例えば、科学の実験結果を生徒がクラスで発表したとすれば、ある生徒は、図や表や他の視聴覚機器の使用が非常にうまく、最高点を得たが、口頭発表の際、声が少々小さくて、用意したレポートを見て読むことが多かったので、中間くらいの評価だった。だが、レポートはかなりしっかりまとめてあったので、かなり高い評価になった、というような評価ができる。

報告書の評価を分析的ルーブリックで行う場合

等級付け 規準	なんとか許容できる程度のできである：1	無難なできで、許容範囲にある：2	期待以上のできである：3	素晴らしいできである：4
読みやすさ	適切なレベルとは言えない。専門用語の使いすぎで、不明瞭である。	レベルは適当である。大部分の文章は明瞭である。	レベルはまさに適切であった。文章もとても明瞭であった。	最適なレベルである。文章はまことに明瞭で、読みやすさにおいてほぼまったく問題がない。
適切さ	論点が適用するように思えるものはほとんどなかった。論点のほとんどは妥当ではなかった。	少なくとも論点の半分は興味深く思えた。論点の多くは的を射ていた。	論点の大部分は興味深く思えた。論点のすべてが関連していた。	すべての論点が興味深く思えた。論点のすべてが非常に妥当であった。
有用性	利用できるようなものはほとんどなかった。私のおかれている状況とは非常にかけ離れている。論点、議論、提言、例示がお粗末である。	読む価値があると思えることが十分にあった。論点、議論、提言のいくつかは私には有益であった。	論点の大部分は興味深いものであった。論点と提言の大部分は興味深く、私の仕事に役に立った。	すべての論点が非常に興味深かった。論点と提言のほとんどすべてのものが私の仕事に役に立つだろう。

どのように2つのタイプのルーブリックを使い分けるか

教師はいつも個々の規準を別々に評価したがるので、より多くの規準を含む課題の場合には特に、分析的ルーブリックの方が一般的である。規準の数が増えるにしたがい、総合的ルーブリックで成績レベルを当てはめるのはますます難しくなる。

例えば、調査研究報告書のルーブリックで、評価規準として、資料の数の多さ、歴史的な正確さ、出典の明示、関連情報の記載があるとする。もし、生徒が十分な数の資料を使って報告書を書いているが、不正確な部分がたくさんある。また、情報の出典を明確にしていなくても、参考文献一覧にはほとんどの関連情報を乗せている。このような作品を総合的なルーブリックで評価するとなると非常に難しい。

分析的ルーブリックは規準のウェイト（重み付け）をうまく扱える。総合的ルーブリックで、「歴史的正確さ」をより重要な規準としてどうしたら扱えるであろうか。簡単ではない。しかしながら、分析的ルーブリックは個々の規準に単純な数字の段階を用いることでうまく扱える。

ならば、いつ総合的ルーブリックを使うか。迅速または概略的な判断が必要な場合、総合的ルーブリックが用いられる傾向がある。短い宿題のような重要でないものの評価の場合、生徒の作品を手早く見るために総合的判断（例えば、チェック、チェック・プラス、チェック無し）を用いれば充分であろう。しかし、総合的ルーブリックはより量の多い課題に用いることも可能である。いくつかの課題については、ある規準に基づく作品を別の規準に基づく作品と独立して評価することはたやすくはない。例えば、構成から明白さを分けることや、発表と内容を分けることは難しいこともあるので、多くの作文のルーブリックは総合的である。生徒の作品の総合的又は全体的評価が、ある課題においては、生徒の能力をよりよく把握できると信じる教育者たちもいる（代わりに、もし2つの規準がほとんど分けられないならば、分析ルーブリックでは2つを組み合わせることで1つの規準として扱うこともできる）。

第2章 ルーブリックの特徴と作成方法

1 ルーブリックの特徴

前章ではルーブリックと類似のチェックリストとベンチマークを採り上げ、それらとの違いを考察した。その結果、ルーブリックは単なる評価の道具ではなく、学習の指導にも効果を発揮するものであることを指摘した。

ルーブリックは、「総合的な学習」のような体験活動や発表活動などいろいろなことが含まれ、総合的な評価を下すのが一見困難であるような学習の評価をするのに適している。ルーブリックを使用すると評価者である先生が児童生徒を評価するときに評価が容易になるということだけではなく、乗り越えるべきハードルを明確に示すことで、児童生徒は目指す目標が明確になり、それに向けた努力がしやすくなる利点がある。

ルーブリックは教師と生徒と共通の「ものさし」でもある。この「ものさし」はすでにストックされている既製のものを利用していいし、教師と生徒が話し合い新たに開発することも許される。いろいろな学習活動の場面で利用できる実に便利な「ものさし」なのである。使用する上で重要なことは、学習する際に、あらかじめこの「ものさし」が児童生徒に与えられていることである。評価をすることが目的ではない学習活動においては知識をどれだけ身に付けさせるかというよりは、関連性（つながり）を理解させたり、いろいろな観点から考える力を身に付けさせたりすることが目標になる。そのような学習を進めるには何が重要なことであるかということと、どの程度達成しなければならないかということを生徒も理解していることが重要であるからである。ルーブリックは児童生徒の学習を深める方法の強力なサポート・ツールになる。

2 良いルーブリックの特徴

さまざまな活動場面に応じてルーブリックが開発されているが、優れたルーブリックが共有している特徴がある。それは次のような特徴である。

- ・ 関連する内容や達成目的をすべて扱っている
- ・ 標準を明らかにして、児童生徒が自らの仕事を評価できるような判定基準を提供することにより、彼らとその標準を達成できるようにしている
- ・ 分かりやすく、使いやすい
- ・ いろいろな作業場面で応用できる
- ・ すべての児童生徒にあるレベルでの成功の機会を与える
- ・ 異なる採点者が採点しても一貫した結果が得られる

以下、若干の補足説明をする。

「関連する内容や達成目的をすべて扱っている」

ルーブリックは学習活動の全体をとらえて作られていて、目標を達成するにはどのようなことをどの程度しなければならないかを明らかにしているものである。学習の前に提示されれば学習の方向性が与えられることになり、学習後の評価の道具として使われれば学

習のどのような面がどの程度達成できたのかをはかるものになる。

「標準を明らかにして、児童生徒が自らの仕事を評価できるような判定基準を提供することにより、彼らがその標準を達成できるようにしている」

○か×で判断できるような問題ではなく、より複雑な問題を評価する場合には評価の判定基準を明らかにしておくことは大切である。何を根拠に判定するかを事前に知らせておくことにより、公平性や信頼性を与えることができ、児童生徒の努力目標を与えることにもなる。

「分かりやすく、使いやすい」

いくら立派なルーブリックであっても、厳密さを追求するあまり、詳しくなりすぎても利用者にとっては使いにくい。ポイントを押さえた、「分かりやすく、使いやすい」ものでなければ実用的ではない。

「いろいろな作業場面で応用できる」

作業をする度にルーブリックを用意するのは大変であるし、面倒でもある。一つのルーブリックが多くの場合で利用できるようなものであれば、効率が良い。

「すべての児童生徒にあるレベルでの成功の機会を与える」

児童生徒に達成感を与えることは大切である。いくつかの規準に対し、それぞれの達成レベルを設定することにより、総合的な評価においては低い評価しか得られなかった者も、ある面において高い評価が与えられることにより自信につながる。児童生徒が弱点を克服し、長所を伸ばす上でも、よく分析された達成レベルの設定は必要である。

「異なる採点者が採点しても一貫した結果が得られる」

信頼性の確保は大事である。評価者により採点が変わっては問題である。誰が採点しても同じ結果になるように、採点基準が明瞭でなければならないし、採点者の訓練も必要になる。ある生徒の作品をサンプルとして複数の採点者が採点をしてみると、はじめは評価が分かれるのは自然である。採点基準に基づき採点者間で話し合い共通の評価ができるようにしておかなければ、生徒や保護者からの信頼は得られない。

3 ルーブリックの作成方法

すぐれたルーブリックが身近にある場合は、それを利用すると良い。手に入らない場合には自ら作成する必要がある。作成のポイントを簡潔にまとめてあるものがあるので以下に紹介する (<http://www.servtech.com/public/germaine/rubric.html>)。そのポイントの中で、「4つの達成度のレベルを記述する」としているが、必ずしも4つにする必要はない。3～5のレベルで分けるのが一般的である。6以上に詳しいレベルに分けると、良いルーブリックの特徴である「分かりやすく、使いやすい」ものではなくなってしまうし、具体的なレベルの違いを示すことばや表現が難しくなる。

- ・その単元が扱おうとしている内容の評価基準を見直す
- ・生徒の作品や仕事の良し悪しを判断するのに使われる基準を見直し、それが標準に合っているかどうか確認する
- ・ルーブリックが扱う大きな範疇と下位の範疇を決めて枠（フレーム）を作る
- ・それぞれの評価基準に合う4つの達成度のレベルを記述する。達成のレベルの間の実際の違いをとらえることばや表現を選ぶ
- ・それが理解できるかどうか生徒に試してみる
- ・生徒の仕事の良し悪しを判断するためにルーブリックを使うときにはその長所と短所をきちんと整理しておく
- ・必要に応じてそのルーブリックを修正する

「それぞれの評価基準に合う4つの達成度のレベルを記述する。達成のレベルの間の実際の違いをとらえることばや表現を選ぶ」とあるが、各レベルの表現は、しばしば使われている「だいたい」「ほぼ」「やや」のような漠然とした表現は避け、所見された質、欠落している質はどのようなものであるかといった具体的説明に言及した記述的表現にしたい。また、レベル間の違いが分かるような表現を心がける必要がある。

4 ルーブリックのテクニカル要件

Relearning by Design, Inc.では、ルーブリックについての情報をウェブ上で提供している。その中にルーブリック作成上のテクニカル要件を次のようにまとめてあるので紹介する。http://www.relearning.org/resources/PDF/rubric_sampler.pdf

1. **連続性**：評価得点間の質の変化は均等でなければならない。4点と5点の質の差異は、2点と1点との差異と等しくなければならない。記述式説明も、この連続性（均一性）を反映していなければならない。
2. **対比性（類似性）**：記述式説明の各文に用いられている基準となる表現は、他の記述式説明欄の説明と対比したものでなければならない。
3. **一貫性**：ルーブリックでは、一貫して同一の評価基準に照準を当てていなければならない。評価測定における各評価得点に対する記述式説明は、得点毎に変化するが、これは、同一の評価基準（固定）の質の変化を示したものであって、明示的であれ、暗示的であれ、新たな評価基準や、評価基準間の重要性の変化について言及するものではない。
4. **適切なウェイトづけ**：複数のルーブリックがある場合、各評価基準は、他の基準と照らし合わせて、恣意的でない適切なウェイトづけがなされなければならない。

5. **正当な根拠**: ルーブリックでは、評価の対象となったものは、ただ単に観察しやすい、点数をつけやすいという側面から選ばれたものではなく、中心となる学習行動であるために選ばれたのだということが正しく推測できるようになっている。ルーブリックで提案する質の差異は、(a) 課題分析が反映され、学習のあらゆる分野にまたがる学習行動サンプルに基づいたものでなければならない。(b) 学習行動は、量的ではなく、質的な差異が記述されていなければならない。(c) 関連性があるだけの行動と実際の信頼できる評価基準とを混同してはならない。(例えば、演説者の多くはメモを用いるが、メモを用いているかどうかは、スピーチの有効性を判断する上で評価基準にはならない。むしろ、ルーブリックでは、スピーチのプレゼンテーションが相対的にスムーズに行われていたか、情報は価値あるものであったかといったことが評価できるようでなくてはならない。)
6. **信頼性**: ルーブリックは、いつ誰が行っても、一貫した評価を可能にしなければならない。信頼のおける評価では、「非常に優れている」や「劣っている」といった評価的表現や「～より優れている」や「～より劣っている」といった比較表現に代わって記述的表現が用いられ、評価者が各レベルの学習行動の際立った特徴を認識できるようになっている。

5 ルーブリックの作成と使用上の留意点

ルーブリックは教師が作らなければならないというわけではない。一度ルーブリックを経験すれば、児童生徒でも作ることができるようになる。彼らに作らせることにより、自分の学習に責任を持たせることもできる。

ルーブリックの作成で注意しなければならないのは、上記のテクニカル要件を満たしながら、できるだけ簡便なものにすることである。というのは、あまりにも複雑なルーブリックでは誰も利用しなくなってしまうからである。使われないルーブリックでは意味がない。

また、いくらすぐれたルーブリックを開発しても、利用してみると評価者により評価が異なることがある。これは評価者側の問題である。評価者間の評価の違いを避けるには、ルーブリックの使用法の研修が必要である。実例をもとに同じ評価が下せるように評価者の訓練がされなければならない。ルーブリック導入の成功の鍵はこの研修にあると言っても過言ではない。このことについては別の章で改めて言及することにする。

第3章 ルーブリックの効果

本章ではルーブリックの使用上の効果について考察したい。まず、学校でルーブリックを使って授業をした後の指導者側からの感想・意見、次に、指導を受けた児童生徒の側からの感想・意見を紹介する。これらは米国のウェブサイトで公表されている感想意見である。日本ではまだこのような実践例がないことから利用後の教師や児童生徒の感想は入手できない。そこで、実験的に協力者をお願いして、ある小学校で実践していただいた。その一部を紹介したい。最後に、米国で作文の指導に効果があったということを具体的に数値を挙げ、証明している報告を紹介することにする。

1 指導者側からの使用後の感想・意見

ミドルスクールでルーブリックを使って授業を行っている先生たちが情報交換を行っているウェブサイトがある (<http://www.middleweb.com/MWLSTCONT/MSLrubrics.html>)。どのような使い方をしてどのような感想・意見が述べられているかほんの一部をそこから紹介する。詳しくは資料として翻訳し掲載しているので、ご参照いただきたい。

使用方法とそれに対する感想・意見の例

私はルーブリックを科学発表大会で使用しました。そのルーブリックは教師達が開発しましたが、生徒達にも公開しました。それをプロジェクトの採点と発表に使用したのです。生徒達が互いを採点し、我々はグループで検討しました。大会はひとつの採点期間全体に対する我々の行事 (work) だったので、点数が成績になりました。

ルーブリックはすべての関連事項を詳細に説明したので、大変に役立ったと思います。以前は、どのようなものが4で、3はどうかなどについて、良い案を出すことをクラスで行っていました。私はページの右側をブランクのままにした総括的なルーブリックを作り、最も優れている証は何か名案が出た後、特定のプロジェクト用に右側に書き込みました。

保護者たちもルーブリックを認めているようです。子供がなぜその成績をもらったか判明するので。

—Deb

私は、生徒達に見直させたり、大きなプロジェクトになったりする課題を出すときはいつでも、ルーブリック (採点ガイド) を与えます。ルーブリックは公平に成績付けをする説明責任を果たさせてくれると思います。生徒の成績が悪いときには、「採点ガイドの全ての面を守りましたか？」と尋ねるだけで済みます。提出物と採点ガイドをみれば、ごまかせません。何かを抜かしたか、校正しなかったことを認めざるを得ないのです。

—Leighann

過去3年間ループリックに取り組んできて、多くのことを学びました。一つには、良いループリックを作るのは、大変難しいということです。良いものができたと思っても、欠陥がある。子供たちには言葉が多すぎるか、さもなければ定義が充分でないか。二つめは、子供たちには、全部の必須アイテムを入れられるように、下書きを終える前にループリックが必要なことです。事前にループリックを見ていないと、点数も低くなります。子供たちはこのことにすぐ気づきました。三つめは、ループリックは、誰の作品で、できはどうかを気にするのではなく、手元にあるものに注意を集中するのに役立つことです。思いついたことを書きました。

—Linda

ループリックの使用は私には大変有用だった。エッセイやレポートなどの成績付けに役立つ方法を、英語教師としていつも探している。自分が、そして生徒が従うループリックを作り、成績付けが能率的になった。年度の初めにループリックを開発し、学習に取り掛かる前に生徒に渡す。この方法で、生徒は私が何を求めているかが分かり、私に渡す前に作品を直すことができる。

ある期間の後、生徒達に互いの成績付けにループリックを使わせる。お互いのペーパーを見て、他に何をしなければならぬか意見を言う。これがとても役に立つと分かった生徒が多くいる。

私は最後の段階で、科目の教授後に生徒に課題用のループリックを作らせる。その頃には生徒は、いくつか私のループリックを使っており、文章作成用のループリックの機能について経験してきている。彼らは概ね、生徒が分かりやすい言葉を使い、私同様すべての点をもれなく収める。

生徒の成績の上下だけに関しては、ループリックは私の生徒たちの作文能力を改善するのに有用だと考える。彼らは何を求められ、どう表現すればよいか、ループリックによって分かっている。

—A. Hacker

ループリックに関して私が最も好きなことは、課題に対して私が求めていることを、子供たちに出す前に、ループリックの方で決めさせてくれることです。出だしはやることが多いのですが、中間（子供たちは私が求めていることについてよりはっきり分かっている）ので、受ける質問も少ない）と最後（良くできたループリックならば、採点がより早く、より簡単）は楽なのです。

ループリックを使う前は、課題やプロジェクトを採点するまでは、常にそこまで理解している

とは限りませんでした。これはまったくばかげたことで、もし私がベンチマーク（また新しい概念です…）に自信がなければ、生徒たちはどれだけ分かっていると思っていたのでしょうか。彼らにとっては推理ゲームのようなものだったでしょう。私の基準は最初のペーパーから最後のものまで様々に異なっているのが常でした（厳格だったり緩かったり、なぜなら自分の基準が定まっていなかったから！）。

私の長男は大学4年生で、彼の経験によれば、教授達は、依然ルーブリック時代以前にいるように見受けられます。毎秋、教授が学生のプロジェクトに実際は何を求めているのか、推理ゲームで——ルーブリックに慣れた子供たちには辛いことです。

多くの教師たちが子供たちに課題のベンチマークとともにルーブリックを渡さないのは驚きです。ルーブリックは、教師同様、子供たちにとっても役に立つものです。

—Brenda

「採点ガイド」は救いの神です、と言わせてください。これで成績付けが、特に科学に関して、たいへん楽になりました。私たちの実践は、ほとんどすべてがプロジェクトを基本にしています。ガイドなしには、プロジェクトの採点はできません。

生徒が作ったガイドも良いという意見に賛成です。彼等が何を採点するか決定に参加するならば、プロジェクトの価値をより習得すると考えます。さらに、生徒たちは、自分が学びたいものを、たいへん知っています。（質問はすごくいいことです！）もし生徒たちが内容について質問をするならば、そのとき最も重要な情報は何かを理解し始めます。彼等は、情報をふりかけ始めます。もし彼等がすべてを行うならば、その価値について意見を言えるべきでしょう。

—Kasey

ルーブリックの利用に関して上記のサイトではさまざまな情報の交換がなされている。注意すべき点も書き込まれているが、有効であるという声が圧倒的に多く、ルーブリックには下記のような長所があると多くの先生は指摘している。

- ・評価がより客観的で首尾一貫したものになる
- ・評価基準を事前に示すことで、児童生徒はどのように評価され、どのようなことが期待されているかが分かり、不安が減り、学習が促進される
- ・学習の進歩を測定するための判断基準となり、児童生徒や保護者に対する学習進捗状況の説明責任を果たすことが容易になる

2 児童生徒の感想・意見

それでは児童生徒はルーブリックについてどのような感想をもっているのだろうか。これもインターネットにより入手できる (<http://www.middleweb.com/CSLB2CubRub.html>)。

カリフォルニア州のロングビーチにあるカバリーという中学校では、国語、社会、数学の授業でルーブリックを定期的を使用している先生がいる。ルーブリックについて先生たちのいくつかの質問に対して生徒が回答しているが、その中から代表的なものを一部紹介する（詳細は、資料としてこの報告書の後半に掲載している）。

「ルーブリックが学習の改善に役立つと思いますか、思いませんか。その理由は。」

—「何を忘れているか、どこが悪いのか教えてくれるので、私はどんな課題にもルーブリックを使いたい。」

—「私は、ルーブリックを使い始めてから良い成績をとるようになったので、とても助けになっていると思う。特に数学と英語が。」

—「ルーブリックは、やったことのチェックをするリストのようで、役に立っていると思う。」

—「ルーブリックは成績付けのより簡単な方法です。後ろめたさや、ひいき、決心が少なくすみません。これは成績付けのより「公平な」方法です。さらに、なぜそのグレードを得たか分かります。」

—「課題を与えられる場合、その必要条件を見る必要があります。時々私が見落とししたものがルーブリック上にあります。ルーブリックのガイドラインによって、変更ができ、何を変更すればいいか知ることができます。」

—「私が作文に使っても、誰か他の人が使っても、良くする方法を見るチャンスがあります。」

「ルーブリックで一番良くないことは何だと感じますか。」

—「いくつかのルーブリックはすべての状況を完全にカバーするとは限りません。」

—「ルーブリックに関する最悪のものは、あなたがそれに着実に従わなければ、それはあなたの仕事をだめにしかねないことです。」

—「何を必要とするか知るまで、指示に忠実に従わなければならないこと。」

—「それらを理解することは必ずしも容易だとは限りません。」

—「私は、最悪のことは、あまりにも規則が多いので、なんだか混乱するということだと考えます。」

—「最悪のことは、ルーブリックからちょっとはずれれば、スコアが落ちるということです。」

以上、紹介したように、ほとんどの生徒はルーブリックが彼らの成績の改善に役立ったと感じているようである。ルーブリックは学習の際に何をしなければならないかを明らかにしてくれるものであり、評価される場合でも公平性を保証してくれるものであると捉えている。しかしながら、ルーブリックの短所、すなわち、指示に従うことの窮屈さも同時に感じているようである。

この他にもルーブリックに関して次のような意見を生徒は述べている。

—「私は、ルーブリックは大事な試験だけに使われ、物語とか創造的なものには使用されるべきでないと思います。」

—「主な利点は公平であることですが、ルーブリックは概略だけです。」

3 日本の小学校での実践例から

平成 12 年度のはじめから諸外国で使用されているループリックに注目し、日本でも使えそうなループリックをいくつか収集し、その年度中に、集めたループリックの中から「協同のループリック」(表 1) を採り上げ、研究協力者に実験的に小学校の理科の授業で使用していただいた。

第 5 学年の「てこ」の学習 (9 時間) で、子供たちが問題に対する自らの仮説を確かめていく主体的な問題解決活動の中で、協同的な作業をどのように行い、そのことによってどのように自らを変えることができているのかを自ら評価することをねらいとした。

「協同のループリック」については、子供たちや学習内容に相応しいものにするために元のものに若干修正を加え、表 2 の「観察・実験のループリック」になった。ここでは、ループリックを使用してみた子供たちと先生の感想を紹介する。

子供たちの感想

- ・これを書くことによって「点数をよくするぞ」という目標をもてる。
- ・友達の意見をあまり聞かず、自分の意見ばかりを言ってしまったので気を付けたい。
- ・ループリックを行って、こういうことを直さないといけないんだなと思いました。
- ・このごろ発言をしていないので、これからはなるべく発言したいです。
- ・私がいろいろな考えを出したために、班の考えがスムーズに通った。少しは役だった。またこういうのをやりたい。
- ・自分の意見を仲間に少し言えた。分からないところやへんだなと思う所はちゃんと質問できたことが自分としてうれしかった。これをやるから自信がもてる。これを書いてみて自分は結構がんばっているなと感じた。
- ・話し合いへの参加が、1 なのがくやしかった。責任感と言うところは判断するのが難しかった。
- ・自分では気づいていなかったこともこれをして分かった。
- ・自分で得点を付けるのがよい。(他の人が見ていないところも自分で分かるから)
- ・ほとんどよく分からなかったが、何となく分かったから自分でまたこういうものを書いてみたい。
- ・ほとんどが難しかった。
- ・得点の 2 と 3 の間の判断が難しかった。
- ・人が意見を言ったらすぐに答えるという目標を立てたけれど、できなかった。今度はできるようにしたい。
- ・公式が分かった。メモが大変だった。
- ・自分が気づかなかった所が分かってよかった。
- ・ぼくは人が話をしているときに話してしまうので、人の話をちゃんと聞きたい。
- ・自分が思っていたことがそんなに伝えられなかった。
- ・他の仲間の話を聞くこと、書いてあるものにちょっと文字を付け足した方がいいかも。
- ・ちょっとはなしすぎたかもしれないけれど、まあまあ働いたと思う。

表1 協力のルーブリック

初歩的 1	萌芽的 2	達成的 3	模範的 4	得点
----------	----------	----------	----------	----

真 献 度

調査と情報取	話題に関係する情報を何も集めていない	情報収集量が少ない。そのうちのいくつかは話題に関係している	いくつかの基本的な情報を集めている。それらの大部分は話題に関係している	情報収集量が多く、すべて話題に関係している	
情報の共有	仲間に情報を何も伝えていない	情報をほとんど伝えていない。いくつかは話題に関係している	いくつかの基本的な情報を伝えている。大部分は話題に関係している	多くの情報を伝えている。すべて話題に関係している	
時間を守る	課題を何も提出しない	課題のほとんどを遅れて提出する	課題のほとんどを遅れずに提出する	課題のすべてを遅れずに提出する	

責 任 感

仲間としての役を果たす	割り当てられた仲間としての役を何も果たさない	ほとんど任務を果たさない	ほとんどすべての任務を果たす	割り当てられた仲間としての役割をすべて果たす	
会議への参加	会議中に発言することはない	ほとんど情報を伝えないか話題とは無関係な情報に限られる	いくつかの情報を伝える。大部分は関連情報である	かなり多くの重要な情報を伝える。すべてが関連情報である	
仕事の共有	いつも仕事は他人に頼っている	割り当てられた仕事をほとんどしない。しばしば催促する必要がある	たいていは割り当てられた仕事をする。ほとんど催促する必要はない	いつも割り当てられた仕事は言われなくても行う	

人の意見尊重

他の仲間の話を聞くこと	いつも自分で話をしていて、他の人に話をさせない	たいてい自分がほとんど話をしていて、めったに他の人に話させない	人の話を聞か、ときに話し過ぎる	人の話を聞き、適度に話をする	
仲間との協力	たいてい仲間と言い争う	ときどき言い争う	めったに言い争いはしない	けして仲間とは言い争いはしない	
適切な判断	たいてい自分の意見を通すことだけを望んでいる	あらゆる意見を考えないでしばしば友だちの味方をする	たいていあらゆる意見を考慮している	いつも仲間が正しい判断ができるようにしている	

総 点	
-----	--

<http://edweb.sdsu.edu/triton/tidepoolunit/Rubrics/collrubric.html>

表2 観察・実験のルーブリック

名前 _____ (班)

初歩的 1	発展的 2	やりとげた 3	模範的 4	得点
-------	-------	---------	-------	----

結果を出すのに役だったか

実験と情報集め	仮説に関係する情報や実験を何もやったり、集めていない	実験結果や情報収集量が少ない。そのうちのいくつかは仮説に関係している	仮説確かめにつながるいくつかの結果や情報を集めている。それらの大部分は仮説に関係している	実験結果や情報収集量が多く、すべて仮説に関係している	
情報の共有	仲間結果や情報を何も伝えていない	結果や情報をほとんど伝えていない。いくつかは仮説に関係している	いくつかの結果や情報を伝えている。大部分は仮説に関係している	多くの結果や情報を伝えている。すべて仮説に関係している	
時間を守る	考えを何も提出しない	考えのほとんどを遅れて提出する	考えのほとんどを遅れずに提出する	考えのすべてを遅れずに提出する	

責任感

仲間としての役を果たす	割り当てられた仲間としての役を何も果たさない	ほとんど役割を果たさない	ほとんどすべての役割を果たす	割り当てられた仲間としての役割をすべて果たす	
話し合いへの参加	話し合い中に発言することはない	ほとんど意見を伝えないか話し合いとは無関係な意見に限られる	いくつかの意見を伝える。大部分は話し合いの内容と関連する情報である	かなり多くの重要な意見を伝える。すべてが話し合いの内容と関連する情報である	
仕事の共有	いつも仕事は他人に頼っている	割り当てられた仕事をほとんどしない。しばしばさいそくされる必要がある	たいていは割り当てられた仕事をする。ほとんどさいそくされる必要はない	いつも割り当てられた仕事は言われなくても行う	

他の人の意見の尊重

他の仲間の話を聞くこと	いつも自分で話をしていて、他の人に話をさせない	たいてい自分がほとんど話をしていて、めったに他の人に話させない	人の話を聞くが、ときに話し過ぎる	人の話を聞き、適度に話をする	
仲間との協力	たいてい仲間と言い争う	ときどき言い争う	めったに言い争いはしない	決して仲間とは言い争いはしない	
適切な判断	たいてい自分の意見を通すことだけを望んでいる	あらゆる意見を考えないでしばしば友だちの味方をする	たいていあらゆる意見を取り入れながら考えている	いつも仲間が正しい判断ができるようにしている	

ルーブリックを行って、自分で役立った点、難しかった点など気づいたことや感想を下に書いてください。

総点	
----	--

- ・よく分からないところがあった。難しかった。
- ・もう少しよい点だと嬉しい。
- ・時間を守るという質問項目はよく意味が分からない。
- ・ループリックに当てはまらないときがある。

先生の感想

- ・ループリックを使うことによって子供たちは活動に目標すなわち見通しをもつことができるようになる。今日の授業では何を目標にして取り組むべきかが子供自身に明らかになると言える。このことが学習に取り組む意欲につながっているとも言える。また、子供自らが今日の授業を振り返り、次の授業に生かすことができるようになると言える。

なお、ループリックによって子供たちが自己評価をしたその結果である評価得点であるが、総得点36点中で24点であった。これはかなり自己を厳しく見ているといえると先生は感じている。

4 作文の指導でどのくらい効果が期待できるか

オレゴン州のポートランドにあるノースウェスト・リージョナル・エデュケーショナル・ラボラトリー (NWREL <http://www.nwrel.org>) が開発した「作文の評価ツール」(表3) は、オレゴン州をはじめ他の地域の教師から高い評価を得ている。

この評価ツールは1980年代に、NWRELの研究者が学校現場の先生たちの協力を得て開発したものである。良い作文とはどのようなものか、その評価基準を決め、校閲・編集作業を進める上でそれをどう生かせばよいかがすぐにわかる分析的作文・書き方評価システムを創り出したのである。実際に使ってみて、これに改良が加えられ、現在あるものになっている。このシステムが採用する評価基準は下記の6項目と、最後のオプションであるプレゼンテーションを入れて7項目である。これをシックス・プラス・ワン・トレイツTM (6+1トレイツTM) と命名している。

<p>アイデア (構想—内容、起承転結、主題)</p> <p>オーガニゼーション (構成—中味の組み立て)</p> <p>ボイス (表現—文章の調子、文体、意図、語りかける相手)</p> <p>ワード・チョイス (言葉の選択—使われている言葉と言い回しの的確さ)</p> <p>センテンス・フルーエンシー (文章の流暢さ—正確さ、リズム、流れ)</p> <p>コンベンション (文法—技術的な正確さ)</p> <p>プレゼンテーション (体裁・見栄え—本文の読みやすさ、フォーマット、レイアウト)</p>
--

この評価ツールは、小中高等学校で主として用いられているが、作文担当の先生だけが

表3 作文のルーブリック (6+1トレイツ™)

	5点	3点	1点
アイデア (構想-内容、起承転結、主題)	焦点が絞られており、意図が明瞭に伝わってくる。読み手の関心を逸らない。逸話およびディテールが主題を肉付けしている。	トピックの範囲を限定するようになってきたが、その展開の仕方がありふれている、あるいは、総括的で焦点が絞られていない。	現時点ではまだ、明確な意図あるいは主題がない。ディテールが概略だけあるいは欠けているため、推測でしか文章の趣旨を理解できない。
オーガニゼーション (構成-中味の組み立て)	中核をなす考えあるいは主題を強調し、際立たせる構成になっている。読み手の関心を引く情報の並べ方、構成、提示を採用し、一気に読ませる。	構成がある程度しっかりして、読み手はあまり混乱せずに本文を読み進むことができる。	明確な方向感覚がない。見解やディテール、事象がばらばら、または行き当たりばったり繋ぎ合わせたという印象を受ける。構成があるとは思えない。
ボイス (表現-文章の調子、文体、意図、語りかける相手)	個性的かつ魅力的、人を思わず惹き込む手法で、読み手に直接語りかけている。語りかける相手と意図を意識し、さらには尊重して文章を書いている。	書き手は誠実だが、自分のすべてを注ぎ込んでいないという印象を受ける。その結果、面白く、あるいは、好印象さえ与えるものの、人を惹き込むことができない。	書き手は、トピックや語りかける相手に無関心あるいはこれとかなり距離を置いているように思える。
ワード・チョイス (言葉の選択-使われている言葉と言い回しの的確さ)	言葉が意図したメッセージを、興味深く、自然にかつ正確に伝えている。力強く、魅力のある言葉を使用している。	あまり力強さはないものの、言い回しに問題はない。普通のことばを使っているので、書き手の意図が理解しやすい。	語彙が極めて少ないため、意図を伝える言葉を探すのに悪戦苦闘している。
センテンス・フルーエンシー (文章の流暢さ-正確さ、リズム、流れ)	流れ、リズム、抑揚ともに心地よい。センテンスの組み立てが良く、バラエティーに富み、しっかりとした構造であるため、思わず声に出して読みたくなる。	一定のビートが感じられるが、音楽的というよりは楽しいあるいはビジネスライク、流れるというよりは機械的な傾向にある。	読んである程度理解するためには、読み手はかなり訓練を積む必要がある。
コンベンション (文法-技術的な正確さ)	書き手が一般的な文法(例えば、スペリングや句読点、大文字、語法、慣用法、段落分け)をよく理解していることがわかる。また、文法を効果的に使い、より読みやすい文章にしている。エラーがほとんどないため、ほんの少し手を加えるだけで、すぐに刊行できるといったケースが多い。	限られた範囲の一般的な文法を適度に使いこなせることがわかる。文法を上手く使って、読みやすくしている部分もある反面、文法上の誤りが興味をそぎ、読みにくくしている部分もある。	スペリングや句読点、大文字、慣用法、語法、段落分けの誤りが多く、読み手の興味をそぎ、文章を読みづらいものになっている。
プレゼンテーション (体裁・見栄え-手書き/パソコンによる本文の読みやすさ、フォーマット、レイアウト)	書式とプレゼンテーション(体裁)が読み手にメッセージを理解し、これに心を通わせるように促している。視覚的にも素晴らしい。	このフォーマットでライターへのメッセージは理解できる。	プレゼンテーション(体裁、見栄え)に関連した問題によって、読み手が誤ったメッセージを受け取ってしまう。

利用しているわけではない。数学や科学、社会、外国語、特殊教育など、文章を書くことが授業で重要な部分を占める先生ならば、その担当を問わず使っている。

ここでは各トレイトの詳しい説明は避け、この作文の評価ツールの有効性についてのNWRELの調査報告書があるので紹介する。

作文の評価と指導の一体化……評価プログラムに関する調査結果

調査の目的：

評価のストラテジーを意図的に作文カリキュラムに取り込むことによって、分析的作文試験の結果に違いが出てくるものであろうか。言い換えると、一つのグループには、6トレイト分析的評価採点基準を校閲用ツールとして利用する方法を系統立てて教え、もう一つのグループには、これら評価トレイトを校閲の手段として使わない、従来型の作文指導を行った場合、所属するグループの違いによって、生徒の作文力に差が出ることを実証できるかである。

調査の実施場所と方法：

1992・93年度の1年間、ポートランド中心部の5年生のクラス6教室を対象に調査を実施して、生徒に6つの分析的トレイトを教えた場合の効果を調べた。調査対象となったのは、住んでいるコミュニティーが農村部から都市部まで、使う言語に関しても、英語を母国語（母国語に次ぐ）あるいは第2言語とするなど、民族的多様性も含め、多彩な背景を持つ子供たちがいるクラスである。

この6つの5年生クラスを、まず無作為に2つのグループに分けた。一つは、「スタディー・サイト（学ぶ場）」グループで、ここでは事前、事後の作文評価は行うが、私たちの側からは何の手出しもせずに、先生が指導と評価を続ける。私たちの役割は、作文の教育現場を参観し、それを記録することである。

もう一つのグループ、「ティーチング・サイト（教える場）」の場合は、私たちがこのシステムの日程に沿って教室を訪れ、トレイトに加え、自分と他の生徒が書いた作文の評価方法を教える。これは、アイデア（構想）、オーガニゼーション（構成）、ボイス（表現）のトレイトに重点を置き、各トレイトと校閲能力の関連を教えることを目的に特別に編み出されたプログラムに従って指導する仕組みである。事前および事後の評価は当然、このグループにも行った。

調査結果：

この調査を行った結果、評価と指導を結び付けることを直接教えると、作文の実力に格段の差が生じることが強く裏付けられた。結果は次ページの表の通りである。

トレイト	グループ	事前評価	事後評価
アイデア	教える	2.54	3.38
	参観	2.68	2.75
オーガニゼーション	教える	2.60	3.15
	参観	2.61	2.70
ボイス	教える	2.73	3.60
	参観	2.91	3.12
ワード・チョイス	教える	2.73	3.26
	参観	2.91	3.11
センテンス・フルーエンシー	教える	2.85	3.12
	参観	2.87	2.89
コンベンション	教える	2.79	2.98
	参観	2.89	2.99

指導のためのストラテジー

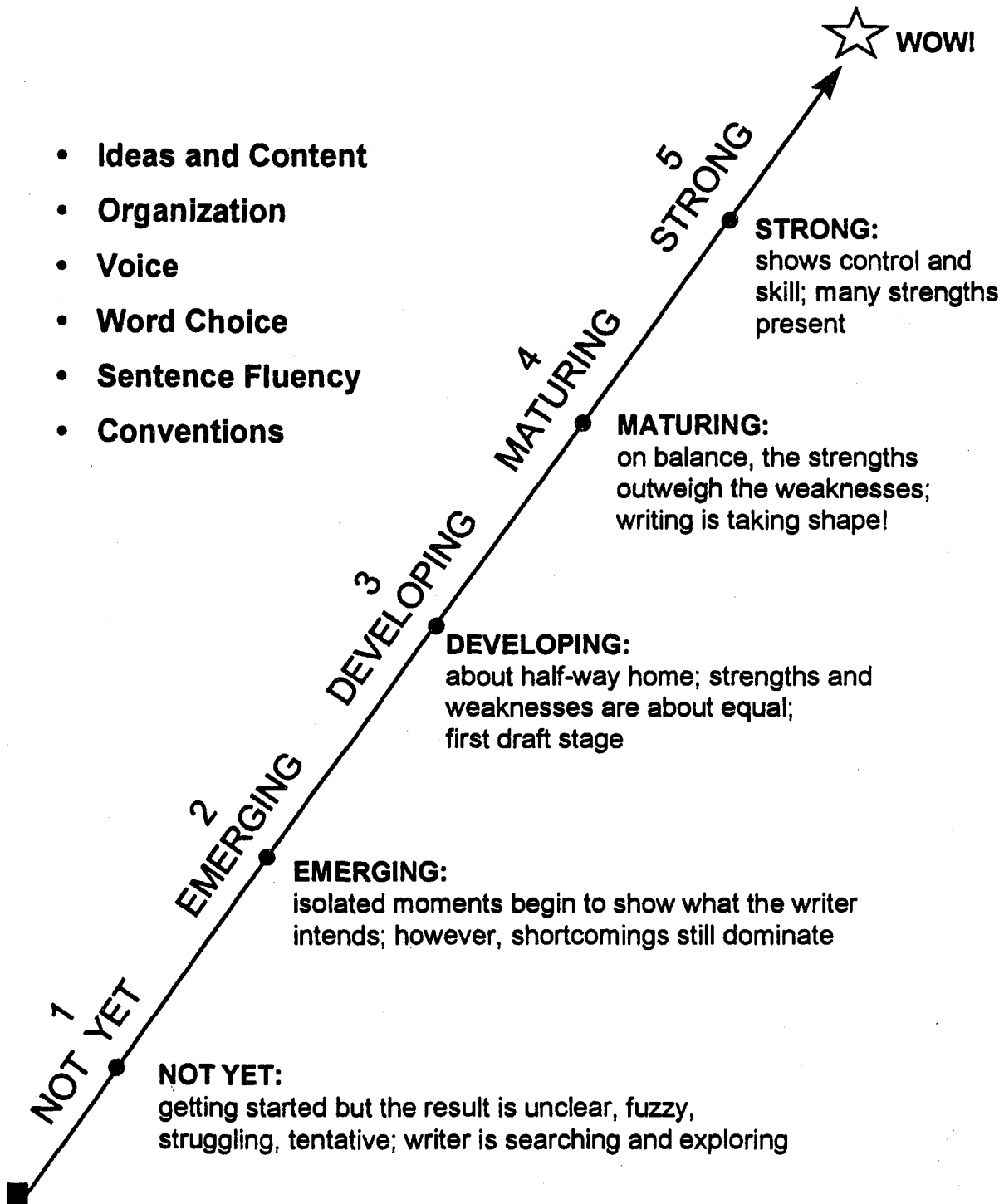
評価ツール「6+1トレイツ TM」の開発に加えて、NWREL では作文評価を作文指導プログラムに結び付ける、有効な7つのストラテジーを考案している。「いかに校閲および編集をすれば自分の作文をできるだけ良くすることができるのかを生徒に教える。」これが、このストラテジーの目的である。NWREL では、これら7つのストラテジーをカリキュラムおよび担当する学年にどのように適用するかを学ぶワークショップおよび研修会を開いている。ここでポイントとなるのは、ボキャブラリーを共有することと、読み手の立場に立って考え、行動することを学ぶことである。

トレイツを生徒に教えるための7つのストラテジー

1. 読み手の立場に立って話をし、考える上で必要な言葉・言葉使いを生徒に教える。
2. 実例として選んだ匿名の作文を読み、採点し、検討する。
3. 二人あるいは小人数のグループに分けて、実例として選んだ匿名の作文をトレイト毎に校閲し、校閲の方策を実習により重点的に学ばせる。
4. とにかく読ませる。文章の長所と短所を見せるため、あらゆる種類の文書を読ませる。
5. 書く！そう、書く。ただし、あなたが！それから、生徒に手伝ってもらい、トレイト別に、あなたが書いたものを校閲する。
6. 生徒が精神的なゆとりを十分に持って、自分が知っていることと習っていることを、様々なジャンルの文章と結び付けられるよう配慮して、作文のトピックを選ぶ。
7. 実践とこれに重点を置いた授業を行う。あなたのカリキュラムをできるだけ様々な方法で、できるだけ多く、トレイツに結び付ける。

SIX-TRAIT ANALYTICAL WRITING ASSESSMENT MODEL Scoring Guide (Rubric)

- Ideas and Content
- Organization
- Voice
- Word Choice
- Sentence Fluency
- Conventions



©1997, Northwest Regional Educational Laboratory, Portland, Oregon.



第4章 国際バカロレアプログラムの評価基準

1 中等課程プログラムのパーソナルプロジェクトの評価基準

(1) 国際バカロレア機構の教育プログラムの概要

国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization : IBO) はスイス民法典に基づき、ジュネーブに本部が設置されている国際教育の推進を目的とする非営利教育団体である。

IBO の教育理念は全人教育にあり、1960 年代に海外の国際学校で学ぶ生徒が大学入試資格を取得できるよう、中等学校の最終二学年の生徒に共通カリキュラムを設定し、国際バカロレア・ディプロマ資格取得のための統一試験を実施してきた。ディプロマ・プログラム (Diploma Programme) は総合的でバランスのとれたカリキュラムを提供し、高度な試験と厳しい評価を実施している。参加校の生徒には高度な知的水準や学術水準に挑戦すると同時に、責任ある地域社会の一員となって国際理解を深めることが求められている。プログラムを通して、思考力、表現力、論理能力、さらに研究能力や異文化に対する理解と寛容性、偏見のない心を持った生徒の育成を目指している。

このような総合的なカリキュラムと高度な試験及び評価水準の実績は広く認められ、現在では設立当初のように国際社会における国際学校だけでなく、多数の現地校が IB に参加している。さらに、幼稚園・小学校・中学校・高等学校において、IB の全人教育の理念に基づいた一貫教育を行えるように、1992 年には 11～16 歳の生徒を対象とした中等課程プログラム (Middle Years Programme : MYP)、そして 1997 年には 3～12 歳の生徒を対象とした初等課程プログラム (Primary Years Programme : PYO) が導入された。

ここでは、現在、30 カ国のおよそ 100 の学校が採用している中等教育プログラムについて、その基盤となる教育理念の概要とカリキュラムの構造や内容を説明し、次に、総合的な学習への取り組みであるパーソナルプロジェクトについて、そのアプローチの方法と成果の評価方法について紹介する。日本の学校で進められている「総合的な学習」の参考になると考えるからである。

(2) 中等教育プログラム

中等教育プログラム (MYP) の概要については、IBO が発行している中等教育プログラムのガイド・ブック (これはインターネットでも見られる) の説明が分かりやすい。それには次のような説明がある。

国際バカロレア機構の教育の基本理念や中等教育プログラムを理解するには、「さらにもっと」という語句に注目する必要がある。従来の教科に精通するだけでなく、さらにそれ以上のことが期待される。つまり、教科間の関連性を考え理解することが重視される。自らの歴史や文化を真に理解するだけでなく、他の地域や人々の伝統を評価することが奨励される。コミュニケーションの手段として言語を確実に駆使することが求められるだけでなく、人間の表現の優雅さや豊かさを賞賛する気持ちを養うことが奨励される。とりわけ、学ぶことを真に愛する心を養い、心身の規律正しい習慣を身につけるこ

とが望まれる。

教科間の関連性の重視、歴史や文化の理解、コミュニケーションの重視が中等教育プログラムでは特に強調されている。

(3) 中等教育プログラムの科目と分野及びそれらの関係

中等教育プログラム (MYP) の教科は次の 8 科目からなっている。

言語 A(language A): 生徒の最も得意とする言語。通常、学校で授業を受ける言語となる。

言語 B(language B): 学校で学習する現代外国語

人文科学(Humanities): 歴史及び地理

科学(Sciences): 一般科学、生物、化学、物理

数学(Mathematics): 算数、代数、幾何、三角法、確率、統計等のコアコース

芸術(Arts): 美術/デザイン、音楽、演劇

体育(Physical Education): 健康・衛生教育、個人及びチームでのスポーツ

テクノロジー(Technology): 技術の特質、プロセス、及び影響力

MYP は、この 8 科目に加えて、次の 5 つの分野を設けている。

- ・ 学習へのアプローチ(Approaches to Learning)
- ・ コミュニティーサービス(Community Service)
- ・ 健康及び社会教育(Health and Social Education)
- ・ 環境(Environment)
- ・ ホモファーベル (道具を作る人) (Homo Faber(Man the Maker))

これらの分野は関連分野 (Areas of Interaction) と呼ばれ、教科を統合する役割を果たしている。MYP の一つの大きな特徴でもあるので、それぞれの分野について説明を加える。

「学習へのアプローチ」は、効果的な学習スキルの開発に関するもので、「いかにして学ぶかを学ぶ」アプローチと表現することができる。その目的は、役立つ技術を習得するだけでなく、判断する目を養い理解力を深め、独立した思考を確立し、最終的には問題解決及び意思決定を行う能力を身につけることに繋がる知的訓練や精神のあり方を育むことである。

「コミュニティーサービス」は、教室の枠を超えて、地元地域社会やより広い世界への責任ある参加、思いやりのある参加を目指している。このような直接的な体験を通して、生徒は他の人々が社会に何らかの貢献をしながら生きていく姿を学ぶチャンスに恵まれる。

「健康及び社会教育」は、生徒が精神的にも身体的にも健全な人生を歩めるよう、発生しうる災難を認識し情報に基づく選択ができるようになることを目指す。心身を尊重することはすべての学習を確立していく上での礎石となる。

「環境」では、自然保護の重要性を理解することに焦点をあて、現在及び将来の世代に

適する自然界を保持していく責任を生徒が受け入れるよう求めていく。

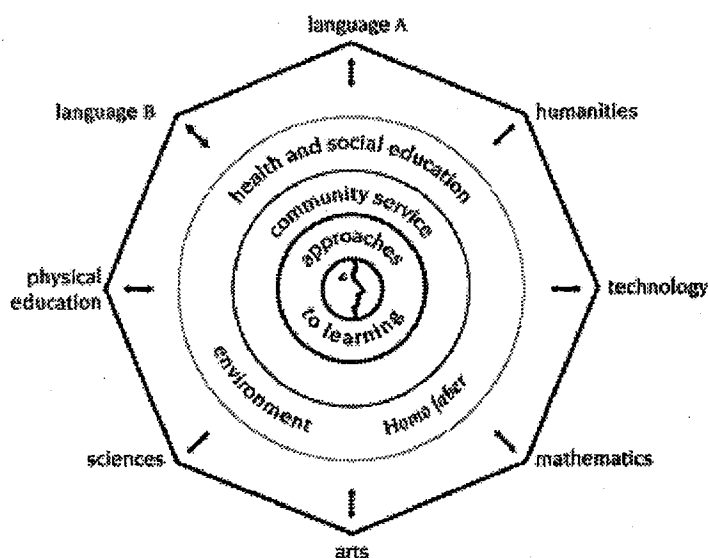
「ホモファーベル（道具を作る人）」は、人間の創造的及び発明的才能が生み出すもの、それらが社会や人間の心に及ぼす影響について考えている。生徒は人間の持つ人生の質を長期にわたって変化させ、享受し、改善するための能力や推進力をどのように認めていくかを学ぶ。

これらの分野は特定の学科のような学術分野ではなく、むしろ、学術的学科の中に組み込まれ、それら学問分野間を超えた「共通のテーマ」と言える。

これらのテーマは、MYP の 5 年間のコースで一貫して、基本的には教科を通して、また教科を超えた教授法やプロジェクト、全校的活動や個人の研究を通じた創造的な取り組みの中で追究されている。

MYP の 5 つの分野と 8 つの教科との関係は下記の 8 角形の図のように表される。関連分野の周りを 8 つの教科が取り囲んでいる形で表現することができる。

教科と分野の関係図



(4) パーソナルプロジェクトと成果の評価基準

関連分野の 5 つの分野は個々の学科というよりむしろテーマであり、直接評価したり個人の成績に反映されたりするというものではない。これらは、5 つの分野への生徒の継続的な関わりの推進を目的とした個々の作業である「パーソナルプロジェクト」を通して間接的に評価される。

パーソナルプロジェクトは MYP の最終学年の生徒が取り組むもので、それぞれの生徒が関連分野で学んできたことの成果をまとめる重要な場である。成果は、エッセイ、芸術作品の制作、もしくはその他の表現方法で実施される。生徒は MYP 教師と相談して題材を選択する。

以下の評価基準は IBO が MYP パーソナルプロジェクトに対して設定したものである。IB 認定評価および MYP 終了時の修了証に必要な最終評定は以下の評価基準に従わなければならない。

基準 A	立案と展開	最高 8
基準 B	情報／資料の収集	最高 6
基準 C	技術の選択と適用	最高 6
基準 D	分析／創造性	最高 8
基準 E	記述作品のまとめ	最高 6
基準 F	プロセスと最終結果の批評	最高 6
基準 G	関連分野の適用	最高 8
基準 H	個人的取り組み方と姿勢	最高 6

- ・それぞれの評価基準に対して、一連の到達度を示した評価内容解説が定められている。最低到達度は 0 で表される。
- ・各基準に同等の比重を置いているわけではない。
- ・評価内容解説は肯定的な成果に注目しているが、低水準の場合は達成不足の内容が評価解説に含まれる場合がある。
- ・個々の評価基準から生徒の総合到達度を最終的に一つの最終評定として換算する。

評価基準と評価内容について以下に示す。

基準 A：立案と展開 **最高 8**

生徒は、詳細な研究や作業を始める前に、明確な目標を定める必要があることを認識していなければならない。目標は趣旨説明文、または研究の焦点を絞り込む、一つ、あるいは複数の重要問題によって定義することができる。

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1－2	生徒は個人研究の目標を認識してはいるが、この目標をどのようにして達成するかについての概要を提示していない。
3－4	生徒は個人研究の目標を認識し、説明している。また、この目標をどのようにして達成するかについて、簡単な概要を提示している。
5－6	生徒は個人研究の目標を認識し、明確に説明している。また、この目標をどのようにして達成するかについて、一貫した説明を行っている。個人研究の進展は概してこの説明に一致している。
7－8	生徒は個人研究の目標を認識し、明確に説明している。また、この目標をどのようにして達成するかについての一貫した、完全な説明を行っている。個人研究の進展はこの説明に完全に一致している。

基準 B： 情報／資料の収集 **最高 6**

本基準によって、生徒は様々な情報源から適切な情報を収集する能力を示すことができる。生徒は全ての主張を実証し、および／または研究を裏付けるための十分な情報と適切な資料を選択しなければならない。

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1－2	収集した情報と資料の大部分は個人研究の目標とは関係がない。
3－4	個人研究に関係のある情報と資料の量は限られていて、適切な情報源の数も限られている。
5－6	個人研究には様々な適切な情報源から収集された、十分で関係のある情報と資料が見られる。

基準 C： 技術の選択と適用 **最高 6**

本基準は、個人研究の重要問題や趣旨説明文に定義されている、研究の目標に関連するアプローチ方法を発展させ、その技術を応用させる生徒の能力を評価する。

注： 大掛かりな研究は時として予期できない困難を招いたり、未完成に終わったりすることがある。
場合によっては、このような研究が基準Cにおいて高い水準に到達することもある。

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1－2	研究（方法、議論、技術）の大部分は生徒の定める目標に対して適切ではない。用いられた技術は大部分不適切であり、適用も不十分である。その結果として、作品の質は今一歩である。
3－4	個人研究の大部分は目標に対して適切である。技術と方法の選択と適用は概して適切である。作品の質は十分である。
5－6	個人研究は目標に対して、完全に、一貫して適切である。選択した技術は適切であり、効果的に用いられている。その結果として、作品の質は高い。

基準 D： 分析／創造性 **最高 8**

本基準では、個人研究で扱われているトピック／テーマを深く考察する生徒の能力を評価する。この考察には情報の分析・統合という形式を採る場合がある。生徒は創造力および／または独創的な考えを示し、研究目的に重点を置かなければならない。

到達度	評価内容解説
0	個人研究はトピック／テーマの取り扱いにおいて想像力に欠け、考察はまったく見られない。
1－2	個人研究にはほとんど考察が見られないが、大部分は叙述的／記述的である。生徒はトピック／テーマの創造的および／または想像的な取り扱いの多くの機会を逃している。
3－4	トピック／テーマの考察と個人的な取り扱いを真剣に試みているが、分析および／または創造性に対する重要な取り扱いの機会は未開発のままである。
5－6	個人研究には適切で正しく用いられた方法による重要な考察が見られる。しかし、よりすばらしい分析および／または創造性の機会のいくらかは追求されていない。
7－8	個人研究には深い考察および／または生徒自身の旺盛なアイデアとビジョンが明確に見られる。また、トピック／テーマに対する重要な考察と真に個人的な反応が見られる。

基準 E： 記述作品のまとまり 最高 6

本基準は、記述作品（創造的研究についてのレポート、または小論文や個人的趣旨説明文など）の発表と、その内容構成や一貫性に焦点を当てている。

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1－2	記述作品にはまとまりがなく、適当な順序と一貫した構成が欠けている。
3－4	作品をまとめる試みは多少見られ、適切なところでふさわしい発表（文献目録、脚注や記号、図や画像など）にいくらか注意が払われている。
5－6	まとまりと構成は全体に渡って一貫しており、適切なところでふさわしい発表（文献目録、脚注や記号、図や画像など）が明確にされている。

基準 F： プロセスと最終結果の批評 最高 6

本基準における生徒の到達度は、結論およびレポートの本文や個人的趣旨説明文から判断することができる。生徒は以下のような質問に対して意見を述べる必要がある。

- ・ 目的をどれだけ達成しているか
- ・ それぞれの発展段階における研究の長所と短所は何か
- ・ このトピックについて新たに浮かんできた疑問は何か

- ・ もう一度この研究を行うとしたら、どのような異なった方法が考えられるか

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1 - 2	生徒の批評は単に個人研究の記述的要約であるか、または最初に定められた目標という点から見ると、研究の表面的な批評にすぎない。
3 - 4	生徒は、最初に定められた目標という点から見ると、一貫してプロジェクトを批評している。
5 - 6	生徒は、最初に定められた目標という点から見ると、包括的に研究を批評している。また、選択したトピックに関連する総合的な展望を認識している。

基準 G： 関連分野の適用 **最高 8**

個人研究の目標は関連分野における複数の側面を理解・認識することにあることを、生徒と教師は心に留めておく必要がある。本基準は、学習方法を除く、生徒の研究と関連分野との有意義な関係を示す生徒の能力に触れている。

全体として、研究の取り扱いにおいては、関連分野から刺激を受けたということが明確に表されていないと認めなければならない。複数の関連分野とのつながりは、レポート／趣意説明文において明示されていないと認めなければならない。生徒は自分が関連づけた関連分野とのつながりと、採択した思考プロセスを説明し、それを発展させる必要がある。

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1 - 2	生徒は単純な方法で少なくとも一つの関連分野（社会奉仕、健康・社会教育、環境、ホモファーベルなど）へのつながりを認識している。
3 - 4	生徒は少なくとも一つの関連分野（社会奉仕、健康・社会教育、環境、ホモファーベルなど）へのいくつかのつながりを認識し、発展させている。
5 - 6	生徒は複数の関連分野（社会奉仕、健康・社会教育、環境、ホモファーベルなど）への一連のつながりを認識し、発展させている。
7 - 8	生徒は、複数の関連分野（社会奉仕、健康・社会教育、環境、ホモファーベルなど）への重要なつながりを深く認識し、発展させている。

基準 H： 個人的取り組み方と姿勢 **最高 6**

本基準は、個人研究の立案や発展段階における、生徒の姿勢に対する包括的な評価に焦点を当てている。個人的取り組み方や意気込み、率先力、共感などの質を考慮しなければ

ならない。性質上から言って、これらの質を数値で表すことは困難である。この評価においては、研究が行われた状況を考慮しなければならない。

評価するにあたり、裏付け資料(日誌やプロセスの記録など)の適切な使用のみならず、生徒がどれだけ励ましを必要としたか、どれだけ監督者との対話があったか、どれだけ提出期限と手順に注意を払ったか、などを心に留めておかなければならない。

到達度の決定を行う際は、個人研究で見取れる上記の質がどの程度まで達しているかについて、総合的な判断を下し、この判断に基づく必要がある。

到達度	評価内容解説
0	生徒は以下に示された基準の何れにも到達していない。
1 - 2	個人研究はお決まりの作業であると判断でき、上記のどの質もほとんど見受けられない。
3 - 4	個人研究は上記のほとんどの質に関して十分だと判断できる。
5 - 6	個人研究は上記の質に関して傑出していると判断できる。

2 ディプロマ・プログラムの CAS の評価基準

国際バカロレアのディプロマ・プログラム(Diploma Programme)に CAS と呼ばれるユニークなプログラムがある。CAS とは Creativity, Action, Service (創造性、活動、奉仕)の略称である。CAS は教科の学習以外の活動において人生の重要性を理解させるためのものである。CAS により、知識や関心、他人と協力して作業する能力を開発し、自己の才能を活かし他と共有する喜びを体験させ、バランスのとれた人間へと成長させることをめざしている。ここでは CAS の活動の事例とその評価方法及び評価基準を採り上げる。

(1) ディプロマ・プログラムの概要

国際バカロレアのディプロマ・プログラムを導入するには国際バカロレア機構の認可校になる必要がある。また、ディプロマを取得するには高校の最終2学年間に必要な科目を履修し、5月または11月に実施される国際バカロレア統一試験¹に合格する必要がある。

ディプロマ・カリキュラムは、6つのグループにより構成されている科目群²からなり、生徒は履修規定に従って必要な科目を履修しなければならない。

ディプロマ取得のためには、「課題論文(Extended Essay)」、「知識の理論 (Theory of Knowledge)」、「創造性・活動・奉仕 (Creativity, Action, Service)」の3つの要件も満たさなければならない。

¹国際バカロレアのプログラムは英語・フランス語・スペイン語で書かれており、従って統一試験もこの3カ国語で出題されている。

² 国際バカロレア・ディプロマ・カリキュラム

		科目
グループ 1	第一言語	A 1 言語 HL/SL (母語又はそれに準ずる言語) の文学学習と世界の文学鑑賞と理解
グループ 2	第二言語	A 2 言語 HL/SL (第一言語に準ずる高度な言語能力・バイリンガル) B 言語 HL/SL (既習外国語：中級—上級) ab initio 言語 SL (未習外国語：初級)
グループ 3	個人と社会	歴史 HL/SL、地理 HL/SL、経済学 HL/SL、哲学 HL/SL、心理学 HL/SL、文化及び社会人類学 HL/SL、ビジネスと経営学 HL/SL、イスラム世界の歴史 HL/SL、グローバル社会における情報技術 SL
グループ 4	実験科学	生物 HL/SL、化学 HL/SL、物理 HL/SL、環境システム HL/SL、デザイン技術 HL/SL
グループ 5	数学	数学 HL、高等数学 HL、 数学的方法 SL、 数学的研究 SL
グループ 6	芸術と 選択科目	美術・デザイン HL/SL、音楽 HL/SL、演劇 HL/SL、コンピュータ科学 HL/SL、ラテン語 HL/SL、古典ギリシャ語 HL/SL、又は上記の科目群からもう一科目選択、I B O の承認を得た加盟校作成のシラバスに基づいた科目

(HL：上級レベル、SL：標準レベル)

「課題論文」は、生徒が科目群の中から履修した6科目の中の1つの科目に関連した研究課題を決めて、担当教師の指導の下に研究調査を行い、その結果を英文4,000語以内の学術論文にまとめる（和文の場合は8,000字以内と規定されている）ものである。

「知識の理論」は、国際バカロレア独自の学習コースで、生徒が知識を吸収するだけでなく、学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味して、理性的な考え方と客観的精神を養うことをねらいとしている。また、言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて、偏見のない生徒を育成することも重視している。ディプロマ取得をめざす生徒は2年間にわたり、最低100時間の学習を義務付けられている。

「創造性・活動・奉仕」は、生徒が教科の勉強にのみ没頭し社会から隔離された存在にならないように、また、学問以外の生活の重要性を真摯に受け止めさせるためのプログラムである。必修になっていて、生徒は2年間でそれぞれ最低50時間ずつ、合計150時間以上従事しなければならない。

（2）CAS 活動の事例

I B加盟校はその地域に根ざしたCASの活動が行えるような体制を整えている。生徒は芸術活動、スポーツ、さらに奉仕活動に参加することにより、広い社会で体験をつみ、色々な人と共同作業をすることにより協調性の大切さを学ぶ。以下は具体的な活動の若干の事例である。

泳げない児童への水泳指導（活動・奉仕）

下級生にギター指導（創造性・奉仕）

学校新聞の作成（創造性・奉仕）

地域の学校における他の生徒との美術・音楽交流（創造性・奉仕）

高齢者への物理的な支援（奉仕）

児童の野外キャンプの組織化（活動・奉仕）

海の流油汚染、くずや捨て荷の清掃（活動・奉仕）

アムネスティ・インターナショナル、グリーンピース等への寄附金集め（創造性・奉仕）

CASのホームページを創作・運営（創造性・奉仕）

CASのガイドブックでは、次の質問項目を自分の意図している行動がCASとして適切であるかどうかを判断する指針として挙げている。

- ・ この活動は自分にとって経験のない役割か
- ・ 今しようとしている仕事は本当に挑戦的か
- ・ これは他の人や私に本当に何かよい結果をもたらすのだろうか
- ・ これに関わることにより私は何を学ぼうとしているのか
- ・ この活動は他の人にどのように役立つことができるのだろうか
- ・ この活動で私は何に影響を与えることができるのか

CASは人生の意味を発見し、文化や社会経済的な壁を越えて世の中に自分の居場所を見つける上で役立つ。

なお、IBO は IB 証明書の中で生徒が行った CAS 活動を正式に認めることはしていないが、教育上の利点から全ての生徒の参加を強く推奨している。

(3) 校長と CAS コーディネーターの責任

国際バカロレア機構は学校の CAS 活動を監視するが、生徒が意味深い活動やプロジェクトに参加するよう徹底させるのは、基本的には学校の責任である。

学校長は、CAS 活動を充実させるために、この重要な任務を担うのにふさわしい経験豊かな教師を CAS コーディネーターとして指名する。また、CAS の運営をスムーズに行うため適切な資金を割り当てたり、ディプロマ・プログラムにおける CAS の理念やその中心的役割について、保護者に十分な情報を提供したりする必要がある。

CAS コーディネーターは、①CAS の特質や理念、その主眼とする目標や目的を十分に理解すること、②全ての生徒が CAS の目標や目的を十分理解し、また CAS から恩恵を受ける方法を認識できるように CAS の理論的解釈について充分情報を提供すること、③保護者に CAS の重要性や理論、要件について十分な情報を提供すること、④地域社会との関係を樹立し、生徒が自分の住んでいる社会について知識を深めることができるようにすること、⑤CAS の記録を作成・ファイルし、安全な場所に保管しておくこと、⑥生徒に対するメンター役（指導者）を引き受けること、などをする必要がある。

地域担当ディレクターや認可機関の代表者が監視過程の一環として学校を訪問することがある。訪問は地域オフィスが自主的に行う場合と学校の要請に基づいて行う場合がある。学校は CAS の記録を一括して管理することが求められ、これらの書類は、地域オフィスの要求に応えていつでも提示できるようにしておかなければならない。

(4) CAS の評価方法と評価基準

国際バカロレア機構は、ディプロマ取得候補者の CAS 活動について以下の二つの方法で評価するよう求めている。

1. 生徒による評価

- ・活動や取り組みの記録
- ・自己評価
- ・最終自己評価を伴う最終まとめ報告書

2. 学校による評価

- ・監督者の評価（監督した活動や取り組みに対するコメントを含む）
- ・CAS コーディネーターの評価（CAS 活動中に与えた指導も含む）

国際バカロレア機構は、できるだけ広範な評価方法を適用するよう推奨している。それらは公式・非公式³を問わない。

CAS は、国際バカロレア・ディプロマの授与を受けるためのその他全ての要件に対する評価と同様の評価を受ける。候補者が CAS 要件を完全に満たすためには、自己評価や学校評価ばかりでなく、質の高いバランスの取れた内容で、有意義な関わりがあったことを明確に示す記録を提示しなければならない。CAS に費やした時間を示すだけでは充分でない。

(4-1) 生徒による評価の詳細

生徒による評価については以下のことに重点をおいて評価する。

- CAS 日誌、生徒の関わりを示す文書や視覚的な証拠などを盛り込んだファイルや参考資料
- 企画や組織作りの証拠
- 責任や努力の証拠
- 活動のスタート時点でのスキルや態度、価値観を踏まえた上での候補者の個人的な達成度や成長度
- CAS 活動全般を通しての反省の証拠

生徒による反省及び自己評価

CAS コーディネーターは活動を開始する前に、定期的な活動や取り組みの終了毎に自己評価報告書や反省文を書くことの重要性を、すべての生徒に明確に説明しておかなければならない。生徒は以下のことをしなければならない。

- CAS 活動毎に記録をつけること
- 定期的活動の一つの活動の終了毎に、また一つの取り組みの定期的な合間毎に反省文を書くこと
- CAS 日誌やファイル、参考資料の中に記録及び反省文を書き入れること

個人の活動や取り組みの記録は所定の書式に回答する形で行うことができる（ディプロマ・プログラム・コーディネーターから入手できる）。また、書式にある質問を利用して反省文を書くこともできる。質問は CAS の目的に基づき、生徒に以下のことについて考察するよう求めている。

- CAS 活動を通して個人的にどの程度成長できたか
- 経験を通じてどの程度の理解やスキル、価値観が得られたか

³公式評価は、基本的に、各活動に対する学校評価及び自己評価のことである。

非公式評価の一つに、生徒の活動を成人指導者や CAS コーディネーターが直接観察するという方法がある。また、指導者や CAS コーディネーターとグループや個人で直接話し合う方法もある。生徒が自分たちの経験を分かち合うため定期的な会合を設けることも、CAS が自己の発達にとってどのような意味合いをもつかをより一層理解する上で役立つことになる。

- 活動がどのように他人の役に立ったか
- 自分の長所や短所についてどの程度認識できたか

生徒が写真やビデオテープ、オーディオテープを使用して CAS 活動を記録したのも正式の評価報告書を作成する際に有用な参考資料となる。CAS 活動の最後には、生徒は全ての取り組みや活動を一覧して最終自己評価を行い、全ての CAS 活動に関する反省を文書にして作成し、以下の質問に対する回答を添える。これについては所定の書式（ディプロマ・プログラム・コーディネーターから入手）を使用する。最終自己評価報告書を構成するには、指針となる質問を用いなければならない。

自己評価作業は以下の質問や説明文に基づいて行わなければならない。

1. 活動を説明する。各段階で何をしたか。関わった日付を明記する。
2. この活動で何を達成したかったのか。実際何を達成したか。
3. どのような困難に直面したか。
4. この活動で達成したいと望んでいたことを、いずれかの段階で達成できないかもしれないと感じたことはあるか。
5. この活動から、自分自身について、他人について、教科についてどのようなことを学ぼうとしたか（例：自信、謙虚さ、尊敬心、認識、責任、好奇心、正直さ、客観性、関わり責任、主導性、決断力、新スキル、チャレンジ精神）。
6. この活動の間に支援してくれた人はいるか。助けを受けた場合は、それを説明する。
7. この活動が他の人や組織にどのように役立ったか。
8. 同じ活動をもう一度する場合は、どの点を変えるか。
9. この活動を継続する場合は、次にはどのようなことをするか。

（4-2）学校による評価の詳細

監督者からの評価

最低限の責任として、定期的な活動の一つの活動の終了時や一つのプロジェクトの終了時に生徒が作成する自己評価報告書にコメントを記入する必要がある。監督者は、生徒の日誌やファイル、参考資料に手紙を添付することが望ましい。複数の生徒が関わる活動では、要件を満たした生徒に対して成績の優秀さを示す手紙や証明書を提供する。

CAS コーディネーター：記録及び評価

学校はディプロマ・プログラム受講生の CAS 活動記録文書を作成し、保管することが求められる。これらの記録は、大学進学や転校、または地域オフィスの求めに応じて提出する評価書類の作成をスムーズにするものである。

CAS コーディネーターは、生徒一人一人に対する最終成績評価を行わなければならない。

評価は生徒が提出した書類による評価ばかりでなく、口頭試験やグループプレゼンテーション、活動現場でのプレゼンテーションなどの評価にも重点を置かなければならない。

成績基準の適用

以下の成績基準は CAS 活動中に生徒が示すことが期待される関連する資質や性質の範囲を述べている。これらは CAS の目的と一致する。基準は相互に関連性があり、重複する部分もかなりあるが、CAS コーディネーターが生徒の成績を評価する上で助けとなるよう考案されている。

なお、これらの基準は生徒や保護者にも認識してもらうことが望ましい。

成績基準

基準 A：個人の達成度	困難なことに挑戦する能力、定期的な参加、自分の限界の認識、新たな役割における進歩、経験からの学習、社会問題解決への支援。
基準 B：個人のスキル	創造的な思考、社会のニーズの調査、企画及び組織化、資源管理、成功と失敗の見極め
基準 C：個人の資質	持続性、自信、ある程度の謙虚さ、責任感、時間厳守、関わり、信頼性、指導性
基準 D：個人間関係の質	適応性、協調性、他人を思いやる心、尊敬の念、正義感と公正な態度
基準 E：世界的問題の認識	地域、国、国際的な視野から行動を選択する上で役立つ、人道的問題や環境問題に対する倫理的評価



International Baccalaureate Form CAS/AEF

CAS: Activity self-evaluation form

SUBMIT TO: **ACTIVITY LEADER**

SESSION:

SCHOOL CODE:

--	--	--	--

SCHOOL NAME:

Candidates must complete a copy of this form at the end of each activity. Type the information or write legibly using black ink.

CANDIDATE SELF EVALUATION

CANDIDATE NAME: _____ CAND. NO:

--	--	--	--	--	--	--	--

NAME OF ACTIVITY: _____ NO. OF HOURS (APPROX):

--

1. Summarise what you did in this activity and how you interacted with others.

2. Explain what you hoped to accomplish through this activity.

3. How successful were you in achieving your goals? What difficulties did you encounter and how did you overcome them?

4. What did you actually learn about yourself and others through this activity?

SCHOOL NAME:

5. Did anyone help you to think about your learning during this activity? If so, who helped and how did they help?

.....
.....
.....

6. How did this activity benefit others?

.....
.....
.....

7. What might you do differently next time to improve?

.....
.....
.....

8. How can you apply what you have learned in other life situations?

.....
.....
.....

Candidate's signature: Date:

To be completed by the Activity Leader

Punctuality and attendance:

Effort and commitment:

Further comments:

The activity was (circle the desired response):

Satisfactorily completed

Not satisfactorily completed

Activity leader's name:

Activity leader's signature:..... Date:



International Baccalaureate Form CAS/SFS

CAS: student final summary

SUBMIT TO: CAS teacher SCHOOL DEADLINE:SESSION:

SCHOOL CODE SCHOOL NAME:

- Type or write legibly using black ink.
- This form is to be retained by the school. Do not send to the regional office unless requested.

CANDIDATE NAME: _____ CAND NO:

Indicate below the CAS projects/activities in which you have been involved and the hours dedicated to each one with a total number of hours for the whole CAS course.

Number of CAS projects/activities which you have undertaken Total hours dedicated

Projects/activities	Approximate no of hours
1 _____	<input type="text"/>
2 _____	<input type="text"/>
3 _____	<input type="text"/>
4 _____	<input type="text"/>
5 _____	<input type="text"/>
6 _____	<input type="text"/>
7 _____	<input type="text"/>
8 _____	<input type="text"/>
9 _____	<input type="text"/>
10 _____	<input type="text"/>
11 _____	<input type="text"/>
12 _____	<input type="text"/>
13 _____	<input type="text"/>
14 _____	<input type="text"/>
15 _____	<input type="text"/>
16 _____	<input type="text"/>

CANDIDATE NAME:

CAND NO:

--	--	--	--	--	--	--	--

Write a clear and complete critical reflection on your **entire CAS experience**, following the same performance criteria as indicated on the activity/project self-evaluation form CAS/AEF

Lined area for writing the critical reflection.

Candidate's signature:

Date:

CAS COORDINATOR'S NAME.....

I guarantee the information given is correct.

CAS coordinator's signature:

Date:

第5章 リソース

1 児童生徒の作品のサンプルと評価の例

北西部地域教育研究所 (Northwest Regional Educational Laboratory: NWREL) が開発した作文のルーブリックは高い評価を得て広く利用されている。しかし、いくらすぐれたルーブリックがあっても誰もが信頼の置ける評価ができるというわけにはいかない。ルーブリックを理解したら実際に自分で生徒の作文を評価してみる必要がある。すぐれた評価者になるにはやはり研修が欠かせない。NWRELでは、そのような研修の必要性を考え、ウェブ・サイトで情報を提供している (Scoring Practice 6+1 Trait™ Writing)。アドレスは、(<http://www.nwrel.org/assessment/scoringpractice.asp?odelay=3&d=1>) である。

上記サイトでは、平成 15 年 3 月 7 日現在、13 の生徒の作文を見ることができる (Spelunking, I Can Fly, Wicked Queen, Color Crayon, My Trip to the River, Yellow Mama, The special people in orgon¹, Does Healthy Foods Sound Disgusting?, Memories, My Friend Lucky, My Nintendo, My Special Friend, Wheelchair)。

作文の評価規準ともいえる 6 つのトレイツ (traits) (構想、構成、表現、言葉の選択、文章の流暢さ、文法)、評価のレベル (1~5)、学年 (小学校の 1 年生~3 年生、小学校の 4 年生・5 年生、中学校の 6 年生~8 年生、高校の 9 年生~12 年生) をそれぞれ指定することで、上の作文の中から該当する作文が取り出される仕組みになっている。

例えば、トレイツの構成、評価の 4、小学校の 4 年生・5 年生を指定すれば、Color Crayon と My Trip to the River という題の作文がその条件に該当することが示される。そして、そのうちの My Trip to the River を表示したければ、その題をクリックする。すると下記の作文が示される。

Paper Title: My Trip to the River

Grade: Late Elementary (4-5)

My Trip to the River:

This story happened a few years ago, when I was smaller. It was a cold day, so my mom bundled up my brother and I. That was usual.

My family (including me), and some of my mom's friends went on a trip to the river. I can't remember what my mom's friends name's were.

Malcolm, my brother, was bored, so he decided to pick on me. You know how brothers are.

¹ 綴りの間違いはそのままにしている。引用例も同様に間違いを直していない。

We road in a boat. It was my first time riding in a boat. I didn't get to ride in boat's that often. Malcolm was teasing me about the boat tipping. Then, my mom dropped the paddle. She got it back though.

We ate, and then headed on up the trail that led to the truck.

Malcolm reached out for my hat and missed. It fell in the river. He reached out to pick it up as it started to drift away. He reached a little further. Malcolm got ahold of it.

Splash! He fell in. My brother started to panic.

Help I'm drowning! he said. Everyone just stood there.

One of my mom's friends told him to stand up if he wanted to live. He found out the water was only up to his knees. I lauged. He didn't think it was funny!

上記の作文がトレイトごとにどのような評価になるかを知りたいければ、ページの上にある show score という部分をクリックすれば、先ほどの作文の上に、次の査読者 1 と 2 による評価とコメントが示される。

Paper Title: My Trip to the River

Grade: Late Elementary (4-5)

Scores:

	Ideas	Organization	Voice	Word Choice	Fluency	Conventions
Reader 1	4	3	4	3	3	3
Reader 2	4	4	3	3	3	4

Comment 1: This student selected a good narrative story to tell with enough steam of its own to deliver a solid punchline, despite unimportant details dragging down the pace('I can't remember what my mom's friend's names's were'). Work on transitions, sequencing and sentence fluency would help bring out the hilarity of this story and to heighten the strong hints of voice.

Comment 2: Details are well selected in this piece, but the writer's delivery comes off as robot-like due to lack of variation in sentence patterns.

評価を隠した画面で、作文を評価してみて、他の査読者と比べて見ることを薦める。経験を積めば他の査読者との違いは少なくなるであろう。

日本語によるこのようなサンプルと評価の結果の情報が広く普及すれば、先生たちの力量の向上に大いに役立つものと思われる。あわせて、先生たちの評価に関するワークショップで利用できるような実例を含むテキストの開発が待たれる。

この他にも、生徒の作品のサンプルと評価の例が見られるウェブ・サイトには、ニューヨーク州立大学が掲載している「LIVING ENVIRONMENT REGENTS EXAMINATION TEST SAMPLER DRAFT FALL 2000」がある。

<http://www.ekcsk12.org/science/leexamtestsamplerparttwo.pdf>

2 多くのルーブリックを集めているウェブ・サイト

さまざまなルーブリック整理して提供しているウェブ・サイトがある。シカゴの教育委員会が作成しているものがその一つである。2003年3月現在で、全米から集められたルーブリックが教科ごとにまとめられている（リーディングのルーブリックが23、数学のルーブリックが21、科学のルーブリックが14、社会科のルーブリックが10、芸術のルーブリックが15、スピーキングのルーブリックが5、ライティングのルーブリックが12）。URLは下記の通りである。

<http://intranet.cps.k12.il.us/Assessments/Ideas and Rubrics/Rubric Bank/rubric bank.html>

教科別ではなく学年別にルーブリックをまとめているサイトがある。テキサス州にある Education Service Center の Region 20 が提供しているものである。

<http://www.esc20.k12.tx.us/etprojects/rubrics/Default.htm>

カナダにもルーブリックが充実したサイトがある。オンタリオ州の先生たちのために集めたものである。教科以外にもウェブ・ページのルーブリックやグループ作業のルーブリックなどさまざまなルーブリックが集められている。

<http://www.odyssey.on.ca/~elaine.coxon/rubrics.htm>

次のサイトも便利である。各種のルーブリックとともにマウスをクリックすればルーブリックに関する重要ないくつかの論文が読めるようにリンクされている。

<http://school.discovery.com/schrockguide/assess.html>

上記のサイト以外にもルーブリックに関する論文がインターネットにより入手できる。主要な論文には次のものがある。

Heidi Goodrich Andrade 氏による The Effects of Instructional Rubrics on Learning to Write (<http://cie.ed.asu.edu/volume4/number4/>) 及び同氏による Understanding Rubrics (<http://www.middleweb.com/rubricsHG.html>)。

Relearning by Design のスタッフによるルーブリックについての概要とサンプルを示しているもの (http://www.relearning.org/resources/PDF/rubric_sampler.pdf) は有益で

ある。このサイト (<http://www.relearning.org>) のリソースにも主要な論文が掲載され、論文が読めるようにリンクされている (<http://www.relearning.org/resources/index.html>)。

3 その他の参考文献

International Baccalaureate Organization (2001) Creativity, Action, Service

International Baccalaureate Organization (2000) Middle Years Programme Personal Project

Judith A. A. , McTighe J. (2001) Scoring Rubrics in the Classroom : Using Performance Criteria for Assessing and Improving Student Performance: Corwin Press, INC.

Pophan, WJ (2002). Classroom Assessment: What Teachers Need to Know (3 rd ed.): Allyn & Bacon.

Wiggins G. (1998) Educative Assessment: Designing Assessments to Inform and Improve Student Performance: Jossey-Bass

Wiggins G.(1999) Assessing Student Performance: Exploring the Purpose and Limits of Testing: Jossey-Bass

小田勝巳(1999)『総合的な学習に適したポートフォリオ学習と評価』学事出版

小田勝巳(2001)『子どもの成長を促すポートフォリオで学力形成』学事出版

国際カリキュラム研究会、「国際バカロレア・プログラムの評価基準及び大学との接続に関する調査研究」(平成 13 年度文部科学省委託研究) 平成 14 年 3 月

国際カリキュラム研究会、「国際バカロレア・プログラム (大学入学資格プログラム, 中等課程プログラム, 初等課程プログラム) における評価, 研修システム及び国際教育の位置付けに関する調査研究」(平成 12 年度文部省委託研究) 平成 13 年 3 月

鈴木敏恵(2000)『ポートフォリオで評価革命!』学事出版

高浦勝義(2002)『問題解決評価ーテスト中心からポートフォリオへー』明治図書

文部科学省大臣官房国際課、「国際バカロレアの概要」平成 14 年 3 月

資料

資料1 ルーブリックの欠点と長所

(” What’ s Wrong — and What’ s Right — with Rubrics” , Educational Leadership, Volume 55
Number 2 October 1997)

W. ジェイムズ・ポファム (W. James Popham)
カルフォルニア大学ロサンゼルス校名誉教授

ルーブリックは指導の質の向上に、たいへん大きく貢献する可能性がある。しかし、まずその前に、多くのルーブリックをほとんど無価値にしている欠点を正さなくてはならない。

今日、ルーブリックは大流行している。教育関連の会議に出席すれば必ず、ルーブリックを教育上の問題解決法とするゆるぎない支持に出くわす。実際、言葉自体があらゆる肯定的なイメージを喚起させるようだ。ルーブリックの支持者を信じるならば、これは議論の余地も無く、素晴らしいものである。

しかし、多くの教育者にとっては、ルーブリックは一連の疑問を抱かせるものである。ルーブリックとは何か、そしてどのように始まったのか。教育上適切な役割は何か。なぜ、こんなに多くの現在用いられているルーブリックが、教師と生徒双方にとっての手引きになるという期待に応えられないのか。ルーブリックを改良するためには何をすべきなのか。

ルーブリックの基礎

現在使われているように、ルーブリックという語は生徒の作品の質を評価するために用いられる採点の手引きを指す—例えば、作文、口頭発表、科学のプロジェクト。ルーブリックには、評価の基準、質の記述、そして採点方法という3つの本質的要素がある。

*評価の基準*は条件を満たした答とそうでない答を区別するために用いられる。基準は、関係する技能により、ルーブリックごとに明らかに異なる。例えば、作文を評価する場合、教師は構成、技巧、言葉の選択、裏付けとなる詳細のような評価の基準をよく使う。評価の基準はそれぞれ同じ得点が与えられることもあれば、重み付けがなされ異なる得点が与えられることもある。

*質の記述*は生徒の答の質的相違を判断する方法を表す。例えば、技巧が一つの評価基準であれば、技巧で最高点を取るには、生徒の作文は技巧的な誤りがあってはならないことをルーブリックで示すことができる。ルーブリックは個々の質のレベルに応じて別々の表現を使わなくてはならない。つまり、作文の構成に、4つの異なる質のレベルが割り当てられているとすれば、ルーブリックはレベル別にそれぞれに応じた表現を用意するのである。

*採点方法*は総合的(holistic)にも分析的(analytic)にも用いられる。総合的な方法を用いる場合、採点者は評価基準のすべてを考慮に入れるが、それらを一つの全体にわたる質の判断とする。分析的な

方法では、採点者は最終的に総合点としてまとめてもまとめなくてもよいが、それぞれの基準ごとの得点を出す必要がある。

ループリックのルーツ

「ループリック」の語源は生徒の成績をつけることとはほとんど関係がなかった。オックスフォード英語辞典によると、15世紀半ばには「ループリック」は本のさまざまな区分の表題を指していた。これは労を惜しまずに神聖な文献を模写したキリスト教の修道士たちの仕事からきていた。彼らは複写本の主なまとまりを必ず大きな赤い文字ではじめることにしていたのである。赤に対するラテン語は「ルーベル」であるので、「ループリック」は本の大きな区切りに対する表題を意味するようになったのである。

20年前に、「ループリック」は教育者の間で新しい意味を持ち始めた。生徒たちの作文の得点をつけた測定の専門家たちは、得点をつける指針となるいろいろな決まりのことを表すのにこの語を使い始めたのである。彼らはもっと誰にもすぐにわかる、たとえば「得点指針」のような表現を使うことが容易にできたかもしれない、しかし、「得点指針」では適度な不透明さが欠けていた。「ループリック」は、断固としてもっと不透明な、故に技術的に魅力的な、表現であったのである。

ループリックの役割

一般的に、評価される解答がかなり重要なものでなければループリックは用いられない。したがって、教師は短い解答を求めるテストで、生徒が答える解答を判断するにはループリックはまず使わない。さらに、もちろん、多肢選択テストのようなものの採点にはループリックは不必要である。少数の例外を除いて、教師はパフォーマンス・テストへの生徒の解答の妥当性を判断するためにループリックを用いるのである。

パフォーマンス・テストは生徒に厳しい課題を与え、作文や口頭で、又は何らかの作品を作る—例えば与えられた題について説得力のあるエッセイを書く—ことにより、生徒に課題に応えさせる。通常、教育者は大切な技能に関する生徒の状態を把握したいときに、パフォーマンス・テストを行う。パフォーマンス・テストの生徒のできのレベルを基に、教育者はテストが表す技能を生徒がどの程度修得しているかについて推測する。パフォーマンス・テストにおける優秀な成績は、その生徒がその技能をマスターしたことを表し、悪い成績はその反対を表している。

パフォーマンス・テストは概して生徒にかなり高いレベルの技能を発揮することを要求するため、さらに、関係する課題がしばしば本物（つまり、実社会の難題に似ている）であるため、パフォーマンス・テストは教育者やそうでない人々からも同様に、かなりの支持を受けている。パフォーマンス・テストがその後増えたので、ループリックが流行った—生徒の解答は採点されなければならないから—である。その結果、ほとんどの教科書出版業者は章の終りのテスト用にループリックをつくっている。また、標準到達度試験を配布し採点する試験業者は採点作業にループリックを導入している。

パフォーマンス・テストは生徒の重要な技能—教育者が教育上促進する価値があると見なしているもの—の熟達を測ることを意図している。実際、生徒の瑣末な技能の習熟や、教育を受け付けない生来の特性を測るために、だれがわざわざパフォーマンス・テストを作らなくてはならないのだ。教育者は生徒の技能の習熟を高めることを追求している。もしパフォーマンス・テストがそれを作成したり使用したりする努力の価値が真にあるならば、私たちは生徒の技能習熟にテストが果たした貢献に主として従って、それらのテストを評価しなくてはならない。

ルーブリックの何がいけないのか

ルーブリックはほぼ世界中の教育者から称賛を得ているが、ルーブリックの大多数は教育的には詐欺的である。それらは教育的インパクトが実際は全く無くても、指導に貢献したように見える。以下、教師が作ったものと商業的に出版されたルーブリックにあまりにもよく見られる、目に余る欠陥を4つ挙げる。

欠陥1：課題特化の評価の基準。ルーブリックの最重要構成要素は、生徒の成績判断に使用される評価の基準のセットである。基準は、ルーブリックの最も教育に関連した構成要素でなければならない。最終的に技能の習熟へと導くのは、生徒が評価基準に習熟することなので、基準は授業計画を立てるときに教師の手引きとなる必要がある。さらにその上、教師は、生徒が自分の努力を査定する助けになるよう、生徒が基準を利用できるようにしなければならない。

しかし、ルーブリックの評価の基準が特定のパフォーマンス・テストの限られた要素にだけ対応しているとしたらどうだろうか。残念なことに、私はそのような課題特化のルーブリックに最近たくさん出くわしている。特に、生徒に構成力を要求する最近作られた国の標準テストにおいて。

例えば、魔法瓶の断面の写真を示した課題で、魔法瓶が広く使われるようになる以前に発明されていなければならなかった材料を生徒に答えるよう要求する課題を考えてほしい。そのような課題は面白く、しばしば創作力に富み、生徒が楽しみながらできる。しかし、それについているルーブリックは、完全に課題特化の評価の基準になっている。それぞれの基準はテスト項目についての写真の特徴を適切に生徒が解釈することに対応している。それぞれの基準は一つのパフォーマンス・テストにおける特定の課題にしか基づいていない。

そのような課題特化の基準が、教師の指導計画の手引きになれるというのだろうか。生徒が自分の努力を評価するときの助けになるというのだろうか。そのような基準は、採点者間の同意が得られる公算がかなり高く、より速い採点が可能なので、おそらくテスト出版業者が課題特化の評価の基準を設定しているのだろう。しかし、教育的観点からすれば、そのような基準は本質的に無価値なものである。教師が必要とするものは測定される技能の本質的内容を把握する評価基準で、特定の課題に対応する技能の特定の提示ではないのだ。

欠陥2：あまりに漠然とした評価の基準。課題特化の評価の基準がルーブリックを教育的に無用なも

のにするように、あまりに漠然とした評価の基準も同様である。多くのルーブリックはとても形を成しているとはいえ、ばかばかしいような基準が示されている。

多くの商業的に出版されているルーブリックは、教師が表面上は生徒たちの成績を区別できるように、いくつかの質的レベルが示されている。生徒の成績の一番よいレベルは「上級」—もしくはそれに合った類義語—と分類され、「パフォーマンス・テストで与えられた課題に対して優れた返答—課題の主要な部分だけでなく、そのニュアンスにも注意を払った解答」と記述されている。二番目のもう少し低いレベルの答えには、やや誉め方の少ない語が用いられ、以下同様に続いている。本質的に、これらのあまりに漠然とした基準は教師と生徒双方に、課題に対する非常に優秀な生徒の答えは、つまりその、非常に優秀であるという結論を出させる。そして、もちろん、ひどくできの悪い生徒の答えは、お分かりのように、ひどくできが悪いとなる。

少々の誇張はしたが、そんなに的外れのことではない。現在教育的に有用であると宣伝されている多くのルーブリックは、教師と生徒に、生徒の答えで何が真に重要なのかに関して全く手がかりを示さず、テストされた技能の重要な特徴に関して、教師の何らの手引きにならない。

欠陥3：機能しない細部。多くのルーブリックにおけるもう一つの欠点は、はなはだしい長さである。忙しい教師は、関わりたくもないであろう。もし、我々がルーブリックで教室の指導に効果を発揮したいなら、教師が使うようなルーブリックを作る必要がある。冗長で、やたら細かいルーブリックは、過度に強制的な教師にしか用いられない。

最近出回っている多くのルーブリックは長すぎ、細かすぎる。結局のところ、初期のルーブリックのほとんどは、規模が大きく、重要な評価に用いるために作られた。もし、州の高校修了証書がいかにかに生徒が重要な州全体のパフォーマンス・テスト—例えば、作文—でよい成績を取るかに基づいているならば、それに伴うルーブリックの構造が、当然のことながら、細かい採点規則になったかもしれない。概して、ルーブリックの採点規則が細かく強制されればされるほど、評価者の間の同意が得られやすい。重要な試験には、細かいルーブリックが普通である。

教育者と教科書出版業者が教室で使うためにルーブリックを導入したとき、多くのモデルはこれらの初期の大規模な評価を基にしていた。しかし、そのような冗長で、やたら細かいルーブリックは、ほとんど必然的に教師のやる気をそいでしまう—不運な効果である。適切に作られたルーブリックは教育活動の力量を真に改善できるのだから。

もちろん、簡潔なルーブリックに比して、細かいルーブリックは、いかに生徒の答えの質を確認するかをよりの確に詳しく説明できるであろう。1～2ページのルーブリックは、6ページの「全ての採点規則を載せる」ルーブリックよりも大まかな解釈になりがちである。しかし、実際的な選択は結局以下のようなになる。(1) 厳格な採点の手引きは提供できないが、教師に使用される短いルーブリックを開発すべきか、又は、(2) 厳格な採点の手引きを提供するが、使用されないより冗長なルーブリックを開発すべきか。

幸い、ほぼどのような場合でも、冗長なルーブリックは、簡潔だが教室での指導にはるかに有用な形に縮小することがおそらく可能である。そのような簡略化したルーブリックは、依然として生徒の答えを判断するのに必要な重要な評価基準を得ることができる。対照的に、冗長なルーブリックは使われずに埃をかぶることになるだろう。

欠陥4：受験技術を技能それ自体と同等視する。この問題はルーブリック自体が引き起こすというよりも、使用者が間違いを犯すことで起こる。ルーブリックの使用者があまりにも任意のパフォーマンス・テストの詳細にとらわれ、テストを技能そのものと思い始めるようになるときに、特によく見られる誤解である。例えば、パフォーマンス・テストが特定の多段式解法を使って生徒に数学的問題解決技能を発揮するよう求める場合、あまりにも多くの教師が、生徒がその特定の多段式解法を習得することを教育上の努力目標として、固着するようになる。このような教師たちは技能の習得よりテストに熟達することに力を注ぐのである。

実際的には、真に価値のある技能は、さまざまなパフォーマンス・テストに具体化されるであろう一連の課題により、たぶん測られるであろう。例えば、生徒の即席のスピーチを行う能力を測定する場合、教師は「スピーチ」パフォーマンス・テストの多くの主題から選ぶことを許可することもある。実際問題、多くの異なるパフォーマンス・テストをして、たった一つの技能の提示を生徒にさせる時間は、教師には当然ない。パフォーマンス・テストをこなせばこなすほど、技能の習熟に関する判断はより正確なものになるが、教師は通常一回だけのパフォーマンス・テストに頼る。

それでも、教師はパフォーマンス・テストによって示される**技能**に向けて教育しなくてはならず、テストに向けてではない。テストに重点を置いた指導は、特にテストの詳細まで真似たものは、しばしば生徒の技能の習熟を妨げる。生徒は、事実、出題されたパフォーマンス・テストにより成績をあげる方法を学ぶが、もし異なるパフォーマンス・テスト同じ技能から作られたテストを受けさせられれば、失敗するかもしれない。教師は、パフォーマンス・テストは技能を表すものであることを心にとめておかなければならない。テストは技能そのものではないのである。

ルーブリックを正しく用いる

現在のルーブリックの多くを批判してきたからには、次は建設的になろう。パフォーマンス・テストの生徒の解答の質を判断するのに教師たちの助けになるとともに、そのテストによって表される技能を生徒に修得させる際に、それらの教師たちを支援するルーブリックとは、どのようなものになるだろうか。

第一に、そのようなルーブリックは3つから5つの評価の基準を含んでいる。生徒の答えを判断するのに使える、考えうる限りの基準のすべてを並べたくなるものだが、ルーブリックの開発者は、彼らの努力は教師を導くもので、圧倒するものではないことを心に留めておくべきである。ルーブリックにおいては、基準が少なければ少ないだけ利用者が多くなる。

第二に、それぞれの評価の基準は評価される技能の重要な特性を表さなくてはならない。技能を必要

とする課題に取り組むときに、基準を使う生徒の能力が育つように教師が支援できるという意味において、それぞれの基準は教えやすくなければならない。例えば、多くの教師は巧みな構成、効果的な言葉の選択、適切な技巧、適切な裏付けとなる細部を取り入れた作文の書き方を生徒が学ぶのを助けることにとても長けている。これらの基準の一つ一つは著しく教えやすい。生徒が作文の重要な技能を身に付けられるように、有能な作文の教師はこうした基準を生徒と共有するだろう。

図1は、生徒が平均・グラフ・結論 (averaging, graphing, and concluding) の3つの下位の課題を完遂するために必要な数学的スキルのための、簡潔で教授中心のルーブリックである。「グラフ」のルーブリックが示しているように、各下位の課題は教えやすい評価基準を持っており、それらの基準は広範囲にわたる類似の下位の課題に適用できる。使用者が異なっても生徒の答えを必ず同じように採点できるように、このルーブリックはそれぞれの評価基準の微妙な違いは描いていない。しかし、ルーブリックを作っていて、採点者間の一致と教育的効果のどちらを採るかに直面したならば、後者を選ぶべきである。

図1

教授を改善するルーブリック

以下の数学の課題は、3つの下位の課題を含んでおり、ルーブリックは教授と評価の適切な助けとなる。

課題：生徒に現実を基にした未処理のデータを与え、(1) 幾つかの平均値を求めさせ、(2) これらの平均値を指示されたグラフの型に表示させ、(3) グラフ化された平均値から防御可能な結論を出させる。

グラフにする下位の課題においては、一つかそれ以上の評価基準を定め、生徒の答えの採点に最高点を3点とする3段階の質を用いる。質のレベルを明示するために、教師は前年度の生徒の答えを例として使用できる。

下位の課題(2)の分析的採点ルーブリック：グラフ (評価基準：正確さ、タイトルの質、軸と中間項目の質)

かなり熟達 (3点)：生徒は課題で指示されたグラフ (例えば、棒・円・線グラフ) をあらゆる点で正確に作成し、タイトル、軸、中間項目が全て適切である。

熟達 (2点)：生徒は課題で指示されたグラフ (例えば、棒・円・線グラフ) をほとんど正確に作成し、タイトル、軸、中間項目がほとんど全て適切である。

熟達していない (1点)：生徒は課題で指示されたグラフ (例えば、棒・円・線グラフ) の作成が正確ではなく、適切なタイトル、軸、中間項目が半分以下である。

出典：ジャンヌ・ミヤサカ (Jeanne Miyasaka) 作成によるルーブリック
WestED, 2221 E. Turquoise, Phoenix, AZ 85028

ルーブリックに用いる、教えやすい評価の基準を分離することは、ばかげているとは言いたくない。

そんなことはないはずだ。しかし、今はもう、教えやすい評価の基準を含んだルーブリックを充分見てきたので、そのようなルーブリックを作ることができるかと確信している。

課題特化のルーブリックとあまりに漠然としたルーブリックを早くやめればやめるほど、実際に教育を高めるルーブリックを見つけ出す可能性が大きい。加えて、通常の使用においては、比較的簡潔なルーブリックが原則である。もしも、教師に、ルーブリックに載っている評価基準に指導上留意して欲しいならば、ルーブリックはめったに1～2ページを超えてはならない。教室で使用されるためのルーブリックで、ホッチキスでとじられている用紙の束は敵とみなすべきである。

ルーブリックは採点道具であるばかりではなく、もっと大切なことは、教育を啓発するものでもある。適切に設計されたルーブリックは教育の質に多大な貢献をする。残念ながら、現在教育者が使える多くのルーブリックは教育に寄与するものではない。もしそれらの欠陥ルーブリックが、速やかに教育に役立つものへと取り替えられなければ、ルーブリックの教育上の期待は実現しないであろう。

<http://www.ascd.org/safeschools/el9710/pophamrubric.html>

資料2 ルール通りに文章を書くのはやさしいことではない

（” Writing by the Rules No Easy Task” , By Jay Mathews (Washington Post Staff Writer), Tuesday, October 24, 2000; Page A13)

「ルーブリック」は生徒が基本に集中する助けになるが、教師や両親の中には創造性を押しつぶすという声もある

2000年10月24日
ジェイ・マシューズ
(ワシントン・ポスト記者)

ドナ・パトリックは、受け持ちの第6年生に州の作文テストの準備を前もってさせたかったので、同僚のジョン・カーターとともに、詳細な要求事項を教えて練習のエッセイを書かせた。教員に「ルーブリック」という特殊用語で知られているルールの一覧は、パラグラフの長さからトピック・センテンスの配置や立証する事項の数まで、課題のあらゆる面をカバーしていた。

フェアファックス郡のローズ・ヒル小学校で教鞭をとっていたパトリックは、彼らの方法がクラスの試験の準備に非常に有効であったことを知って喜んだ。「多くの学習障害の生徒も含めて、全生徒が合格しました」と彼女は言った。

しかし、彼女は同時に何か不安も覚えていた。ユーモアと意外性にあふれた文体を持ち、文章の才能を見せていた幾人かの生徒が、それらのルールに従った時は面白みが少ないものを書いたのだ。

「ルーブリック」は、最近の20年間で国中のほとんど全ての学校に広がった教授・評価方法であり、これによってひきおこされた問題に取り組む多くの教師の一人にパトリックも数えられる。

「ルーブリック」という用語はいくつかのテクニックを包含する。ある場合は、パトリックのように、課題に対して教師が設定したルールとなる。成績評価のガイドにする教師もいる。例えば、1,000語のペーパーに10の出典を引用し、主題を支える論拠が少なくとも3つあれば、Aが取れるが、ペーパーが600語で出典が6つで論旨が2つだとCになると生徒に教えるのである。ルーブリックは主に作文に用いられるが、図画や話すこと、その他の課題にも適用される。

理屈としては、きわめて明確な規準を与えることにより、生徒は成績をあげるために何をすればよいのかがはっきり理解できる、ということである。しかし、稚拙な使い方をすれば、想像力を抑え、教師を教育者というよりは得点記録係にしまいかねないという意見もある。

全米英語教師審議会の副理事であるポール・ボドマーは、「適切に用いれば、ルーブリックは有用で役に立つ。問題は複雑な過程を単純化しすぎることである.... 何年も前に買うことができた、あのなつかしい番号に従って絵を書くキットのようなもののように。」と言った。

多くの教師はルーブリックを擁護している。クラスに張り出された教師のお気に入りの生徒の作品を読んで、何が要求されているのかは生徒たちが考えなければならなかった頃に比べれば、大変な改善であるとしている。

ルーブリックは生徒と両親に「明確で目に見える習得すべき技能の実例」を提供し、教師の偏見により成績が影響されることを抑えると、サウス・カロライナ州コンウェイ高校で英語を教えているダイアン・バトラーは語る。

批評家も同様に意見を述べている。ニュー・ハンプシャー州立大学の英語の教授であるトマス・ニューカークによれば、ルーブリックは「作文の機械的な教育」を助長し、「創作するという人間的行為や反応するという人間的な感情表現」を無視する。ニューカークは、エデュケーション・ウィーク紙に掲載された随筆で、「いまを生きる (Dead Poets Society)」という映画の一場面を思い起こしている。それは、作文は重要性和技能 (execution) の2つの特質をグラフにすることで評価できると書かれた教科書の前書きを音読する場面で、ロビン・ウィリアムスが演じる教師は、生徒たちに前書きを教科書から破り捨てなさいと言った。

「ルーブリックをどんどん細かい形にしていくことは、非常に陳腐で型にはまった指導と学習の見解を持つことになる。」と、マクリーン高校の英語教師、キャシー・コルグレイザーは述べている。「全てに融通の利かないやりかたをする学校に務めるのは絶対いやです。」

AやB、Cの成績にどれだけの勉強が必要かを分からせるルーブリックは、一部の両親たちにも不安を与えている。教師がやる気のない生徒に怠ける許可を与えているようだと言っている。

ウィスコンシン州立大学ホワイトウォーター校の教育測定・統計学教授、スティーブン・J・フリードマンによれば、ルーブリックのシステムは1980年代に発展したという。その当時、独創性に欠け、無益であると思われていた多肢選択テストに代わる、いわゆる「真正の評価」を教育者は求めていたのである。もし教師が適切に訓練されれば、課題を台無しにすることなく、重要な部分に分類することができるとフリードマンは述べている。

ロックビルのウートン高校の英語教師であるジョイ・ポールは、ニューカークのような批評家にはいらいらすと言っている。彼女はニューカークを「あいまいなパラメーターに魅せられたロマンチスト」と呼んでいる。良い作品に関する教師の基準が不明瞭で恣意的だと、出来の悪い生徒はお手上げで「先生は私を嫌っている」とただ言うだけだと彼女は言っている。

プリンス・ジョージズ郡のエレノア・ルーズベルト高校の社会科教師、ケネス・バーンスタインは、ばかげたルーブリックもあることを認めている。彼は、一度、ある8年生の女生徒に特別の単位を与えたことがある。その生徒は、意味のある内容を全く使わずに、彼がクラスに張り出した州の作文ルーブリックの全条件を満たすことができることに気づいた。彼女は要求された通り、「説得する (persuade)」という単語とその2つの同意語を用い、明確な主題の文章と最後の結論を書き、綴りや文法の間違ひもおかさなかつた。しかし、彼女はそれをつじつまがあつたことを何一つ言うことなし

に書き上げたのである。

「彼女は、エッセイではっきりさせたように、意味が無いと思っているシステムをやっつける方法を考え出した」のだとバーンスタインは言った。

しかし、それでもバーンスタインは作文の評価にはルーブリックを用いている。2000年の大統領選挙戦についての課題を出したとき、候補者の正確な描写に10点、主張を支える細かい描写に10点、全体的効果に10点、題材の適切さに10点、優れた構成と滑らかな議論の展開に15点、さらに、文法と言葉の使い方に5点、を与えると生徒に伝えた。

彼の生徒の一人、9年生のエイジア・プロクターは、「先生の意見だけで成績がつけられるのではなく、標準化された合意に基づく成績評価システムによってつけられるので」、この方法はリラックスできると述べた。同級生のカイラ・S・ムーアは「ルーブリックは分かりやすいし、これまでよりも正しく指示に従うことができた」と言った。

コロンビア特別区の教師の指導力改善を担当しているキャサリン・トマス教諭によれば、この方法を用いない教師は、傲慢で、自分を「無限の知識を有し、絶対に過ちを犯さない神」と考えている。そのような教師たちは、成績評価に正当な理由付けができないので、「父母と教師の会」での心配の種であり、生徒に不安を与える原因になっている、と述べている。

フェアファックス郡の最近退職した高校の歴史教諭、フレッド・モーハートは、政治的観点が彼と異なっていた生徒のエッセイに厳しい点数をつけたことを、その生徒の保護者から非難された時、ルーブリックを使って助かったと述べた。生徒がどのように自分のエッセイを必要条件のリストに基づいて採点するかをモーハートが説明した後、「私の誠実さに対する異議は謝罪と共に撤回された。」

ワシントン州ベルビューのニューポート高校で英語教師をしているナンシー・ポッターは、ルーブリック評価は、アドバンスト・プレースメントの文学と言語テストのような国の試験に対して特に有効であると述べた。採点者はエッセイの問題に対する生徒の答えのサンプルを読み、次に、得点に必要な要素を決めるのである。

創造力のある生徒はルーブリックを窮屈だと思うかもしれないと教育者は言うが、作文が苦手な生徒は助かる。サウス・カロライナ州では、バトラーと彼の同僚は、卒業に必要な州の作文のテストに落ちた高校の上級生たちのために、ルーブリックに重点を置いた3時間の補修コースを開発した。

補修コースをとった後で再試を受けた「生徒たちの合格率が、90%以下になったことはありません」と彼女は述べた。「英語がほとんどできない外国の交換留学生でさえ、合格することが可能です。驚異的ではありませんこと。」

<http://www.washingtonpost.com/ac2/wp-dyn?pagename=article&node=&contentId=A63599-2000Oct23¬Found=true>

資料3 「交渉協定」によるルーブリック創りと評価

(" Creating Rubrics Through Negotiable Contracting and Assessment" , Published by ERIC 1997, By Andi Stix, Ed. D., US Department of Education ERIC #TM027246)

アンディ・スティクス教育学博士
1997 米国教育省 ERIC#TM027246

もし生徒たちが、彼ら自信を評価するのを手伝ってほしいと言われたらどうなるだろうか。彼らはその機会を利用して、楽をして良い成績がいっぱい取れるように、とんでもない低い基準を設定するだろうか。

驚いたことに、そうではないのである。マンハッタンのロバート・ワグナー・ミドル・スクールでの経験によれば、評価過程に参加する生徒たちは、臨機応変に対処できるし、実際に行うことがわかっている。教師により適切な指示が与えられれば、子どもたちは各自の長所と弱点を正確に評価し、学習の効果を最もあげるためにはどこに重点を置けばよいかをつきとめることができる。結果として、生徒たちは、成績評価をほうびや屈辱(ミドル・スクールの生徒たちによくある見方である)といった恣意的な形としてではなく、個人の成長に役立つ建設的な道具と見なすようになる。

小論では、交渉協定 (Negotiable Contracting) について調べる。これは、ニューヨーク市を中心とした地域の何校かで現在行われている、評価過程に生徒を参加させる新しい方法のことである。交渉協定は、人文カリキュラムと科学カリキュラムの両方に適合し、柔軟性に富んでいて多様な形態の学習に適用できる。他の評価と同様に、教師がクラスをしっかりと任され、成績の評価が適切であることを保証する責任が最終的にあることを請け合うものである。

生徒の力をつける

交渉協定のこつは、生徒たち自身の学習の共有権を彼らに与えることにある (Wiggins 1993)。教師は、最終的に成績評価に責任を負うが、生徒たちの学習に対する全能のジャッジではなく、評価過程における討議のまとめ役をつとめる (Seeley 1994)。教師が学習についての自分の予想を提示する前に、どういうものが良い学習だと思うのか生徒に意見を聞く。「交渉」を行い、教師とクラスは相互に納得した意見の一致に到達する。その結果、生徒たちは評価過程において関係者として尊重されていると感じる。よって、彼らは、基準をもとにした水準に向けて努力するように動機付けられる。

協定のプロセスは正式な評価とは独立して用いることもでき、様々な目的に使うこともできる。正式な評価を必要としない学科もある。しかし、それでも教師は、質の高い学習のための基準を設定することにより、短期的な目標を定めたがる。交渉協定はそのような学科にうってつけである。例えば、もし生徒がグループ学習をするならば、交渉協定は、協力の役割や調査資料、図や表の構成などの期待値を設定するのに役立つ。

ルーブリックを創る

ルーブリックは正式な評価をするために交渉協定を使う際の重要な要素である (Pate, Homestead, and McGinnis 1993)。ルーブリックは、教師と生徒たちが共同で創りあげた、入念に設計された評点付けされた表である。ルーブリックの片側には、教師と生徒たちが決めた、その科目で習得すべき最も重要な概念の基準がいくつか並べられている。ルーブリックの一番上の横欄には、生徒たちがそれぞれの基準をどれだけよく理解したかを評価するために用いられるランキング掲載されている。ルーブリックはさらに、科目全体を考慮したときの重要度に基づき、それぞれの基準にどれだけの重要度を与えるべきかを示している。それぞれのランキングの中で、カテゴリー内での生徒の成績の高低によって、数字による等級付けがあることもある。通常用いられる一般的な数字や文字による評価と異なり、ルーブリックは科目、単元、あるいはプロジェクトの詳細な「レポート・カード」として役に立つ。

ロバート・ワグナー・ミドル・スクールの社会科の教師を例に取り上げてみよう。マーサ・ポリン先生は、地理の授業で生徒たちに壁画を描かせた。壁画に取りかかる前に、クラスを協同学習グループに分け、彼らに「もし貴方たちが先生だったら、一つ一つの壁画を採点する方法を決めるのに、どんなところに注意するかしら。注意する基準を6つ考えてごらんください。」と言った。ディスカッションの時間を与えた後、ポリン先生はそれぞれのグループに、選んだものを重要度が高いものから低いものへとランク付けさせた。

次に、それぞれのグループが、トップの基準を2つクラスで発表した。ポリン先生はそれらの基準を板書し、クラスの皆にその授業で本当にふさわしいものはどれかを選ぶように言った。教師の指導により、彼らは、1)細部の描写と奥深さ、2)明確な焦点、3)質の高いデザイン、という3つの資質が重要だということを認めた。次に彼らは、「それぞれの基準に対して、どこが「良くない」、「まあまあ」、「良い」、「とても良い」と言えるのでしょうか。」と聞かれた。一人の生徒が、良くない壁画はほとんどのものが事実とは違うものだろうと言うと、他の生徒たちは進んで同意した。「もしいくつかの事実だけが間違っていたら。」とポリン先生が聞くと、一人の男子が「それは、「まあまあ」になるでしょう。」と答えた。別の生徒が「いくつかの事実が間違っていたら「良くない」ということになると思う。」と主張した。さらにディスカッションをした後、最後には、いくつかの事実だけが間違っていた場合は「まあまあ」が取れるということにクラスの意見が一致した。その後もディスカッションをして、全部の事実が正しければ「良い」になり、さらに、珍しい情報源から正確で興味深い情報が大量に含まれていれば「とても良い」という評価が得られることも決まった。

彼らの交渉の結果、ポリン先生の生徒たちは、筆記用具を手取る前にさえ、壁画にどんなことが期待されているのかについて完全に理解できている。それだけではなく、プロジェクトの目標を設定すると、彼らが公平だと考える評価体系を築くのに発言権があったことに満足しているのである。

基準:
正確な詳記と奥深さ
明確な焦点
質の高いデザイン

ルーブリック考案の次のステップは、これらの個々の基準がいかにかま合うかが表される評点付けについて話し合い決めることである。ルーブリック表の一番上の横欄には、等級や数字の代わりに様々なランキングがリストアップされている。これも、教師とクラスの生徒たちとの話し合いにより決められてもよい。生徒たちの学習では、ある面については他の面より優れているところがあるのは当然なので、ルーブリックでは個々の基準に対して別々の評点が付けられている。

それぞれの評点付けに中立的な言葉を選ぶことによって、一般的なA-Fや数字による成績につきものの良い/悪いという含みを避けることができる。さらに、偶数のランキングを付けることにより、指導者が付けたくなく一生徒も同様だが中間の成績をつけることが避けられる。例えば、1-5のランクシステムでは、3が「中立的」な成績として用いられる傾向にある。

ケンタッキー州は、評価にルーブリックを使用しているが、ルーブリックに4つの軽蔑的でない評点付けをしている。能力の昇順に、初心者 (Novice)、見習い (Apprentice)、熟練者 (Proficient)、抜群 (Distinguished) となっている。

努力した	まあまあ	すぐれている	すごい
------	------	--------	-----

ガラス	ガーネット	ルビー	ダイヤモンド
-----	-------	-----	--------

鉛	銅	銀	金
---	---	---	---

幼虫	さなぎ	まゆ	蝶々
----	-----	----	----

田舎者	職人	公卿	ファラオ
-----	----	----	------

1年生	2年生	3年生	4年生
-----	-----	-----	-----

給仕	地主	騎士	領主
----	----	----	----

すっぱいミルク	ミルク	ハーフアンドハーフ	クリーム
---------	-----	-----------	------

ジーンズ	スポーツジャケット	スーツ	タキシード
------	-----------	-----	-------

素人	大学スポーツ選手	セミプロ	プロ
----	----------	------	----

バイト	キロバイト	メガバイト	ギガバイト
-----	-------	-------	-------

兵卒	軍曹	中尉	大尉
----	----	----	----

胡椒	シナモン	ナツメグ	サフラン
----	------	------	------

ひき肉	ロンドンブロイル	サーロイン	フィレミニヨン
-----	----------	-------	---------

ボブキャット	パンサー	トラ	ライオン
--------	------	----	------

小魚	ヒラメ	マグロ	サメ
----	-----	-----	----

雑草	雛菊	バラ	蘭
----	----	----	---

一壘打	二壘打	三壘打	本壘打
-----	-----	-----	-----

ペニー	クォーター	50セント硬貨	1ドル硬貨
-----	-------	---------	-------

ガーデン	ガラガラヘビ	コブラ	大蛇
------	--------	-----	----

デルタ	平原	台地	山
-----	----	----	---

新米	見習生	熟練者	有名人
----	-----	-----	-----

または

新人	徒弟	ベテラン	師匠
----	----	------	----

子どもに対する「総合的」評点付けはない。評点付けの用語は、ルーブリックのそれぞれの基準に対する生徒の成績を評価するために個々に用いられる。例えば、社会科のレポートでは、評点付けは以下のようなになるだろう。

「初心者」は科目の理解度が乏しい生徒である。準備不足で結論や構成が弱く、間違っただけの情報が見つかる。

「見習い」は初歩的な概念の理解を示す。中心的なアイデアはあるが、広い概略のみ提示していて、詳細に欠け、間違っただけの情報や不明瞭な情報がいくらかある。

「熟練者」は科目の明確な概念理解が見られる。レポートの構成は良く、理論的で、焦点化されていて、ほとんど間違いが見られない。

「抜群」は傑出した仕事を指す。仕事には十分な深さがあり、詳細が正確で、一貫した力強いプレゼンテーションで、誤りはほとんどないか、まったくない。

個々のカテゴリー内に数字の等級を入れるのが役に立つ。例えば、生徒はそのカテゴリーの上または下の成績により、見習いの評点として3か4をもらう。

ポリン先生のクラスが地理の壁面のルーブリックをどのように創ったかを見てみよう。

壁画	新人	徒弟	ベテラン	師匠
正確な詳記と奥深さ	間違っているか 乏しい事実、少ない詳述 (1-3 ポイント)	いくつかの正確な事実、いくつかの詳述 (4-6 ポイント)	かなりの量の事実、かなりの詳述 (7-9 ポイント)	驚くべき量の事実、生き生きした描写 (10-12 ポイント)
明確な焦点	あいまいで不明瞭 (1-2 ポイント)	焦点化されているところもあるが、構成が不十分 (3-4 ポイント)	構成が良く提示が明確 (5-6 ポイント)	高度な編成により分かり易い (7-8 ポイント)
デザイン	レイアウトとデザインがほとんどないかまったくない (1-3 ポイント)	簡潔なデザイン、しかしレイアウトはやや構成不足 (4-6 ポイント)	魅力的で見る人を招き入れる (7-9 ポイント)	見事なデザインと抜群な視覚的魅力 (10-12 ポイント)

創造的問題解決法

ルーブリックは生徒の数学の成績を評価するのに特に効果があることがある (Moon 1993)。時間割を覚えたりする丸暗記の能力は伝統的な小テストをして成績付けをすることに一番適しているかもしれないが、実際、数学の大部分は一つの解答に達するためのいくつかの方法がある創造的問題解決法を伴うのである—ある方法は他の方法より簡潔で、効果的で、あるいは創造的である。

例えば、分数の文章題を扱う課で、生徒たちの問題解決の「レポート・カード」に、教師と生徒たちで決めた以下のような評価基準を入れてもよい：解答は分かりやすいか、明解な概念的理解が見られるか、解答は実生活でも通用するか、図式や文章や数字は調和しているか。

同様に、ルーブリックはいかなる教科本位の科目又は学際的科目にも用いられる。ルーブリックは、生徒たちが新聞作り、プロジェクト、調査研究、実験、寸劇、あるいはその他の手段を使って、彼らの能力を証明するための機会を含めることができる。

良い詩

ジャナイン・パートコ先生が第8学年の国語の授業で、詩について学んでいる場面で、ルーブリックをどのように用いているか見てみよう。詩と散文の違いを討議して、様々なタイプの詩を鑑賞した後、生徒たちに自分の詩を書く課題が出される。パートコ先生はそれから、「詩というのは主観的な課

題で「正しい」答えがないけれど、どうしたら公正に評価できるでしょうか。」とたずねる。

生徒たちは歴史上の一時期を反映する詩を書くよう求められたので、「良い」詩の条件について議論を始める。グループで考え、バートコ先生と生徒たちが最も適当で公正だと認めた4つの主な基準で構成されたルーブリックを考え出す。詩とは感情と／又は心象を表現し、読者を魅了し、明確な言葉を用い、句読点を意図的に使うものであるということを生徒たちは決める。次に、バートコ先生と生徒たちは、様々な評点レベルの詩に、それらの技術がどのように当てはめられるか色々な実例を読む。最後に、一つのグループとしての生徒たちと一緒にルーブリックに書きこむ前に、教師は共同作業グループに分かれた子ども達に彼ら自身で課題の詩を評価し、ルーブリックを書くように求める。

詩	新人	徒弟	ベテラン	師匠
読者を魅了する力	焦点化されていない；書き手は方向性に自信がないようである (1-2 ポイント)	ある程度焦点化されているが、連続性がない (3-4 ポイント)	焦点化が巧みで読者を終始惹きつける (5-6 ポイント)	読者を魅了し強力に惹きこむ (7-8 ポイント)
知覚イメージ	イメージや感動を視覚化することが困難である (1-3 ポイント)	いくらかのイメージ、アイデア、あるいは感動が見られる (4-6 ポイント)	アイデアあるいは感動を描写するために感覚的なイメージを明確に使用している (7-9 ポイント)	鮮明で、詳細なイメージと強烈な感動 (10-12 ポイント)
言語の使用	不正確で不適切な言葉の選択 (1-2 ポイント)	考えをわずかではあるが表している (3-4 ポイント)	適切な言語の選択 (5-6 ポイント)	豊かで想像的な言語を使用している (7-8 ポイント)
句読法	句読点が恣意的である (1-2 ポイント)	いくつかの句読点は意味がある (3-4 ポイント)	句読点は終始意味がある (5-6 ポイント)	句読点は考えやイメージを伝えるのに効果的である (7-8 ポイント)

ルーブリック自体に加えて、コメント欄が用意されている。バートコ先生はこのスペースに優れた面と劣った面についてより具体的に書き込むことができる。良い面を強調し、それぞれの生徒が能力

を最大限に発揮し、理解を深めるための方法を提案できる。その結果、ルーブリックは、生徒に彼（女）の技術レベルの全体像を示すことになる。

ロバート・ワグナー・ミドル・スクールでは、空欄のルーブリックを拡大してラミネート・コーティングを施している教師がいる。個々のプロジェクトにおいて、消すことのできるマーカーを使い、生徒たちと空欄に書き込んでいる。彼らは評価シートも同様に使う。生徒たちそれぞれに白紙のシートが配られ、教師と共に書き込むよう求められる。この場合、生徒たちは自分たちに求められていることの記録を自らつけられる。プロジェクトの終わりに、生徒たちは自己評価とさらに／もしくは同級生からの評価を求められ、教師が評価するためにその評価シートを提出する。

達成認知

かくして、ルーブリックは、教育者が評価を通して生徒たちに動機付けをする重要な方法を提供している。子どもたちに自らの成績付けに発言権を与えることで、彼らに求められていることについての明確な理解をもたらし、彼らのやったことが認められるように保障してやれるのである。

http://www.interactiveclassroom.com/articles_006.htm

資料4 中等学校でのルーブリックの使用について

--- ミドルウェブ・リストサーバでの会話から---

(Using Rubrics in Middle School --- A MiddleWeb Listserv conversation)

ルーブリックはある学習に対するの評価基準を含み、同時に個々の評価基準の質のレベルを通常点数で規定する採点の道具である。ルーブリックは中等学校の学級で様々に用いられている。Lauraは夏期第3週の「週の話題」を、学級でのルーブリックの使用方法和理由をコメントするよう読者に求めることから始めた。

Lauraの書き込み：

「私は（最近）私たちが教えているすべてのコンピュータソフトに対するルーブリックの開発に教師のグループとまる1日を費やしました。これは校内の全教師が使用可能です。私たちは、首尾一貫した期待 (expectations) を作ろうとしていました。1日の終わりに、ある教師が、これが生徒の成績とどのように関連するかと尋ねました。ルーブリックの使用は生徒の成績を悪くすると感じる者達もいました。ルーブリックが生徒のプロジェクトの成績を決めるのに使用されるべきか白熱した討議が交わされました。私は、ほかの方々がどのようにルーブリックを使われているのか、興味があります。」

ルーブリックをどう使用しているのか？ルーブリックと学問的基準との関連は何か？また、ルーブリックとクラスの成績の関係は？ルーブリックは首尾一貫した期待を創り出す助けになれば、さらに、もしかしたら学校全体の同じ学年／教科で「AをAにする」助けになれるのか？

Debは科学発表大会 (*Science Fair*) でのルーブリックの使用方法を説明した。

私はルーブリックを科学発表大会で使用しました。そのルーブリックは教師達が開発しましたが、生徒達にも公開しました。それをプロジェクトの採点と発表に使用したのです。生徒達が互いを採点し、我々はグループで検討しました。大会はひとつの採点期間全体に対する我々の行事 (work) だったので、点数が成績になりました。

ルーブリックはすべての関連事項を詳細に説明したので、大変に役立ったと思います。以前は、どのようなものが4で、3はどうかなどについて、良い案を出すことをクラスで行っていました。私はページの右側を空白のままにした総括的なルーブリックを作り、最も優れている証は何か名案が出た後、特定のプロジェクト用に右側に書き込みました。

保護者たちもルーブリックを認めているようです。子供がなぜその成績をもらったか判明するので。

—Deb

Cheryl は Deb の科学発表大会ルーブリックのコピーを頼み、Deb は探すと約束した。

Deb 様：科学発表大会ルーブリックのコピーを持っていませんか？

こんにちは、

John が私の記録のどこかに入れたはず。探してリンクしてみます。

—Deb

John が MiddleWeb のアーカイブを探して Deb のルーブリックとクラスでのルーブリックの使用についての記述が入った記録を見つけ出した。

Deb、あったよ！

科学発表大会ルーブリック

<http://www.middleweb.com/scifairrubric.html>

ルーブリックの使用に関する Deb の 1999 年の記録もいくつか、下記でアクセス可能：

<http://www.middleweb.com/msdiaries99/MSDiaryDB12.html>

<http://www.middleweb.com/msdiaries99/MSDiaryDB14.html>

<http://www.middleweb.com/msdiaries99/MSDiaryDB17.html>

—John

Leighann は、ルーブリックがどのように教師がプロジェクトや課題を公平に採点する説明責任を果たす手助けになるかを、MiddleWeb の読者に説明した。彼女は、生徒が課題の基準を満たす努力を最終的に補助すると、この評価のツールの更なる利点を指摘した。

私は、生徒達に見直させたり、大きなプロジェクトになったりする課題を出すときはいつでも、ルーブリック（採点ガイド）を与えます。ルーブリックは公平に成績付けをする説明責任を果たさせてくれると思います。生徒の成績が悪いときには、「採点ガイドの全ての面を守りましたか？」と尋ねるだけで済みます。提出物と採点ガイドをみれば、ごまかせません。何かを抜かしたか、校正しなかったことを認めざるを得ないのです。

私は採点ガイドに沿うように書き直すことを、いつも彼らに許しています。やってみたいことは、エッセイ・短文・スピーチ等専用のルーブリックの開発（Ellen Berg さん、ご注目下さい）です。通信

学科の全員が同じ方法で採点し、生徒達は学年が変わるたびに、違う採点方法になじまなくても良くなるでしょう。つまり、私は、採点ガイド又はルーブリックは学校全体に一貫した期待を生み出せると強く信じています。

—Leighann

Sharon は、生徒達が課題の要求に応えるためにルーブリックを使う能力により長けるようになるよう、個々の学校がルーブリックの形式を調整する利点を指摘した。

前任の学校には、ある学年レベルや年間のある時期に提示したり、次の学年の補強にしたりする思考技量やグラフのまとめ方、ルーブリックのバインダーがありました。私達全員が、生徒達が学校内の全教師の期待になじめるよう、同じまとめやルーブリックを使用していました（必要に応じて訂正することは許可されていました）。もしルーブリックが特定のもの用であれば、大変に有用です。あまりにも一般的過ぎるものもあります。どうすればルーブリックの使用が生徒の成績を悪くするのか分かりません。

—Sharon

John は、教室の評価にルーブリックを用いることの利点についてさらに情報を提供している資料を読者に示した。

最近、まもなく出る Education Trust の “Standards in Practice (SIP)” プログラムのビデオ評を書く機会があった。これはルーブリック (4/3/2/1 の形式をとる「採点ガイド」と呼んでいる) と基準との関連と、「彼女のペーパーがAなら、彼のはBにしなければ」という我々にはとてもおなじみの「相対」評価よりもむしろ、生徒の成績評価を既知の基準に逆らって行う理論とが大層強調されていた。

SIP の詳しい情報はここで得られる

<http://www.edtrust.org/main/sip.asp>

さらに、ハーバードのプロジェクト・ゼロでルーブリックに関して多くの調査を行った、Heidi Goodrich Andrade による Educational Leadership の優れた記事がある。

「ルーブリックは生徒の評価を迅速かつ効果的にする。そして、保護者等に対して、教師が生徒につけた成績の正当化に役立つ。最低でも、ルーブリックは生徒の学習と、洗練された思考能力の発達を補助する教授ツールでもある。正しく使用されれば、評価とアカウントビリティーの目的と同じく、学習の目的に有用である。ポートフォリオや展示、その他の信頼されている評価方法同様、ルーブリックは指導と評価間の区別を不鮮明にする。」

<http://www.ascd.org/readingroom/edlead/0002/andrade.htm>.

多くのルーブリックのサンプルが載っている Andrade の以前の記事がここで読める。

<http://www.middleweb.com/rubricsHG.html>

ルーブリックに関する資料のホームページもある。

<http://www.asd.wednet.edu/EagleCreek/Barnard/sites/ed/rubric.htm>

—John

“Standards in Practice” プログラムに関する John のコメントは、Nancy に Corpus Christi 校組織内でのこのモデルを用いた個人的経験をここで伝えることを促した。

私達は1月から5月の期間、生徒の学習を見るために Standards in Practice モデルを使用しました。週1回のチーム計画と月1回の部内計画に、1人の教師が1評価用の生徒の提出物のセットを出しました。私達は、厳密に SIP のプロセス通り作業しました。その中には、担当教師が用いていたものとは多分異なっていたかもしれませんが、評価対応のルーブリック制作も含まれていました。これは、我々が評価するに当たっての効果を調べる補助になる点において、大変有益であることが分かったのです。

—Nancy

Laura は、ルーブリックの“A”と点数の“5”を同等視するという陥りやすい誤りについて読者に警告した。

私がかつているルーブリックはもっと特定の範囲の contract です。このレベルで何かをすれば、それに4~3のポイントがあるという。その使用方法は理解しています。私達がかつたいのは、6項目のようなものです。

低学年の生徒達はオール5をとることは滅多にありません。教師達の中にはこのルーブリックで成績をつけるものもいます。レベル3で書いた生徒はおそらく30点のうち18点を取るはずで、私のミーティングの教師達は contract タイプのルーブリックを用い、教科主任 (curriculum director) は performance assessment rubric を使用しています。彼女は保護者が5とAを同一視することを避けたいのです。

—Laura

中等学校教師の *Linda* によれば、良いルーブリックを作るのは難しい。

過去3年間ルーブリックに取り組んできて、多くのことを学びました。一つには、良いルーブリックを作るのは、大変に難しいということです。良いものができたと思っても、欠陥がある。子供たちには言葉が多すぎるか、さもなければ定義が充分でないか。二つめは、子供たちには、全部の必須アイテムを入れられるように、下書きを終える前にルーブリックが必要なことです。事前にルーブリックを見ていないと、点数も低くなります。子供たちはこのことにすぐ気づきました。三つめは、ルーブリックは、誰の作品で、できはどうかを気にするのではなく、手元にあるものに注意を集中するのに役立つことです。思いついたことを書きました。

Linda

生徒達があまりにもルーブリックを使うことに慣らされてしまい、この便利な採点ガイドがなければどのようにプロジェクトに取り掛かり始めることさえできないかを説明することで、*Lieghann* は *Linda* の考えを補足した。

まったくそのとおり。子供たちにプロジェクトについて話し、さらに、同時に採点ガイド（ルーブリック）を渡せば、成績が良くなることは確かです。私の生徒達はあまりにもそれに慣れていたので、プロジェクトの説明に採点ガイドがなかったとき、誰かが「*Fuller* 先生、採点ガイドがなければ、どのように成績がつけられるか、どうすればちゃんと分かるんですか？」と言ったのです。ルーブリックは良い成績をより明白にします——子供たちは教師達の心を読む努力はしてくれません！

Leighann

Myrna は学習で良い成績を取る生徒達の数を増加させるのに役立っているという考えを伝えた。

Laura 様

私の学校の教師はルーブリックを愛用しています——もっと多くの生徒が“A”をとれるように、ある程度の差異化も認めています。ルーブリックは教師たちの期待を明確に定義することを強いるので、プランを立てる際に有効です。

—*Myrna*

A. Hacker はルーブリックを用いて生徒達が互いに評価することを教える方法を紹介した。

ルーブリックの使用は私には大変有用だった。エッセイやレポートなどの成績付けに役立つ方法を、英語教師としていつも探している。自分が、そして生徒が従うルーブリックを作り、成績付けが能率的になった。年度の初めにルーブリックを開発し、学習に取り掛かる前に生徒に渡す。この方法で、生徒は私が何を求めているかが分かり、私に渡る前に作品を直すことができる。

ある期間の後、生徒達に互いの成績付けにルーブリックを使わせる。お互いのペーパーを見て、他に何をしなければならぬか意見を言う。これがとても役に立つと分かった生徒が多くいる。

私は最後の段階で、科目の教授後に生徒に課題用のルーブリックを作らせる。その頃には生徒は、いくつか私のルーブリックを使っており、文章作成用のルーブリックの機能について経験してきている。彼らは概ね、生徒が分かりやすい言葉を使い、私同様すべての点をもれなく収める。

生徒の成績の上下だけに関しては、ルーブリックは私の生徒たちの作文能力を改善するのに有用だと考える。彼らは何を求められ、どう表現すればよいか、ルーブリックによって分かっている。

文章作成、さらにルーブリックだけが、私が生徒の成績付け／教授に用いる手段ではない。異なる学習の態様 (modalities) に注目していれば、当然のことである。しかし、私は、生徒が慣れるには充分なだけ実際に使用している。

A が A であるか、否か、については——そうである、と私は考える。ルーブリックは英語科内全体で用いられている。7 学年の私の同僚がいくつかを開発し、私の開発したものとも一緒に使っている。彼は家族とともに Stateside に帰り、来年は新しい同僚を迎えるのだが、彼とも同様に分かち合えることを期待している。

—A. Hacker

Brenda は、いかにルーブリックが「結果を想定」した課題やプロジェクトの計画を作らせるかを繰り返し述べた。

ルーブリックに関して私が最も好きなことは、課題に対して私が求めていることを、子供たちに出す前に、ルーブリックの方で決めさせてくれることです。出だしはやることが多いのですが、中間（子供たちは私が求めていることについてよりはっきり分かっているの、受ける質問も少ない）と最後（良くできたルーブリックならば、採点がより早く、より簡単）は楽なのです。

ルーブリックを使う前は、課題やプロジェクトを採点するまでは、常にそこまで理解しているとは限りませんでした。これはまったくばかげたことで、もし私がベンチマーク（また新しい概念です…）に自信がなければ、生徒たちはどれだけ分かっているかと思っていたのでしょうか。彼らにとっては推理ゲームのようなものだったでしょう。私の基準は最初のペーパーから最後のものまで様々に異なっているのが常でした（厳格だったり緩かったり、なぜなら自分の基準が定まっていなかったから！）。

私の長男は大学4年生で、彼の経験によれば、教授達は、依然ルーブリック時代以前にいるように見受けられます。毎秋、教授が学生のプロジェクトに実際は何を求めているのか、推理ゲームで——ルーブリックに慣れた子供たちには辛いことです。

多くの教師たちが子供たちに課題のベンチマークとともにルーブリックを渡さないのは驚きです。ルーブリックは、教師同様、子供たちにとっても役に立つものです。

Brenda

Julie は、このルーブリックのディスカッションを、教育者が中等学校の生徒が良い成績を収める補助となるツールを作り出すことの重要性に関する以前の *MiddleWeb* のディスカッションと結びつけた。

育成とずっと付きまとうこと (nurturing and hovering) に関するディスカッションとそれがいかに中等学校において発達上適切であったか覚えていますか？

私は、確かにルーブリック/採点ガイドが、生徒たちに課題/プロジェクトをより理解させ、よく勉強させ、良い結果を生むことを知りました。また、ルーブリックは生徒たちがどの状態にあり、よくするには何をすればよいかを分かせます。大変難しいのは良いルーブリックを設定して手に入れることです。このツールは本当に役立ちます！

Juli

Bev は、生徒たちが課題を提出したあとにルーブリックを作るという、ルーブリックの不運な誤用の一例をあげた。

ルーブリックとずっと付きまとうこと (hovering) に関しては、*Juli* の言うとおりで。私は幾人かの他の中等学校の語学教師と、8月の学校準備期間用に職業開発計画を少し作成したことがあります。休憩時に hovering の概念を話題にしたところ、彼らは飛びついてきて、ずっと付いていることと「猫かわいがり」の相違をすぐに認めました。

私達はルーブリックのディスカッションに進み、子供たちにプロジェクトを与える以前にルーブリックは考案されていなければならないことを、国語科以外の教師（彼らの何人かもそうでしたが）に納得させることが主な難題であることに私は気づきました。身近で現在行われている方法の多くは、ルーブリックを成績付けに用いることで、教師はしばしば課題が提出されるまでルーブリックを作りません。私達のところでは、子供たちのためのツールとしてのルーブリックはまだこれからで、ルーブリックのデザインに子供たちを参加させるのも同様です。これは皆が関われる強力なツールだと思います。

ませんか？

ルーブリックの賢明な使用は成績付けを容易にします——しかし、ルーブリックは教師の有効性と生徒の学習に関する情報を提供し、教師にとって判断を下すツールにもなり得ます。これが、より多くの教師チームが理解する必要があるメッセージです。残念ながら、その人たちは MiddleWeb にはたまたま参加していませんけど！

—Bev

Laurie が、どのようにルーブリックが採点過程を能率的にすると同時に、生徒たちに明確なガイドラインを設定する助けになるかを説明した。

私はルーブリックを使ってまだ2年ですが、プロジェクトの採点をより公平にする技量と、生徒たちに明確なガイドラインを設定する技量ともになんと違いがあることか。私は常に子供たちが成績を何によってつけられるか事前に理解するように、プロジェクトのガイドラインを記入したルーブリックを渡しています。それから「完全なスコア」はどのようなものかをディスカッションします（ほとんどの子供たちが「どうすればAがとれるか」知りたがりです）。子供たちのプロジェクトをクラスで発表させ、それにより成績をつけます。子供たちは成績をすぐに知りたがるし、夜にプロジェクトの山に点数をつけなくてもすみます。私はルーブリックを読解と数学のクラスで使用しています。

—Laurie

Laurie は、いかにルーブリックがクラスの作文の改善に役立ったかという考えを続けて述べている。

エッセイの採点にもルーブリックを用いていることを書き忘れました。私は特別教育 (special ed.) の教師で、同僚の好意により、年度を通して彼の言語学エッセイのガイドラインとルーブリックを使わせてもらっています。彼は私のチームの通常教育 (regular ed.) の教師で、ルーブリックとエッセイの書き方について私に多くの教唆を与えてくれます。これは、私の生徒たちの成績を下げるのではなく、向上させ、彼らの教授計画に加える情報を得ることを可能にする素晴らしいものです。

—Laurie

Deb は読者にどのようにルーブリックの開発に生徒 (さらにできれば保護者) たちを関わらせるかを尋ねた。

皆さんはどのように生徒をルーブリックの開発に関わらせるか、そして保護者を関わらせている方がいるか知りたいのですが。

ルーブリックを作るのに生徒を関わらせるのは斬新な過程である。Linda は自分が実施した段階を説明した。

私達は第7・8学年を一括りにします。第7学年で作文用のルーブリックを与え始めます。次に生徒たちは、ルーブリックを使った例題文（通常掲示されている）の成績付けに進み、最後に互いのペーパーに当てはめて使用します。生徒たちは、年度の終わりには、様々なタイプの文章例を多数見ており、クラス全体のブレインストーミングで一般的な文章作成のルーブリックを開発することができます。

第8学年では、前に使ったものをモデルにしますが、課題ごとに特別な細目を加えて、課題ごとのタイプのルーブリックを開発させます。現在、彼らは他人の作品の欠点と長所を見つけるのは上達していますが、自分自身の作品についてはうまくできません。

Linda

Linda はプロジェクトの評価に生徒を含めることが、いかに彼らに自分の努力を批判的に見る助けになるかを述べた。

個人的には、ルーブリックは素晴らしいと思います！が、しかし、学校全体で「AをAに」しようとしているならば、同僚教師の援助と支持を得る必要があります。すべての評価システムに関しては、ルーブリックを「厳しく」することも「やさしく」することも可能です。

私がルーブリックに関してよいと思うことは、課題を出す以前に、私が該当するプロジェクトで求めるものを強制的に特定させてくれることです。何が期待されているかも明確になります（なるはずで）。成績をつけるときには、どのように成績が決められるのかを見るために、生徒と一緒にルーブリックを調べることができます。

私は教職について1年目で、ルーブリックは5回程度使用しました。その結果には不満を覚えました（しかし、やはり優れた評価ツールであると思います）。生徒たちはもっと経験をつむ必要があると思われまます——多くを使用すべきであったとは思いませんので、概念を把握しきれていないのです。良くできたルーブリックは、生徒に強制的に作品の評価をさせます。私は、それぞれの作品についての自分の評価を書き込む欄があるように創りました。重要なことは；ルーブリックは生徒に自分の努力を批判的に見ることを教えるのです。

討論のことは理解できます。解決をお祈りします。

Linda in Me

保護者を評価に使うことを *Bill* は考慮していた。かれの *MiddleWeb* への投稿はこのアイデアをさらに発展させている。

保護者を関与させることを一度真剣に考慮したことがあり、思い止まったことがある。彼らのアイデアが入れられない場合、子供たちよりも強い反発がある恐れがあった。これに関しては迷っている。学校での私自身の今年の経験は大変良好だが、対立的な保護者がいるということも理解している。

実際に生徒を参加させたことが一度あり、うまくいった。第6学年生が、次の第6学年用にフランス語の領域のガイドに取り組み、プロジェクトの3日目くらいに、良くできた、役に立つ領域ガイドの特徴はどのようになるかについて生徒たちの意見を求めた。かれらは即座に情報の質と正確性、正しいフランス語訳、イメージの質（手書きのイメージの場合、努力に対して与えられる credit）、全体の構成、を思いついた。

私はこの5つの特徴を最終的な成績付けに当てはめ、有用で役立つことが、子供たちと同様に分かった。さらに、直接に関係しているかどうかはなんとも言えないが、だれも成績に不平を訴えなかった。

—Bill

A. Hacker は子供の保護者に近く与えられる課題の必須要件を伝えるのにどのようにルーブリックが使えるかを述べている。その結果、家庭と学校の対話の道も開ける。

これまでの私の活動は、ルーブリックのコピーを保護者に送り、生徒が作品提出の前に確実にルーブリックに従えるよう、生徒の勉強を見させることに限られていた。概ね、反応はとても良好である。彼らは何が必要で、どのように手助けできるか分かるのを好む。

保護者は生徒とクラスに出席しているのではないので、ルーブリックの作成を助けてもらうことは考えたことはなかった。保護者がクラスの様子を知りやすくなるので、ルーブリックをインターネットに載せている。私は保護者を関与させる方法を常に求めており、これについてはもう少し熟考する必要がある。

A. Hacker

Keith は、ルーブリックは学習を「どのように」表現するかを生徒に考えさせるという彼の信念を述べている。

我々はルーブリックをもつぱらプロジェクトの評価に用いています。長期のプロジェクトに関して、いくつかの要素—ノート・教材・計画・下書きなど—に照らすのに役立つことが分かりました。通常の授業時の一部としてほとんどの評価を行えるので、成績付けの時間を減らせることには同意します。

ルーブリックは成績を悪くするのでしょうか？残念ながらそうです。4点制のルーブリックでは、あるカテゴリーにおいて、生徒はそれぞれのカテゴリーで25%「低い」成績がつくことになります。問題は、我々が、学校に行く唯一の理由は成績をもらうことだと考える保護者の世代を育ててきたことです。今年我々は、20点、16点、12点、8点という得点のつくカテゴリーのプロジェクトを試しています。

このことは「成績」表に戻ったように見え、さらに、18か17点を取らせることにより、より主観的レベルを導入したように思えて、好きではありません。他の教師は「成績付け」を容易にするので、この方法を好んでいます。結論としては、ルーブリック無しにはプロジェクトや課題を始めることさえできないということです。教師としては、我々のチームが生徒たちに何を学んでほしいかを慎重に検討したことの証拠であり、それを証明するために教師たちが提出することになる証拠です。

生徒たちに彼ら自身のルーブリックを数回作らせたことがあります。このことは、学習したことをどのように表現するかについて彼らに考えさせます。私のやり方は、ユニットの始めに州の学習の要点を参照し、州が生徒に学ばせたいことを確認します。生徒のチームが、これがどのようなものになるかを考え、ルーブリックに載せるアイデアのリストを作り出します（もちろんこれに先立ち何度もルーブリックを用いています）。次の日に、構成要素をリストアップし、それらをカテゴリーに当てはめ、評価ルーブリックを作成します。生徒たちは私にやってほしいのかもしれませんが、「A」を取ることに集中するのではなく、彼らが何を学習しようとしているのかを、始めにもっと考えてほしいのです。

最後に、私は数週間前に第6～8学年の研究プロジェクトの評価に同じルーブリックを使用している学校を訪問しました。これにはとても感銘を受けました。私はこの訪問中に、生徒たちのポートフォリオを提示して、彼らに「正当性を立証 validate」させ、何年かに渡る自分達の改善について話すのを聞いて、成長・理解・学習が容易に見て取れたのです。この特別な要素は教師・生徒ともに大変に強力なものだと思います。さらに、生徒はプロジェクトを2人の教師によって評価されていました。もし来年私の学校で全員を一致した方向に進ませることが1つできるとしたら、これがそうだと私は考えます。

—Keith

John の書き込みは、ルーブリックがいかに表面的な「流暢さ "fluff"」を超えて詳細な記述の本当の核心へと移行するかを述べている記事を、読者に紹介している。

Keith の優れたコメントはカリフォルニアで数年前に中等学年の歴史教師にしたインタビューを思い

出させてくれた。

<http://www.middleweb.com/CSLBfinal/CSLBfinal3B.html>

彼の言ったことの1つに次のようなことがある。

「評価過程に基準 (standards) を用いることにより、良い文章にとらわれることなく、彼らが何を分かっているかに集中できる。3, 4年前には、作品を読んで、もしもきちんとしてダブルスペースで書かれ、スペル間違いがなく、良く考えられていれば、たとえ、作品が一般的なことばかりで、たいしてより深い理解も示さずとも、おそらく私はかなり良い成績をつけただろう。」

この学校では、教師は保護者に「校長の茶会 (principal's coffees)」で会い、基準に基づくルーブリックとクラスの評価について説明していた。ところで、この学校には、上位中流階級の保護者がとても多く、子供たちがAをとることを大変に期待していた (EXPECTED)。

—John

John はさらに、いかにある学校が、子供の教育の過程に保護者を参画させるためにルーブリックを用いたかを述べた、興味深い記事を紹介している。

ルイスビルにある学校 (Conway 中等学校) の記事を書いたことがある。そこでは校長と教師が大変興味深い実験を試みた。以下に抜粋を載せる。この活動の前に、校長はルーブリックを理解させるために保護者を対象にワークショップを開催したことを付け加えておく。家庭生活からとった例を使ったと記憶している。生徒の部屋の掃除ができているかを評価することに使えるルーブリックを、保護者と一緒に開発したと思う。いい方法だ。

以下が記事の関連部分である：

長く保護者のボランティアを務め、United Parcel Service (UPS)に勤務している (Marsha) Kennison は、新任の PTSA 会長である。彼女は、学区レベルの中等学校団体の (Middle School Coalition) メンバーであることも含め、この仕事をするための貴重な経験をつんでいた。

Conway の教育者達が地域社会に手を差し伸べるに伴い、保護者は生徒が良い成績を収めるために責任分担を受け入れざるを得なかった。「教師たちは学校で行う学習の所有権を、生徒たちがもっと持てる方法を探そうと努力していた」と、Kennison は言う。「彼等は、自分達だけではそれができないことに気づいた。保護者も同様に気づかなくてはならない。」

Conway の「差し伸べ」の証拠は、2月に行われた先駆的活動に見出すことができる。学校

は、午前中を使って生徒の作品の例を教師と調べるように、保護者を招待した。Kennison、Linker、そして科学学科長の Beth Sanders がセッションを組織した。生徒たちは全学年で、科学研究方法の理解を示す必要のある KERA “released” の科学問題を解いた。

活動の最重要目的は、教師の間に期待 (expectations) と成績付け、そして「良くできた作品」の定義、に関する意見交換を引き出すことであった。「それで、保護者も会話に引き込んでもいいのではないかと、私達は考えました」と、St. Clair は語る。20 人以上の保護者が教師の仕事日に現れた。Sanders と Kennison による説明会の後、教師と保護者は 700 以上の生徒のペーパーを少人数のグループに分かれて、午前中いっぱい共に検討した。

「言語と数学の教師たちは、保護者と同様に、科学の課題を検討するという考えにしり込みした」と Sanders は述べている。「それで、我々はサンプルのペーパーについてしばらくディスカッションをし、傑出したもの、優秀なもの、よくないものについて原則的にほとんど合意するまで、話し合った。」

保護者の幾人かは、始めのうち無口で少し緊張していたが、「教師自身が作品を判断する難しさを述べるのを聞いてからは、気が楽になった」と Sanders は続けている。「皆と一緒に学んでいた。ファースト・ネームで呼び合うようになり、ジョークも出て、リラックスしていた。『あなたの』お子さんについて話をしているのではなく、皆の作品を検討していた。ペーパーは名前が伏せられており、誰のものかは分からないようになっていた。」

保護者は、学究的な水準を通して、JCPS が生徒に何を知って、何をしてほしいのかについて、かなりよく理解してくれた。「もしもあなたが保護者ならば、あなたのお子さんが何ができ、何を期待されているか、どのように知りますか？家にじっとしていたら、この質問に答えるのは難しいでしょう。」

(校長の) Steve St. Clair にとって、この活動は 2 つの目的を達成した。基準に基づく教授の強い提唱者として St. Clair は、完璧な基準に基づく単元の例を掲示するよう促して、教員にたゆみなく働きかけている。St. Clair の承認を得たディスプレイは、単元により指定された特別な基準や、ループリック (最高点を得るには何をすればよいか生徒に教えるガイド)、“Top Cat” の作品—地区の最高度の期待に応える生徒の作品等が含まれる。職業開発日 (さらに他の同じような日) に、「質の高い作品」の意味について、教師たちのディスカッションを進めるという方法もある。

しかし、保護者の参画は、また更なる趣と意味を加えると、St. Clair は言う。学校の最も重要な産物—生徒の学習—を教師と保護者が共に探求するのみならず、「脅えの要素 (intimidation factor)」と称される学校における様々なものごとを乗り越えた。

「保護者は教師に威圧されるとしばしば耳にする。それが保護者の参画を妨げている。」と St. Clair は述べている。「しかし、教師の快適さのレベルも同時に考慮しなくてはならない。

保護者が来校時に感じるのと同様に、保護者に脅える教師もいることが分かっている。教師は、様々な人々と常にここで会うことになれる必要があると私は考えている。」

2月の会合終了後、教師たちが集まって、この出来事を振り返り、学校の学問的方向について討論した。「彼等は学校とコミュニティに関して、我々が直面している問題について話し合った」と Linker は述べている。「教師たちは「どうすればよいか」と問いかけられ、答えはいつも「保護者を参加させよう。現状を知ってもらう必要がある」というものであった。」

「私はとてもうれしかった」と Linker は振り返る。「双方にとって、新たな兆しが見えたような日だった。皆が、子供たちが良い成績をあげることが望んでいるだけなのだ。保護者達は良い経験をコミュニティに伝えてくれた。」

Nancy は、ルーブリックは、どのような基準が達成されたかや、しばしばそこに至る段階そのものも、はっきりさせる助けになると感じている *MiddleWeb* の読者に賛同した。

Beverly 様

あなたは英語教師ではありませんが、どのような課題を出していますか？もしも、練習用紙をやらせるだけならば、そこが問題です。もしそうでなければ、生徒用に作ったルーブリックを通して、結果を念頭において始める過程が必要なかもしれません。以前は私もそうでした。科学実験や図形用のルーブリックの作り方がよくわからずにいましたが、達成目標からそれないようにしてくれるので、現在はまずそこから始めます。

生徒の作品をチェックして、私が何をさせたかったか理解していないことに気づいた時の気持ちが、私はいつも嫌でした。生徒にルーブリックを与えて課題を説明することを始めてからは、それはとても少なくなりました。成績付けや質を表すだけでなく、子供たちがそれぞれの段階を見ることが出来るチェックリストとしても使用できます。

今年、私たちはルーブリックを中心教科 (core classes) のほとんど全課題に用い、SIP モデルを、ルーブリックの使い方も含め、生徒の作品を見るのにしばしば使用しました。これは、私たちの評価の質に大きな違いをもたらしました。

Linda が言うように、「現在、彼らは他人の作品の欠点と長所を見つけるのは上達していますが、自分自身の作品についてはうまくできません。」私も同じような具合です。自分の評価を見て、どの部分が混乱しているかとか、学問的厳密さのレベルが不適切な場合とかを教えてくれる援助グループがあれば、本当に役立ちます。

—Nancy

L. James は、いかに生徒が開発したルーブリックが、生徒の目標達成に役立つかを述べた。

子供たちとルーブリックを作ることを強く提唱する。生徒たちはこれが大好きで、全員が A+を取れるようなつもりになる。僕は Marzano のルーブリックをクラス発表 (class participation) やコラボレーションなどで使用し、Ky Holistic 採点ガイドを英語科で使っている。

—L

Avis はルーブリックの開発に生徒たちを関わらせる意見に賛成した。

Marzano ルーブリックのサイトはありますか？私も第 6 学年生とルーブリックを作っていますが、やり方を飲み込んだときに…生徒たちがルーブリックに必要なものの本質を理解するのは、とても興味深いことです。保護者も同様に関わらせることの話の筋をたどれば、これも興味深い考えです…

—Avis

Leighann は、彼女がどのようにルーブリックの開発に生徒を関わらせるかを説明した。

子供たちをグループで何かに取り組みせるときに、4点か5点の採点ガイド (セントルイスではルーブリックでなく、採点ガイドと呼んでいます) を一緒に作ります。何をするのかを話すことから始め、それをしている間はどのようにしているのかを尋ねます。彼等は通常「静かにしてはなりません」と答えますが、一緒に作業をするので静かにしてはられないのですから、どのようにするかを話し合います。いくつかルールを決め、それを 4か5に当てはめます。ついで、クラスを廻りながら、それぞれの生徒がどれだけできているか、できていないかをノートにつけます。時々ノートを取らず、「これはルール No.4 で、よくできているわ」とか、「これは、ルール No.2 に違反しなければ、5点満点で5点になるでしょう」と言うだけにします。

終了してから、各グループに評価を発表させる時もあり、4か5の成績を書かせる時もあります。それぞれの規則違反は得点を下げます。生徒たちは何をしてこの成績をとったのか説明しなければなりません。彼等は私より厳しいことが何度もありました。彼らの評価を使って、改善できる方法を討論します。私はグループ学習を最終成績に加味しています。

—Leighann

L. James は *Avis* の Marzano ルーブリックの詳しい情報の求めに応じた。

ウェブ・サイトがあるかは知りません。もらった本からルーブリックを採りました。お役に立てず、

すみません。

L. James

編集者の注：Marzano ルーブリックに関する情報は、以下を参照：

<http://www.kyrene.k12.az.us/schools/kyrene/sbivin/web/rubric.htm>

<http://voyager.snc.edu/Caribbean%20Cruisers/cultrubb.html>

Myrna は、保護者が子供たちと使える、役に立つ学習技量に焦点を当てた *Parent-Night* を、彼女の学校がどのように行ったかを述べている。

去年、私たちは、グループに分けた第 6・7 学年の保護者を交代で対象に、学習技量の会を夜に設ける試みをしました。各グループは子供たちと使える、役に立つ学習技量を、教師から 20 分間かけて学びました。今年はその一環として、ルーブリックの使用と、どのように子供の作品が評価されるのかを示すことを加えようと計画しています。

—Myrna

Leighann が *Myrna* に *Parent Night* で扱った学習技量について詳細を尋ねた。

どんな学習技量を使ったのか教えてください。私の同僚も保護者に採点ガイドの使い方を説明するミーティングを持ったと言っていました。とても興味があります。

—Leighann

Myrna の *Parent Night* の実施方法の説明。

初めに、全体的な学習方法の概念を説明し、それから取り掛かります：

- パラグラフの中心のアイデアを見つけます—私たちはニューヨークタイムスの記事を使いました
- 文章を皆で作業する—質問や要約をするのに付箋を用いて
- 語彙用語 (vocabulary words) の学習方法—歴史的語彙 (history vocabulary) を用いて
- 推論を作る—日曜版の漫画を使って

保護者は20分ごとに交代し、違う教師と作業します。35人の保護者が参加し、また行ってほしいと要望がありました。

今年はループリックの説明と、教師が生徒の作品をどのように見るかをそこに含めたいと思っています。会合は、子供たちと同様に教師と学習する機会を、保護者に提供する機会でもあります。教師たちも楽しんでます。やる気のある保護者と学ぶのが好きなのです。

—Myrna

Kathy はどのように生徒たちにループリックを作る過程を手ほどきしたか説明した。

生徒と私がループリックを作りにかかれる前に、まず、どのようなものを作りたいかを決めなければなりません。例えば、ある小説のボードゲームを作りたいとしましょう。最初に、小説に関するゲームがどのような特徴を持っているかのリストについて相談しました。

- 適度な空白のある、優れたレイアウト、
- 小説の粗筋に関する問題、
- ボードをきれいに見せるためのカラーイラスト、など。

このような相談が続けられます。それから、リストから最も重要なものを選びます。これによって、基準にかなうためにはボードに何が必要かを決定し、4点のループリックに3つの要件を作りました。次に、何が基準に大体合っているか、たいへん優れているかを見ていきます。

注：必ずしも全部の基準に「たいへん優れている」を入れるわけではありません。基準が实际的で、かつ、生徒に刺激を与えるに充分高度なものならば、基準を満たすのはよいことだと、生徒と一緒に作業して気づきました。実際にループリックを書くときは、**Bloom** を使うようにしています。

生徒と一緒にこれをするすることで、課題の取り組み方に違いが出ます。彼等は、基準設定の過程に参加した場合、より関心を持って熱中します。

常にこうするわけではありませんが、年度の初めにはかなり多く一緒に行います。前年のクラスで一緒に作ったループリックも使います。子供たちはそれも好きです。

Kathy

自分達のループリックを作る機会を与えると、生徒たちはとても厳しい基準を設定すると、*Anne* は述べている。

Laurie は、ルーブリックに関しては成功して、彼女の生徒たちは事前に成績の要件が分かるのを好んでいると述べています。

第8学年の生徒たちをルーブリックの基準設定に参加させたときの経験は、最も啓発的なことの一つでした。ある課題についてたいへん優れている、優れている、普通、不十分の基準を決めさせたときに、彼らが「たいへん優れている」という基準に考え出したものは、私にも難しいものでした。現実的なものを入れなければなりません、ルーブリックの採点システムは生徒たちが（微妙な指導により）開発したのだから、それを堅く信じ込んでいます。

他にも生徒たちにルーブリックをデザインさせている方はいますか？それでその方法は？

もう1つ、読解のルーブリックを持っている方はいませんか？計画的な読解の実施と理解の、知識と用法を表すルーブリックをとっても必要としています。

—Anne

Michelle は *Anne* の生徒の作成したルーブリックに関する経験に同意した。

Anne 様、まったく同感です。採点ガイドを使う他の利点は、生徒の作品を生徒が評価するのに使用する場合があります。彼等は常に、たいへん細かく調べ、この作業を行うことにより、基準をよりよく理解し始めます。

—Michelle

Karen は、生徒それぞれに独特のニードや興味にあてはめた記号 (*descriptor*) を入れることのできる、個別のルーブリックの概念を紹介している。

今年、私達の生徒はとても効果的にルーブリックを使用しています。プロジェクトを開発するとき、評価される領域を決めます。子供たちがルーブリックを作るのですが、通常私が望む方向へ導くことができます。たいいていのプロジェクトに5点のルーブリックを用います。必要条件が満たされれば、5点中3点が与えられます。私は、彼らに、基本的な最低必要条件よりもっと努力してほしいのです。私たちは必要条件や基準を基にした記号を開発し、それから“3”つまり標準的なものと、“5”の優れたものを定義します。やはり成績はつけなくてはなりませんので、実際の成績にどうしても結びつきます。

縦には4列のものを使います：記号、自己評価、同級生の評価、教師の評価です。

あるプロジェクトで、私たちは1つの記号を空白にしておきました。そこに生徒の責任で自身の

プロジェクトに独特の記号を作るのです。これで、生徒は自分のプロジェクトに合わせた特徴を選びました。

時には子供たちは少し怠けて、自分に全部5をつけることもあるでしょう。次のルーブリックで、なぜ自分が2や4や5をとったかを、きちんと説明しなければなりません。

保護者は成績の由来が目に見えるので、ルーブリックに感動しています。

一方で、私の娘は、どんな基準で成績が付けられているかわかるように、クラスにはエッセイやプロジェクト用のルーブリックが必要だと英語教師に話して、窮地に陥ってしまいました。彼女は憤激し、相変わらずルーブリックは無しです。

—Karen

Ellen は *MiddleWeb* の読者に、生徒たちはルーブリックを良い成績をとるのに必須だと考えるので、ルーブリックを「当然あるべきだと思う」か、もしくは使うことを要求してくれば、学校の評価はどのようになるかを想像してみるように迫っている。

Karen 様。これは面白い話題です。私の取り組んでいるものの一つに、ルーブリックや *constructivist teaching* などの優れた実践に、系統立てずにさらされた場合、長期にわたる効果が認められるかということがあります。明らかにあなたの娘さんはルーブリックの隠れた目的を理解し、ためになることが分かっているので、教師が使用することを望んでいます。私たちの生徒の大多数に、この意見を取り入れさせることができたと思ってみてください。生徒の力で学校改善——素晴らしいことです！

—Ellen

Jean はルーブリックが課題の過程から謎を除くことを認識していて、文学サークル (*Literature Circles*) で生徒の自己評価のためにデザインしたルーブリックの例を提供した。

私は、作文とプロジェクト課題に常にルーブリックを使用します。先に生徒に話しておかないと、望みの結果が得られないのは当然だろうと考えています。

課題の成績がどのようにつけられるかは、物当て遊びや謎であってはなりません。文学サークルの発表の自己評価用にも、一種のルーブリックを用いています。私の経験では、先にどのようにふるまい、勉強を一緒にするか分かっていたら、大きな違いをもたらします。

子供たちは通常手加減無しに、正直に書きます。以下に私が用いているシートを載せます。形態はまったく違いますが、中身はこのとおりです。

—Jean

今日のグループ活動を採点しました。

勉強中

最高 良い 普通 劣る (Super Good Average Weak)

—すぐに課題に取り組む

—余計なおしゃべりやだらだらはなし

—実りのあるディスカッション

参加

最高 良い 普通 劣る (Super Good Average Weak)

—全員がディスカッションに参加する

協力

最高 良い 普通 劣る (Super Good Average Weak)

—一人の話をよく聞いた

—ていねいに話した

—議論や話の邪魔をしなかった

音のレベル

最高 良い 普通 劣る (Super Good Average Weak)

—静かで、小さなグループが聞こえる声で話した

次の時にはもっとよくできるようにしたいこと： _____

Ellen は *Jean* の文学サークルのルーブリックに関してさらに尋ねている。

Jean 様

これは反省用ですか、成績付けに使うのですか？それとも両方ですか？もし成績に加えるのであればその割合はどの程度ですか。あなたのデザインしたルーブリックはとてもいいですね…同じようなことをしてみたことがありますが、生徒が記入して提出した後はどう処理したらよいか決められませんでした。また一方で、何もかも採点対象にしたいはありませんけれど、グループ行動のルーブリックを最も効果的に使用できるようになりたいのです。

—Ellen

Jean の返答

Ellen 様

私は各生徒の文学サークルへの貢献を採点し、ミーティングごとのグループに、グループの作品とふるまいとの双方を基にして決定した点数をつけます。生徒個人とグループを同等に採点します。グループを作って最初の数回は、点数はそれほどよくありませんが、最後にはほとんどすべてのグループがこつを飲み込み、高い点数を取ります。これがお役に立つほど充分詳しいかどうか定かではありませんけれど、お知りになりたいことがあれば、お聞きください。

—Jean

Mary Anne は、生徒とルーブリックをデザインするときに、どのように「質」をスタートとして使うか述べている。

私は子供たちに自分自身のルーブリックをデザインさせています。

初めに子供たちに「質」を定義させます。今までで一番美味しかったチョコレート・チップ・クッキーはどれだと思ふかについてのルーブリックを作らせました。チョコレート・チップ・クッキーの特徴——舌触りからチョコレート・チップのサイズや、ミルク・チョコレートチップとダーク・チョコレート・チップの違いまで——について話し合いをしました。生徒がそれぞれ自分のルーブリックを作って——クッキーを開けます！全員に 5 種類のクッキーが手元に渡り、ルーブリックに基づいて評価するのに十分な量を買っておきました。

このことは、生徒たちに考えることを教えました——それ依頼、新しいプロジェクトや作文課題を始めるときにはいつも、質の割り当てはどのようなものになるかについて話し合います。どのプロジェクトでも、私が譲れないものはありますけれど。

Mary Anne

John は、いかに中等教育後の教師が、評価の取り組み方という問題に直面しているかを述べた。

僕は、Long Beach State College の科学学部長をインタビューしたことがある。彼は、K-12 の「最良の実践」結果には大学の教師も学ぶものがあるという考えに、真剣に耳を傾けており、学部のメンバーにコースの中でルーブリックを作り始めるように求めた。不平の声は Laguna Beach までも響いたと彼は言っていた。

Ellen はルーブリックが子供たちの進級につれて、生徒の期待に影響を及ぼすものか知りたがっていた。ルーブリックでよい経験をもった後には、生徒たちがいかにルーブリックを多かれ少なかれ要求するかについて、しばしば耳にする。ルーブリックを効果的に使う方法を学ぶ時間と効果的な機会を、教師が確実に持てるようにすることは、学区の職務だと僕には思える。

—John

ルーブリックが間違った使い方をされた結果起こる混乱について、ルーブリックの様式に問題があるのか、それとも言葉の選択が悪いのかを、Melba は述べている。

ルーブリック——なんと簡単な言葉！こんなにも多くの異なった解釈があるなんて。

私の学区では、ルーブリックの定義や例は人によって異なります。成績付けのガイドライン文書をルーブリックと呼んでいる中等学校もいくつかあり、また一方では数値を入れない指導文書をルーブリックと言っている学校もいくつかあります。ルーブリックの採点方法には数字よりも形容詞をよしとする記事（著者は Wiggins だと思います）によろやく出会いました。読めば読むほど、得るものは多いです。

私にとって、この listserv は知識と洞察力の宝庫でありつづけています。

Melba

Avis はルーブリックについてコメントを追加している。

ルーブリックはチョコレートのようなものです——種類も形状もサイズも多岐に渡り、基準も人それぞれ異なります。コースや教師が異なるので、異なったアイデアがルーブリックに載せられます。（または、わたしの視野が広いのかも！）

ルーブリックを生徒と作る場合、用いることが可能な彼ら自身の基準を入れさせる考えは好きですし——賛成します——生徒たちは採点方法を知るべきですし、秘密にするべきではありません！

皆さんは生徒が見ることができるようにルーブリックを掲示していますか、それともコピーを配りますか？

Avis

課題を完成させるためにルーブリックを生徒が「使用」することの重要性を理解して、karen は生徒がルーブリックをなくす問題への対処方法を述べている。

私は、いったんルーブリックができた後にコピーを渡しています。子供たちは採点のためにルーブリックが必要だと言われます。さもないと、私の勝手にどんなものでも基にして評価できることになり

ます。ルーブリックなしでは採点はランダムなものになります。ランダムな採点をするより、どれだけ多くのルーブリックが見つけれられたり手書きで写されたりしたかということは驚きです。

—Karen

Kasey は教師にとってまさしく「頼みの綱 (life savers)」として役に立つという意見を述べた。

私の名は Kasey、Turner MEGA Magnet Middle の科学教師です。Ellen Berg と実際に同じチームにいます。(ハイ、Ellen) Listserv は初めてですが、様々な話題に関する皆様の意見をととても読みたいのです。今までは、「採点ガイド」に関する皆様の会話を楽しんでいました。

「採点ガイド」は救いの神です、と言わせてください。これで成績付けが、特に科学に関して、たいへん楽になりました。私たちの実践は、ほとんどすべてがプロジェクトを基本にしています。ガイドなしには、プロジェクトの採点はできません。

生徒が作ったガイドも良いという意見に賛成です。彼等が何を採点するか決定に参加するならば、プロジェクトの価値をより習得すると考えます。さらに、生徒たちは、自分が学びたいものを、たいてい知っています。(質問はすごくいいことです!) もし生徒たちが内容について質問をするならば、そのとき最も重要な情報は何かを理解し始めます。彼等は、情報をふるいにかけて始めます。もし彼等がすべてを行うならば、その価値について意見を言えるべきでしょう。

—Kasey

Crystal は、MiddleWeb のルーブリックに関するディスカッションが、彼女自身思い切って試すに足るほど説得力があることに気づいた。

私はクラスでルーブリックを使ったことはありませんが、ディスカッションを追っていて、来年は試してみようと思います。生徒たちに毎日の宿題用のルーブリックを作らせてみたいのです(私は第7学年の数学を教えています。)どなたか日々の宿題を大体カバーするルーブリックの経験者はいませんか。

—Crystal

Brenda は優れたルーブリックが満載されているウェブ・ページを読者に示している。

ここに最高のルーブリックのウェブ・ページがあります。カナダのもので、本当に沢山のルーブリック(どの科目領域でも)載っています。

<http://www.odyssey.on.ca/~elaine.coxon/rubrics.htm>

ルーブリックを使い始めるか考慮し始めたばかりの方達や、他の人たちの用語や設定を参照したい方達には、これはとても役に立つ資料です。指標が課題やカリキュラムに特定したものになるように、ルーブリックを合わせるのは常に重要ですが、このページのルーブリックは初心者にはたいへん有用です。

—Brenda

ルーブリックのディスカッション中に交わされたいくつかの考えについての、Deb のコメント。

この考えを皆に伝えるのが待ちきれません。昨日、夏期プログラムの同僚とルーブリックを作っており、必要に応じて変えられる (customizing) 指標に取り組んでいました。

大学でルーブリックに取り組むという考えも気に入りました。私は現在授業を受けており、私たちの課題用のチェックリストはありますが、実際の質に関する指標については要点を理解していません。

—Deb

Laurie は彼女のプロジェクトとそれに対応するルーブリックを示した。

Anne 様

私の読解クラスのプロジェクトにルーブリックを使用しました。私の生徒たちは理解力の領域が弱いので、彼等が読んだ小説をどれだけ理解したかに主に重点を置きます。Graphic organizers の使用以外は、strategies の使用について採点できるまでには、彼等は未だ至っていません。私たちが行ったプロジェクトの例とルーブリックを載せます。

ストーリー・キルト

Mailbag か Bookbag 誌 (両方良い雑誌ですが、どちらから採ったか忘れました) から採ったキルトの型を生徒に与えた。

- 1 番目の四角には物語の舞台を描き、描写する
- 2 番目には、彼らの一番好きな登場人物を描く
- 3 番目には、一番好きな登場人物を 2 つの文章で描写する (形容詞を用いなければならない)
- 4 番目には、小説の題名を書く

5 番目には、著者名を書く

6 番目には、話の中で一番好きな出来事を描き、1つか2つの文章で描写する

7 番目には、小説の感想を1つの文章で書く。

8 番目には、本の種類を述べる（ノンフィクション、フィクション、アドベンチャー、ミステリー等）

9 番目の要件を思い出せません（この夏、新築の校舎に移動するので、資料は全部荷物の中で、記憶が頼りです）。自分の氏名を記入するというような簡単なものだったのではないかと思います…ご自分でデザインできるはずですし、これを子供たちに手伝わせることもできます。

ルーブリック：(カテゴリーは4点が基準)

4=傑出している (outstanding job)、3=良い (good job)、2=まあまあ (fair)、1=改善が必要 (needs improvement)、0=できていない (not done)

書かれた指示に従った _____

graphic organizer を使い、キルトに貼った _____

創造性がある (キルトがカラフル) _____

クラスでの発表 (それぞれの欄を説明) _____

物語の舞台を描き、完全な文章で描写する _____

登場人物の絵を書き、形容詞を使う _____

小説の題名を書く (これはほとんどサービス点)

著者名を書く (同様サービス)

一番好きな出来事の絵を描き、それについて1つか2つの文章を書く _____

感想を完全な1つの文章で書く _____

本の種類を述べる _____

合計点/成績： ___/___

これがお役に立ちますように。生徒の理解力と能力のレベルに基づいて要件を調整できます。

—Laurie

Deb は、ルーブリックの載っているサイトのアドレスのお礼を *Brenda* に言い、自分で作るルーブリックの重要性を繰り返している。

すごいウェブ・サイトですね。ありがとう。ルーブリックを生徒と一緒に使ったことのない教師にとっては本当に役に立つでしょう。ルーブリックを使うことを考えていなかった領域に関しても、アイデアを閃かせます。しかしながら、自分で変えることに関して、生徒が主要な問題に参加すること

に関する、あなたのほかの意見と同様、自分で作るいろいろなルーブリックが最もうまくいくと考えます。

—Deb

Mary Anne は、クラスでどのようにルーブリックを実施するか、また違うアイデアを出している。

Avis 様

私の生徒たちはルーブリックを一緒に作る時に、自分自身のルーブリックを書いています。ブランクのルーブリックを作り — 見た目は3目並べの大型版のようで、3列ではなく5列あります。私の譲れない (non-negotiable) ものはすでに載せておきます。それから、彼等は自分のルーブリックのブランクを埋め、私は掲示しているものを書いていきます。

Mary Anne

Susie は、近いうちに行われる標準試験 (standardizing test) に備えて、どのようにルーブリックを使用することに生徒を携わらせたか、述べている。

今日の MiddleWeb のダイジェストは、なんてすごいディスカッションだったのでしょうか。結局、多くのアイデアを使って「ルーブリック」という新しい書類を作ってしまった。素晴らしい website を教えてくれて、Brenda に感謝します——「ルーブリックの宝庫」と言って、同僚に勧めました。

嫌な言い方 (a dirty phrase) を持ち出すのは好みませんが、学年度の末に、ルーブリックと「標準テスト」について、興味深い経験をしました。インディアナ州では、標準テストの一部は「応用技能 (Applied Skills)」と呼ばれており、法律によって問題は公表され、毎年変わります。

作文技能、数学の文章問題、など、試験のこの部分については、学校は実際の生徒の提出物を購入する選択権を有しています。「根本技能 (Essential Skills)」と呼ばれる包括的なクラスで、私の教えている第7学年生に、第6学年の成果を州の公式得点表のコピーを添えて返しました。

彼等にその成績をとった理由を調べさせました。最終的な段階として、私は昨秋の第8学年の応用技能テストをやらせました。彼らはそれを受け、さらにオプションとして採点ルーブリックを用い、自分自身の「成績付け」をしました。

彼等はとても真剣で、第6学年からの進歩 (MW プロジェクト・グループにおいて課題の変化に適合できるもの) に言及するものも数人いました。この活動の成功はうれしい驚きでした；試験準備には「徹底的に練習する (drill and kill)」ことは含まれておらず、私が期待したより思慮深く、高度なレベルの思考能力が見られました。

—Susie

MIDDLEWEB LISTSERV に参加して、自由にこのディスカッションをお続けください。
メンバーはメッセージを下記に送ってください：

middleweblest@sreb.org

[MiddleWeb Listserv Conversations Index](#) へ戻る

<http://www.middleweb.com/MWLISTCONT/MSLrubrics.html>

資料5 ルーブリックについての生徒の意見 (What Students Say About Rubrics)

ロリー・ラクロワとカレン・メインは、ともにロングビーチのカバリー・スクール (Cubberly School) の第7学年担当の教師だが、国語、社会および数学の授業でルーブリックを定期的に使用している。最近、メインとラクロワは、ルーブリックに関する生徒の意見を尋ねた。これらはいくつかの代表的な回答である。

生徒についての一般的な観察のコメント

- ・ カバリー・スクール(幼稚園から8学年までの学校)の多くの生徒が第4または第5学年以来ルーブリックを使用している。
- ・ 何人かの生徒は、ルーブリックが優れた学習の指導に役立つことを理解している。他のものは主にルーブリックで成績を連想する。
- ・ 多くの生徒が、いくつかのルーブリックの言語が過度に「特殊・専門的」であると見ている。實際上、何人かの教師は一般的なルーブリックを使用し、対象となる年齢集団用にほとんど調整しない。ラクロワとメインは、それらをミドル・スクール用によりやさしくするために、たいいてい書き直している。
- ・ ほとんどの子供は、ルーブリックが、彼らの成績の改善(必ずしも明白に現れているとは限らないが)に役立ったと信じている。

生徒の回答

生徒仲間にかねらの学習に関する意見を言うためにルーブリックを使用したか。

—「はい。英語と数学のクラスで、生徒の成績をつけるのに使用しました。それらは成績が良いか否かを決定するのに役立ちます。」

—「はい、しました。また、今、ルーブリックは皆を助け、何を学習する必要があるかを他の人々に説明するのに役立ちます。私は、他の人々のルーブリックを判定することが好きではありません。面白い時もありますが、そうでない時もあります。」

—「私は、授業の学習を正すのにルーブリックを使用しました。英語で、作文を仕上げる場合、私たちは他の生徒と組み、互いの作品を直すためにルーブリックを用います。グレードは3~6。これは数学でも行います。」

—「はい。ルーブリックを使用する時には、グレードに必要な資格が提示されているので、きちんと成績付けが出来る傾向があります。」

—「私たちは代数で使用しました。また、つい最近、科学のプロジェクトを評価するためにそれらを使用しました。」

—「私たちの先生は、私たちにルーブリックを使って他の人たちの学習のグレードをつけさせます。そうすれば、私たちはどのようにすれば良くなるかが分かり、どこで失敗したかを知ることが出来ます。それから、先生は、私たちにそれを改善させようとします。」

—「私は、ルーブリックを基にして、宿題に必要なことを教えることで、友達が宿題をするのを助けるためにルーブリックを使っています。」

—「私たちの生徒仲間の作文を見ることは楽しい。作文をよりよくするためのアイデアを互いに思いつづくので、成績付けも楽しい。」

ルーブリックが学習の改善に役立つと思いますか、思いませんか。その理由は？

—「何を忘れているか、どこが悪いのか教えてくれるので、私はどんな課題にもルーブリックを使いたい。」

—「私は、ルーブリックを使い始めてから良い成績をとるようになったので、とても助けになっていると思う。特に数学と英語が。」

—「ルーブリックは、やったことのチェックをするリストのようで、役に立っていると思う。」

—「ルーブリックは成績付けのより簡単な方法です。後ろめたさや、ひいき、決心が少なくすみません。これは成績付けのより「公平な」方法です。さらに、なぜそのグレードを得たか分かります。」

—「はい、ルーブリックを使う前は、ひどいものでした。今はなんとなく分かります。」

—「完全にルーブリックに従っていなければ、やり直してよりよくすることができます。それは、Aを得るためにまさに何をしなければならぬかを教えてくれます。」

—「ルーブリックは、あなたに期待されるものがすぐに伝えられるので、勉強を改善するのに役立ちます。」

—「課題を与えられる場合、その必要条件を見る必要があります。時々私が見落とししたものがルーブリック上にあります。ルーブリックのガイドラインによって、変更ができ、何を変更すればいいか知ることができます。」

—「私にとってのルーブリックに関する最良のことは、ルーブリックに従っていけば、成績がそこでわかることです。」

—「私が作文に使っても、誰か他の人が使っても、良くする方法を見るチャンスがあります。」

—「はい、ルーブリックは私が行うこと以上のガイドラインを与えるので、学習を改善すると思います。もし私がルーブリックなしでプロジェクトを行うことになれば、私の成績が低くなるのは確かでしょう。学んでいてそれに気づきました。私のクラスメートは同じことを感じています。ルーブリックが学習を改善しなければ、教師が使ったりしないでしょう。」

ルーブリックで一番良くないことは何だと感じますか。

—「時々、規則のうちのいくつかが非常に厳密で、作文やスペルは苦手です。私は本当にこれら(ルーブリック)が好きではありません。しかし私が本当に好きでないのは、スペリングのルーブリック(rubrick)です。というのは、スペリングは私の得意とするものではないからです。」

—「いくつかのルーブリックはすべての状況を完全にカバーするとは限りません。」

—「最悪のことは規則を変更することができないということです。例外(acceptations)はありません。」

—「私にとって、それは、ペーパーにルーブリックが要求するすべてを入れて、しかも、それはほとんど完璧で、完全に説明されなければならないことです。」

—「私がルーブリックを使用する場合、必ずしも(完全なスコアを)得るとは限りません。確かに、目の前に出ているけれど、しかし、それをすべて入れたと思ってそうではありません。先生はそう思わないかもしれません。」

—「ルーブリックに関する最悪のものは、あなたがそれに着実に従わなければ、それはあなたの仕事をだめにしかねないことです。」

- 「何を必要とするか知るまで、指示に忠実に従わなければならないこと。」
- 「それらを理解することは必ずしも容易だとは限りません。」
- 「ルーブリックを失えば、大変なことになる。」
- 「私は、最悪のことは、あまりにも規則が多いので、なんだか混乱するということだと考えます。」
- 「ルーブリックに関する最悪のことは、それらをグレードに当てはめることが困難であるということです。」
- 「最悪のことは、ルーブリックからちよつとはずれれば、スコアが落ちるということです。」
- 「通常、それは言語です。理解することは困難かもしれませんが、特に CAS2(地区テスト)ルーブリック。」
- 「私は、ルーブリックに関する最悪のことは、あなたが 3 レベルにいるとして、5 あるいは 6 まで自分をより駆り立ててなければならぬと感じるので、いやな感じですよ。」
- 「私は第 4 学年以来ルーブリックを使用しており、それが実際に非常に私を助けると言いたい。それは私の作文を改善します。私はたくさんの主題にそれらを使用しました。私が使用するべきルーブリックがなかった場合、私の作文のスコアは絶対すごく落ちます。」

ルーブリックに関する他の生徒コメント:

- 「それは、毎週出される課題についての私の成績を大きく上げました。また、私が英語でエッセイを書く場合、助けになります。ほとんどのものが要求が多すぎるのが悩みです。」
- 「私は、科学や P.E. のような他のクラスでもルーブリックを使用するべきだと思います。」
- 「馬鹿げたことに昼食でさえルーブリックがあり、いい加減うんざりです。」
- 「私は、ルーブリックが、教師が自分で考えるよりよく成績をつける助けになっていると思います。」
- 「私は、スコアに使う言葉や、そのスコアを得る方法の示し方が好きです。ガイドラインは、ポイントを得ており、そのスコアを得るためにあなたが必要とするものが明確です。」
- 「私は、ルーブリックは大事な試験だけに使われ、物語とか創造的なものには使用されるべきでないと思います。」
- 「最良のルーブリックは、あなたにあなたの仕事を終える各段階を示します。さらに、それらは、それらに従うことができるようにあなたがどのようにそれを行わなければならないかのいくつかの例を与えます。」
- 「主な利点は公平であることですが、ルーブリックは概略だけです。」
- 「最終的に、それらは、生徒が彼の成績について苦情を言うことができないように事態を公平にすることにやくだちます。また、さらに、教師が与える成績のバックアップになります。不公平な採点をされたら生徒が思う場合、自分でそれを使用することができます。」
- 「私は、もし教師が口頭で指示する代わりにルーブリックを使用すれば、教師に尋ね続ける代わりにルーブリックをただ見ればよいので、生徒がよりよい成績を得るだろうと思います。さらに、ルーブリックがあれば教師にとってもよりよいことでしょう。なぜなら、もし教師があなたを好きならばよい成績を与えることもできたり、あなたが好きでなかったならば悪い成績を与え、あなたはもうすることもできないので。しかし、あなたが何を失敗したかを指摘しなければならぬから、もしルーブリックがあれば、それらはできません。」

注) 誤字 (rubrick、acceptions) もそのまま掲載した。

<http://www.middleweb.com/CSLB2CubRub.html>

資料6 6+1トレイツ™による分析的作文評価の指針

北西地域教育研究所 (NORTHWEST REGIONAL EDUCATIONAL LABORATORY : NWREL)が開発した作文の指導と評価に有効なルーブリックの翻訳である。原文はインターネットで入手可能である

(<http://www.nwrel.org/assessment/pdf/Rubrics/6plus1traits.pdf>)。

作文を書いたり評価したりするときいくつかの重要なことを明らかにしたものである。そのいくつかの重要なこととは、「6+1トレイツ」(シックス・プラス・ワン・トレイツ)と呼んでいるように、7つのことにまとめている。すなわち、シックスとは、アイデア(構想)、オーガニゼーション(構成)、ボイス(表現)、ワード・チョイス(言葉の選択)、センテンス・フルーエンシー(文章の流暢さ)、コンベンション(文法)であり、もう一つのもは、プレゼンテーション(体裁・見栄え)である。

「セブン・トレイツ」としなかったのは、プラス・ワンのトレイト(trait)は、前のシックスとは少し異なった性質のものであるからであろう。

上記のトレイツがどの程度達成されているかを評価するための基準として、次の5つのレベル(段階)を設定している。さらに、それぞれのレベルについてAからEまたはFとして、どのような特徴があるか詳しく記述している。

5つのレベル

(5) ストロング (極めて優秀):

このトレイトを自在にあやつり、かなりの実力が認められる。良い点が多数見られる。

(4) コンピタント (優秀):

悪い部分もあるが、全体的に見ると良い部分の方が多い。少しだが、手直しが必要。

(3) デベロッピング (あと少し):

良い部分と手直しが必要な部分がほぼ同じくらい。目標レベルのほぼ中間点にいる。

(2) エマージング (努力が必要)

手直しが必要な部分が良い部分よりも多い。書き手の言いたいことは、ところどころで伺える程度。

(1) ノット・イエット (まだまだ)

本当の初心者。まだ、何の技能も見られない。

アイデアと内容（開発）

(5) 焦点が絞られており、意図が明瞭に伝わってくる。読み手の関心を逸らさない。逸話およびディテールが主題を肉付けしている。

- A. 包括範囲が限定され、扱いやすいトピックを選んでいる。
- B. トピックに関連した、効果的かつ優れたディテールによって、読み手は、予測もつかなかった貴重な情報を得ることができる。
- C. 主題を裏付ける、適度に精密なディテールが織り込まれている。
- D. 知識あるいは経験に基づき書いている様子が伺える。アイデアが斬新で独創的。
- E. 読み手の質問をあらかじめ予想し、それに答えている。
- F. 洞察力（世の中や性向を把握し、何が重要であるかを見抜く力）は、必ずしも必要ではないが、高レベルの作文能力を持っているかどうかを判断する指標になる。

(3) トピックの範囲を限定するようになってきたが、その展開の仕方がありふれている、あるいは、総括的で焦点が絞られていない。

- A. 包括範囲がやや広いトピックを選んでいるが、書き手の意図するところはわかる。
- B. 裏付けを試みているが、要点あるいは話の筋を肉付けするまでには至っていない。
- C. 中心となる考えはかなり明瞭であるが、その詳細な説明あるいは自分の中での吸収、精密化、伸展を十分に行なっていないため、深い理解あるいは強い目的意識が見られない傾向にある。
- D. 知識あるいは経験を生かして書いているようではあるが、一般的な意見ではなく、自分個人の見方を述べるのがまだ上手くできていない。
- E. 読み手側に疑問が残る。「空所を埋める」ために、より多くの情報が必要。
- F. 概してトピックから脱線していないが、明確な主題がない。まだ、自明なことを述べるにとどまり、トピックの焦点が絞りきれしていない。

(1) 現時点ではまだ、明確な意図あるいは主題がない。ディテールが概略だけあるいは欠けているため、推測でしか文章の趣旨を理解できない。この文章には、下記の問題点の1つ以上があてはまる。

- A. まだトピックを探して、ブレインストーミングをしている、あるいは、文章の主題をまだ決めていない。
- B. 情報が限定的または不明確、あるいは、長さが不十分でしりきりとんぼで終わっている。
- C. アイデアはトピックの単なる言い換え、または、ディテールにほとんど、ないしは、まったく注意を払っていない質問への答えである。
- D. 意味のある、独自の方法で、トピックを明確化しようとする試みがまだ見られない。
- E. 何もかもすべてが等しく重要だと印象を受ける。読み手は、何が重要であるか、選別するのが大変。
- F. 繰り返し同じことを言っている、あるいは、ばらばらで、行き当たりばったり、要点がはっきりしない意見の寄せ集めといった印象を与える傾向にある。

オーガニゼーション (構成)

(5) 中核をなす考えあるいは主題を強調し、際立たせるオーガニゼーション (構成) になっている。読み手の関心を引く情報の並べ方あるいは構成、提示の仕方を採用し、一気に読ませる。

- A. 読み手を惹き込む、魅力的な導入で始まり、きちんと完結していると読み手を納得させる結びで終わっている。
- B. 話の転じ方がよく練られていて、各見解がどのように繋がっているかが明確にわかる。
- C. 最適な場所にディテールが挿入されているとの印象を与える。論理的かつ効果的な順序立て。
- D. テンポがきちんと調整されている。スピードを落とし、詳細に説明すべきところと、スピードを上げてさらっと流すべきところを心得ている。
- E. (つける必要がある場合には) 表題が独創的で、主題をよく表している。
- F. オーガニゼーション (構成) の流れがとてもスムーズで、読み手にその存在をほとんど意識させない。意図と語りかける相手にあった構成を選んでいる。

(3) 構成がある程度しっかりしていて、読み手はあまり混乱せずに本文を読み進むことができる。

- A. それとわかる導入と結び。ただし、導入の部分は期待感を抱かせず、結論の部分は問題を積み残しているといった傾向が見られる。
- B. 話を上手く移行している部分も多いが、そうでない部分では、各見解のつながりがあいまい。
- C. 順序立ては幾分論理的であるものの、一貫して各見解を支えるまでには至っていない。実際、ありきたりで予想できる構成なので、本文への興味をそぐ組み立ても少なくない。
- D. テンポは比較的よく調整されているが、あまりに猛スピードで進んだり、重要ではないディテールに多くの時間を割いたりする場合がある。
- E. (つける必要がある場合には) 表題は付いているが、創造性に欠ける、あるいは、書くきっかけまたはトピックを言い換えていることがすぐにわかる。
- F. 構成が要点や話の筋を支えている部分もあるが、そうでない部分では、読み手は、話を変えたり、あれこれ変更を加えたりしたい気持ちにかられる。

(1) 明確な方向感覚がない。見解やディテール、事象がばらばら、または行き当たりばったり繋ぎ合わせたという印象を受ける。構成があるとは思えない。この文章には、下記の問題点の1つ以上があてはまる。

- A. 話を始めるきっかけとなる、きちんとした導入部も、話をまとめる、きちんとした結びもない。
- B. 各見解の繋がりがわからない、あるいは、つながりがない。
- C. 順序立てをかなり練り直す必要がある。
- D. テンポが悪い。読み手が早く読み進めたい場所がゆっくりで、ゆっくりと読みたい場所が早い。
- E. (つける必要がある場合でも) 表題がない。または、あっても、中味にあまり合っていない。
- F. 構成に問題があるため、読み手はなかなか要点あるいは話の筋を把握できない。

ボイス(表現)

(5) 个性的かつ魅力的、人を思わず惹き込む手法で、読み手に直接語りかけている。語りかける相手と意図を意識し、さらには尊重して文章を書いている。

- A. 文章の調子が、メッセージへの興味を高め、また、意図および語りかける相手にふさわしい。
- B. 読み手は、書き手と相互に繋がっていること(インタラクション)を強く感じ、言葉の後にいる人間の存在を感知する。
- C. 敢えて、全文を通して自分がどのような人間であることをさらけ出している。
- D. 説明調あるいは説得調の部分では、なぜ読み手はこれを知る必要があるのか、なぜ関心を払わなければならないのか、その理由を示すことによってトピックを前面に押し出している。
- E. 率直で个性的、魅力のある叙述的な文章で、読み手は、書き手がどのような考え方や視点を持っているのかと考え、それに反応を示さずにはいられなくなる。

(3) 書き手は誠実だが、自分のすべてを注ぎ込んでいないという印象を受ける。その結果、面白く、あるいは、好印象さえ与えるものの、人を惹き込むことができない。

- A. 語りかける相手のことは意識しているようだが、すぐそれとわかる一般論を優先させ、個人的な洞察をしていない。
- B. 真摯で人好きがするが、無難な手法でメッセージを伝えている。
- C. 読み手の興味をそそったり、読み手を大いに楽しませる、あるいは、感動させる部分は飛び飛びに1、2カ所ある程度。こうした素晴らしい部分は1行あるいは2行続くだけで、それ以上続かない傾向にある。
- D. 説明調あるいは説得調の部分は、トピックから外れていることもあるため、信憑性に欠ける。
- E. 叙述的な文章はかなりていねいに書かれているが、トピックに関する独自のあるいは個人的な見解が反映されていない。

(1) 書き手は、トピックや語りかける相手に無関心あるいはこれとかなり距離を置いているように思える。その結果、この文章には、下記の問題点の1つ以上があてはまる。

- A. 書き手は、語りかける相手に関心がない。意図した読み手にはまったく合わない文体を選んでいる。あるいは、文章が短過ぎて、ほとんどトピックの紹介しかできていない。
- B. 語り口がある種単調なため、メッセージの強弱がまるでなく、平板な文章になってしまっている。
- C. 月並みで、「冒険のない」文章。
- D. 気が抜けている、あるいは、機械的な文章。トピックによっては、技術的あるいは専門的過ぎる場合がある。
- E. トピックの展開が非常に限定的で、観点・視点がまるでない。

ワード・チョイス (言葉の選択)

(5) 言葉が意図したメッセージを、興味深く、自然にかつ正確に伝えている。力強く、魅力のある言葉。

- A. 特定のかつ的確な言葉を使っており、書き手が何を言いたいのか、それを正確に把握しやすい。
- B. イメージを描かせ、読み手の心に残る言葉とフレーズ。
- C. 言い回しが自然で、誇張がまったく見られない。言葉もフレーズも個性的かつ効果的。
- D. 印象的な言葉とフレーズがしばしば読み手の目を惹き、そして、読み手の心に残る。(その作文を思い返すと、いくつか頭に浮かぶ。)
- E. 躍動感のある動詞が文章を生き生きとしたものになっている。的確な名詞と修飾語が使われているため、文章に深みが出ると同時に、文章の意味がより明瞭にわかる。
- F. 的確であることが一見してわかる。最適な場所に最適な言葉あるいはフレーズを使おうと、注意を払っている。

(3) あまり力強さはないものの、言い回しに問題はない。書き手の意図を一般的なレベルで理解しやすい。

- A. 一般的な意味で、適切で正しい言葉を選んでいる。ただし、センスの良さや独創性があまり見られない。
- B. ありふれた言葉とフレーズを使っており、意図は伝達しているが、読み手のイメージーションをかきたてることはめったにない。とはいえ、1、2カ所、素晴らしい部分が見られる場合もある。
- C. 多彩な言い回しをしようと努力しており、表現力を高めたいという意志が伺えるものの、行き過ぎになってしまうことが少なくない(過剰な言葉の宝庫!)
- D. 受身動詞やありふれた名詞・形容詞が目立つ一方、面白い副詞が少ない。
- E. より洗練された言葉を模索することはあまりなく、「最初に頭に浮かんだ言葉」をそのまま使うケースが多い。
- F. 言葉とフレーズに問題はないが、きらりと光る部分は1、2カ所しかない。

(1) 語彙が極めて少ないため、意図を伝える言葉を探すのに悪戦苦闘している。この文章には、下記の問題点の1つ以上があてはまる。

- A. 言い回しが非常に漠然としていて(例えば、「楽しかった。」「彼女はきちんとしていた。」「素晴らしかった。」「たくさんの事をした。」など)、ごくわずかなメッセージしか伝わってこない。
- B. 読み手には「くだらないおしゃべり」としか映らない。
- C. 誤った言葉の使い方をしているため、そのミスに気が取られ、メッセージが二の次になってしまう。
- D. 語彙が極めて少ないことや、品詞の使い方のミスが多いことが、読み手の理解を妨げている。
- E. 専門用語あるいは常套句が、興味をそいだり、誤解を招いたりしている。はじめから終わりまで冗長で、読み手の興味をそいでいる。
- F. 言い回しに問題があるため、読み手はずっと書き手が何を言おうとしているのかわからない。言葉がその機能を果たしていない。

センテンス・フルーエンス（文章の流暢さ）

(5) 流れ、リズム、抑揚ともに心地よい。センテンスの組み立てが良く、バラエティーに富み、しっかりとした構造であるため、思わず声に出して読みたくなる。

- A. 意図を強調し、鮮明にするようにセンテンスが組み立てられている。
- B. センテンスは、長さ、構造ともに多彩。体言止めなどの断章（使われている場合には）が独自の味わいを添えている。会話の部分（ある場合には）が自然。
- C. 意図的にセンテンスの頭に変化を持たせているため、多様性と表現力が一段と増している。
- D. 独創的かつ最適な連結語でセンテンスと見解を結んでいるため、その前のセンテンス・見解との関連性と、そこからどのように発展しているのかがわかる。
- E. 抑揚のある文章。書き手は、言葉の意味だけでなく、響きにも考慮している。初めてでも、すぐに声に出してスムーズに読める。

(3) 一定のビートが感じられるが、音楽的というよりは楽しいあるいはビジネスライク、流れるというよりは機械的な傾向にある。

- A. 芸術的センスを生かして創られたセンテンス、あるいは音楽的なセンテンスという印象はあまり受けないが、決まりきったやり方でそれなりの成果を上げている。
- B. センテンスは通常、正しく組み立てられ、お互いに整合しており、論理的にも問題がない。
- C. センテンスの頭はすべてが似通っているわけではなく、変化を持たせようとする試みが一部見られる。
- D. 各センテンスがお互いにどのように関係しているのか知るための手がかり（例えば、しかし、従って、当然のことながら、しばらく経って、他方、具体的に言うと、例えば、次に、まず、その後、しかし結局のところ、とはいえ、などセンテンス同士を結ぶ言葉とフレーズ）を探さなければならない時がある。
- E. 声に出して読みたくなる部分もあるが、その他の部分は堅苦しい、あるいは、ぎこちない、なめらかでない、長過ぎるなどの問題がある。

(1) 読んである程度理解するためには、読み手はかなり訓練を積む必要がある。この文章には、下記の問題点の1つ以上があてはまる。

- A. センテンスに、まとまりが悪い、あるいは、散漫、ぎこちない、完全なセンテンスになっていないといった問題があり、手を加える必要がある。表現が自然に聞こえない。眠気をさそうような単調なリズム、あるいは、せわしない抑揚が見られる場合がある。
- B. 「センテンスのセンス」がほとんど、あるいはまったくない。仮に、この文章を一つのミスもないよう編集したとしても、各センテンスが整合するとは思えない。
- C. 同じ調子で始まるセンテンスが多い。しかも、その後のパターンも同じで単調になる傾向が強い（例えば、主語-動詞-目的語）。
- D. 連結語の多用（そして、そしてだから、しかしそれから、なぜならば、そしてそれから、など）あるいは連結語の欠如によって、言葉の巨大な寄せ集めになっている。
- E. 声に出して読む気が起きない。

コンベンション (文法)

(5) 書き手が一般的な文法 (例えば、スペリングや句読点、大文字、語法、慣用法、段落分け) をよく理解していることがわかる。また、文法を効果的に使い、より読みやすい文章にしている。エラーがほとんどないため、ほんの少し手を加えるだけで、すぐに刊行できるといったケースが多い。

- A. スペリングは、難解な言葉であっても、概して正しい。
- B. 句読点の使い方が正確で、独創性も見られ、内容を理解しやすい。
- C. 大文字の使用法を完璧に理解し、徹頭徹尾一つの様式を貫いている。
- D. 語法および慣用法に誤りがないため、意味が明確に伝わり、その独自のスタイルを壊すことがない。
- E. 適所で段落が分けられる傾向にあり、これが全体の構造をより強固なものにしている。
- F. 文法を駆使して、文体様式上の効果を狙うケースも見られるが、これが見事に成功している。ほとんど刊行できるほどの出来映え。

7年生以上のみ: 文章がかなり複雑で、書き手が文法を幅広く使いこなせることがわかる。これよりも学年が下の場合、その学年あるいは年齢に合った文法を自在に使えることがわかる。

(3) 限られた範囲の一般的な文法を適度に使いこなせることがわかる。文法を上手く使って、読みやすくしている部分もある反面、文法上の誤りが興味をそぎ、読みにくくしている部分もある。

- A. 一般的な言葉の場合、概ねスペリングは正しい、あるいは、妥当な表音綴りになっているが、難しい言葉になると、問題が多い。
- B. 文末では句読点が通常、正しく使われているが、文中の場合、句読点 (カンマ、アポストロフィー、セミコロン、ダッシュ、コロン、カッコ) がなかったり、誤って使われたりしていることがある。
- C. 大半の語で、大文字が正しく使用されているが、より高度なこの使用法になると、これを上手く使いこなしている部分は少ない。
- D. 語法あるいは慣用法に問題がある部分も見られるが、意味を誤解させるほど深刻なものではない。ただし、語法・慣用法にまるで誤りがなく、あるいは、常に的確に用いられているとは限らないケースもある。
- E. 段落分けを試みているが、分けるべきところで分けていなかったり、分けるべきではないところで分けたりしている部分がある。
- F. 刊行するためには、ある程度の編集 (ここを少し、あそこを少し) をして、推敲する必要がある。

(1) スペルや句読点、大文字、慣用法、語法、段落分けの誤りが度々、読み手の興味をそぎ、文章を読みづらいものになっている。この文章には、下記の問題点の1つ以上があてはまる。

- A. スペリング・ミスが非常に多く、一般的な言葉でさえもよく間違えている。
- B. 句読点 (文末の句読点を含む) の付け忘れ、使い方の誤りが少なくない。
- C. 大文字の使用法に統一性がない。一番簡単なルールに限り、正しい使用法を理解していることがわかる。
- D. 語法あるいは慣用法の誤りが目立って多く、意味の解釈に悪影響を与えている。
- E. 段落分けをしていなかったり、規則に従わなかったりしている。また、あまりに頻繁 (センテンス毎) に行なうため、本文の構造との関連性がない。
- F. 読み手はまず解読するため、次に意味を理解するため、都合2回読まなくてはならない。刊行するためには大幅な編集 (実際、すべての行) をして、推敲する必要がある。

プレゼンテーション (体裁・見栄え) (オプションル)

(5) 読み手にメッセージを理解し、これに心を通わせることを促す書式とプレゼンテーション (体裁)。視覚的にも素晴らしい。

- A. 手書きの場合 (筆記体か活字体)、文字の傾き加減が一定しており、形がはっきりしていて、各単語の間のスペースが均等で、読みやすい。
- B. ワードプロあるいはパソコンを使用の場合、読み手に本文を読みたいという気を起こさせるフォントとフォントのサイズを使っている。
- C. 余白 (スペーシング、マージンなど) の使い方が上手く、読み手は、他に注意を散らすことなく、本文とメッセージにすぐに集中できる。余白と本文のバランスが絶妙である。また、フォーマットもこの文章の意図に合っている。
- D. 表題および見出し、ページ番号、太い黒丸、そして、(必要な場合) スタイルシート (書式要項) を正しく使っていることを証明する資料に工夫を凝らし、読み手が読みたいと思う情報および部分をすぐに探し出せるようにしてある。こうしたマーカー (目印となるもの) によって、情報のハイアラーキー (階層構造) もよくわかる。
- E. 意図および語りかける相手に応じて、本文に図解や図表、グラフ、地図、表などが効果的に組み込まれており、さらに本文とこうした図や表などが整然と並べられている。このような図や表などは、本文の重要な情報あるいは要点を裏付けたり、具体的に分かりやすく説明したりする上で効果を上げている。

(3) メッセージの理解を助けるフォーマットを採用している。

- A. 手書きの文字は読みやすいが、文字の形と傾き加減、スペーシングが一定していない場合があり、読みやすさの点で、単語あるいは節によってむらが見られる傾向にある。
- B. フォントとフォントサイズの実験的試みは、成功している部分と、うるさく目障りに感じられる部分とがあり、その効果にばらつきが見られる。
- C. マージンを取っているのかもしれないが、両端まで文字がびっしりとつまっている場合がある。スペーシングは統一されているが、取るスペースを変えた方が読みやすくなると思われる (例えば、シングル・スペース、ダブル・スペース、トリプル・スペースなど)。
- D. マーカー (目印となるもの) は幾分あるものの (表題、ページ番号、太い黒丸、見出しなど)、読み手が主題部分を見つける手助けになるよう、最大限の工夫がなされているとは言えない。
- E. 図や表などを本文に組み込もうと努力してはいるが、その脈絡があまり認められないケースが多い。

(1) プレゼンテーション (体裁、見栄え) に関連した問題によって、読み手が誤ったメッセージを受け取ってしまう。

- A. 文字は傾き加減が一定していない、形が統一されていない、あるいは不適切で、スペーシングもバランスが悪い、または、まるでスペーシングがされていない場合もあり、本文を読み、かつ、理解することが非常に難しい。
- B. 複数の種類と大きさのフォントを使うといった信じられないことまでしている。これが、読み手の興味をそぐ一番の原因となっている。

- C. スペースをいい加減にしているため、読み手を混乱させる。余白がほとんど、あるいはまったくないといたケースもある。
- D. マーカー（表題、ページ番号、太い黒丸、見出しなど）がないため、各節がどのようにつながっているのか、本文がなぜこのような構造を取っているのかが、読み手にはわからない。
- E. 図や表が、中核をなす見解を裏付けたり、より詳しく説明したりする役割を果たしていない。逆に、誤解を招いたり、判読できなかつたり、あるいは複雑過ぎて理解できないといった場合もある。

(<http://www.nwrel.org/assessment/pdf/Rubrics/6plus1traits.pdf>)

7 口頭発表のルーブリック

氏名 _____ 日付 _____

クラス _____

	特に優秀	優秀	満足がいく	初歩的
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題に明確に関連する豊富な資料 ・ 論点が明白で全ての事実が主題を裏付けている ・ 変化に富んだ資料の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題に関連した十分な情報 ・ 多くの優れた点があるが、バランスに欠け、変化に乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題との関連が明確でない情報が多量にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題が不明確 ・ 主題に全く関連のない情報がある
論理的 一貫性 及び 構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題が明確に述べられ、展開されている ・ 具体的な例が的確で、主題を明確に展開している ・ 結論が明確である ・ コントロールできている ・ まとまって淀みがない ・ 流れが良い ・ 簡潔だが途切れ途切れではない ・ 優れた構成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大半の情報が論理的順序にかなって提示されている ・ 概ね良く構成されているが、着想や表現手段の間の流れを良くする必要はある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概念と着想の結びつきが希薄である ・ 明確な流れに欠ける ・ 展開・構成がぎこちない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表がぎこちなく、まとまっていない ・ 流れが悪い ・ 主題の展開が不明瞭 ・ 明白な論理的整合性に欠けた発表
創造性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変独創的な題材の提示 ・ 意外性を最大限生かしている ・ 聞き手の注意を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくらか独創性が見られる ・ 多様性に富み調和が取れた資料/表現手段 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性に乏しい、もしくは皆無 ・ 提示された題材が独創性に乏しいか、もしくは説明不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性が乏しいか、皆無で繰り返しが多い ・ マルチメディアの使用が不十分
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ マルチメディア資料のバランスのとれた使用 ・ 主題の展開に適した使い方がされている ・ 表現手段の使い方が多様で適切である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マルチメディアの使用が多様性に乏しく、主題との関連性があまりない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マルチメディア資料の使用がぎこちない ・ 表現手段の移行がスムーズでない ・ マルチメディアが主題と関連しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マルチメディアの使用が乏しいか、全くない、又は、効果的でない ・ 資料の使い方がアンバランス—多すぎるか不十分
話術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち着いた、明確な発音 ・ 程よい声の大きさ ・ 一定した速さ ・ 良い姿勢とアイコンタクト ・ 熱意 ・ 自信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明確な発音だが、あまり洗練されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくらか口籠もる ・ アイコンタクトが不足 ・ 速さが一定でない ・ 表情が乏しいか無表情 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声が聞き取れないか、大きすぎる ・ アイコンタクトがない ・ 遅すぎるか速すぎる ・ 話手に熱意がみられず一本調子
聞き手の 反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表に聞き手を巻き込んだ ・ 創造的に要点が述べられた ・ 終始聞き手の注意を捉えていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実何らかの興味を引く"ひねり"を添えて提示した ・ 聞き手の注意を大部分捉えていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくらかの関連する事実はあるが、論題からはずれ、聞き手の関心を失った ・ ほとんどの事実提示に創造力が乏しいか皆無 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つじつまが合わない ・ 聞き手が関心を失い、発表の要点がつかめなかった
発表の 長さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた時間プラスマイナス2分以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた時間プラスマイナス4分以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた時間プラスマイナス6分以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長すぎるか短すぎる ・ 決められた時間を10分かそれ以上、オーバー、もしくは不足

8 Web ページのループリック

得点	5～4	3～2	1～0
着想と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・情報は正確かつ最新 ・着想は主に一次情報源から得ている ・著作者の知識力・洞察力が表現されている ・技術の効果的使用が示されている ・全情報が全体目的に関連している 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が不明瞭な場合がある ・一次情報源を使用しているか必ずしも明確ではない ・内容の関連性が明確でない場合がある ・全体の文脈から遊離した内容がある ・情報の妥当性を確認できない ・明確な目的が示されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が不十分又は不正確 ・情報は一次情報源からのものではない ・情報に全体的関連性がほとんど若しくは全くない ・情報の価値が不明瞭 ・情報の妥当性を確認できない ・目的意識・主題の欠如
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問者をひきつけるにたるオープニング・ページ ・細部にわたり論理的かつ効果的 ・ページレイアウトは分かりやすい ・アイデアを辿りやすい ・各ページの切り替えが明確である ・ページを辿りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ページ構成に一貫性がない ・順序が整っていない ・不完全なページがある ・リンクされていないものがある；目的の欠如 ・セクションの関連性があいまいである ・ページ移動に際し、迷わせたり、不安感を与えたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問者への案内がない ・順序が不明確 ・ページに終結がない ・リンクへの焦点がない ・ページに一貫性がない ・整理されておらず見にくい
言語と約束事	<ul style="list-style-type: none"> ・構成体系が明確かつ一貫している ・正確な文法・語法 ・正しい句読点 ・単語のつづりはほとんど正確 ・編集はほとんど若しくは全く不必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落は長い若しくは不完全 ・文法・語法に多少の難点あり ・文章内の句読点が欠如若しくは不正確な場合がある ・単語のつづりはだいたい正確 ・多少の編集が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落構成がない ・相当の文法・語法の誤り ・句読点の誤りが多い ・単語のつづり間違いが度々ある ・かなりの編集が必要
提示	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ・サイトははっきり確認される；見つけやすい ・レイアウトが明瞭で辿りやすい ・背景と文章がマッチしている ・首尾一貫したグラフィックの使用 ・主目的に沿ったマルチメディアの使用 ・リンクが適切である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ・サイトは見つけやすい ・ほとんどのページのレイアウトは辿りやすい ・背景と文章がマッチしていない ・グラフィックの使用が不統一又は不適當 ・マルチメディアの使用が効果的ではない ・リンクの使用が不明瞭 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ・サイトは見つけにくい ・レイアウトは見にくく不適切 ・背景と文章がマッチしていない ・グラフィックが単なる装飾若しくは混乱させる ・マルチメディアが主題と無関係 ・無関係のリンクが多すぎるか、またはリンクが少なすぎる
技術面	<ul style="list-style-type: none"> ・リンクが適正に機能している ・グラフィックが最大限の効果をあげている ・全てのブラウザで見られる ・テキストのみのモードは作動する ・マルチメディア関連は良好に作動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正に機能しないリンクがある ・グラフィックは概ね効果をあげている ・ページはすべてのブラウザには対応していない ・テキストのみのモードは改善の余地がある ・マルチメディア関連は概ね問題なく作動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リンクが機能しない ・グラフィックの効果がない ・特殊なブラウザが必要 ・テキストのみのモードが作動しない ・マルチメディア関連は作動しない

<http://www.ux1.eiu.edu/~cfmg/web.htm>

平成 13・14 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）研究成果報告書

客観的な評価をめざすルーブリックの研究開発

平成 15 年 3 月 発行

研究代表者 河合 久

国立教育政策研究所研究企画開発部
〒153-8681 東京都目黒区下目黒6-5-22

印刷者 チヨダクレス株式会社